

2015年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MONBUKAGAKUSHO:MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2015

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM

日本への留学を検討されている皆さんに
To those of you considering studying in Japan

1. 日本語・日本文化研修留学生の研修プログラムは、54 校の国立大学、1 校の公立大学、19 校の私立大学で学ぶことが可能です。

In the program for “Japanese studies students”, there are 55 national universities, 1 public university, and 19 private universities from which you may choose.

2. 各大学の研修プログラムは、大学の特徴、個性、地域・文化を活かした内容となっています。コースガイドに掲載されている内容を十分に確認し、自分の学びたいこと、研究したいことが実現できる大学を選択してください。

Each university has a different program according to its characteristic or local context/culture. Please read the course guide carefully and select a university that offers a program that suits your interest.

3. 具体的な研修内容や単位認定に必要なカリキュラムの内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。

If you have questions during the selection of a university, such as issues concerning the content of the program or accreditation of credits, please contact the university directly.

4. また、日本への留学について知りたいことがありましたら、「日本留学ポータルサイトーGateway to Study in Japanー」で様々な情報を提供していますのでご覧ください。

If you would like to know more about studying in Japan, you may find relevant information at the portal site “Gateway to Study in Japan” at <http://www.g-studyinJapan.jasso.go.jp/en/>

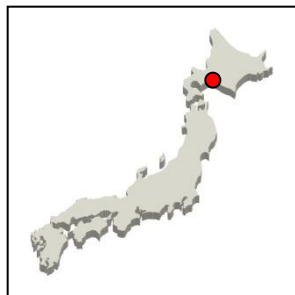
5. 皆さんに、日本でお会いできることを楽しみにしています。

We look forward to seeing you in Japan.

番号 NO.	大 学 名 Name	所 在 地 Location	掲載ページ Page	番号 NO.	大 学 名 Name	所 在 地 Location	掲載ページ Page
	国立大学 National University						
1	北海道大学 Hokkaido University	北海道札幌市 Sapporo-shi,Hokkaido 1	21	東京学芸大学 Tokyo Gakugei University	東京都小金井市 Koganei-shi,Tokyo 113
2	北海道教育大学 Hokkaido University of Education	北海道札幌市 等 Sapporo-shi,Hokkaido etc. 7	22	一橋大学 Hitotsubashi University	東京都国立市 Kunitachi-shi,Tokyo 119
3	弘前大学 Hirosaki University	青森県弘前市 Hirosaki-shi,Aomori 11	23	富山大学 University of Toyama	富山県富山市 Toyama-shi,Toyama 125
4	岩手大学 Iwate University	岩手県盛岡市 Morioka-shi,Iwate 15	24	金沢大学 Kanazawa University	石川県金沢市 Kanazawa-shi,Ishikawa 131
5	東北大学 Tohoku University	宮城県仙台市 Sendai-shi,Miyagi 21	25	福井大学 University of Fukui	福井県福井市 Fukui-shi,Fukui 137
6	秋田大学 Akita University	秋田県秋田市 Akita-shi,Akita 27	26	岐阜大学 Gifu University	岐阜県岐阜市 Gifu-shi,Gifu 143
7	山形大学 Yamagata University	山形県山形市 Yamagata-shi,Yamagata 33	27	静岡大学 Shizuoka University	静岡県静岡市 Shizuoka-shi,Shizuoka 149
8	宮城教育大学 Miyagi University of Education	宮城県仙台市 Sendai-shi,Miyagi 39	28	名古屋大学 Nagoya University	愛知県名古屋 Nagoya-shi,Aichi 155
9	茨城大学 Ibaraki University	茨城県水戸市 Mito-shi,Ibaraki 45	29	三重大学 Mie University	三重県津市 Tu-shi,Mie 161
10	宇都宮大学 Utsunomiya University	栃木県宇都宮市 Utsunomiya-shi Tochigi 49	30	京都大学 Kyoto University	京都府京都市 Kyoto-shi,Kyoto 167
11	群馬大学 Gunma University	群馬県前橋市 Maebashi-shi,Gunma 55	31	京都教育大学 Kyoto University of Education	京都府京都市 Kyoto-shi,Kyoto 173
12	埼玉大学 Saitama University	埼玉県さいたま市 Saitama-shi,Saitama 61	32	大阪大学 Osaka University	大阪府吹田市 Suita-shi,Osaka 179
13	千葉大学 Chiba University	千葉県千葉市 Chiba-shi,Chiba 67	33	大阪教育大学 Osaka Kyoiku University	大阪府柏原市 Kashiwara-shi,Osaka 185
14	横浜国立大学 Yokohama National Univeristy	神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa 73	34	神戸大学 Kobe University	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo 191
15	信州大学 Shinshu University	長野県松本市 Matsumoto-shi,Nagano 79	35	奈良教育大学 Nara University of Education	奈良県奈良市 Nara-shi,Nara 197
16	新潟大学 Niigata University	新潟県新潟市 Niigata-shi,Niigata 83	36	奈良女子大学 Nara Women's University	奈良県奈良市 Nara-shi,Nara 203
17	筑波大学 University of Tsukuba	茨城県つくば市 Tsukuba-shi,Ibaraki 89	37	和歌山大学 Wakayama University	和歌山県和歌山市 Wakayama-shi,Wakayama 207
18	上越教育大学 Joetsu University of Education	新潟県上越市 Joetsu-shi,Niigata 95	38	兵庫教育大学 Hyogo University of Teacher Education	兵庫県加東市 Kato-shi,Hyogo 213
19	お茶の水女子大学 Ochanomizu University	東京都文京区 Bunkyo-ku,Tokyo 101	39	鳥取大学 Tottori University	鳥取県鳥取市 Tottori-shi,Tottori 219
20	東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies	東京都府中市 Fuchu-shi,Tokyo 107	40	島根大学 Shimane University	島根県松江市 Matsue-shi,Shimane 225
				41	岡山大学 Okayama University	岡山県岡山市 Okayama-shi,Okayama 231

番号 NO.	大 学 名 Name	所 在 地 Location	掲載ページ Page
42	広島大学 Hiroshima University	広島県東広島市 HigashiHiroshima-shi, Hiroshima 237
43	山口大学 Yamaguchi University	山口県山口市 Yamaguchi-shi,Yamaguchi 243
44	香川大学 Kagawa University	香川県高松市 Takamatsu-shi,Kagawa 249
45	高知大学 Kochi University	高知県高知市 Kochi-shi,Kochi 253
46	九州大学 Kyushu University	福岡県福岡市 Fukuoka-shi,Fukuoka 259
47	福岡教育大学 Fukuoka University of Education	福岡県宗像市 Munakata-shi,Fukuoka 265
48	佐賀大学 Saga University	佐賀県佐賀市 Saga-shi,Saga 269
49	長崎大学 Nagasaki University	長崎県長崎市 Nagasaki-shi,Nagasaki 275
50	熊本大学 Kumamoto University	熊本県熊本市 Kumamoto-shi,Kumamoto 281
51	大分大学 Oita University	大分県大分市 Oita-shi, Oita 287
52	宮崎大学 University of Miyazaki	宮崎県宮崎市 Miyazaki-shi,Miyazaki 293
53	鹿児島大学 Kagoshima University	鹿児島県鹿児島市 Kagoshima-shi,Kagoshima 297
54	琉球大学 University of the Ryukyus	沖縄県西原町 Nishihara-cho,Okinawa 303
公立大学 Public University			
55	神戸市外国語大学 Kobe City University of Foreign Studies	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo 309
私立大学 Private University			
56	青森中央学院大学 Aomori Chuo Gakuin University	青森県青森市 Aomori-shi,Aomori 315
57	千葉科学大学 Chiba Institute of Science	千葉県銚子市 Choshi-shi,Chiba 321
58	慶應義塾大学 Keio University	東京都港区 Minato-ku,Tokyo 327
59	順天堂大学 Juntendo University	東京都文京区 Bunkyo-ku,Tokyo 333

番号 NO.	大 学 名 Name	所 在 地 Location	掲載ページ Page
60	上智大学 Sophia University	東京都千代田区 Chiyoda-ku,Tokyo 339
61	大東文化大学 Daito Bunka University	東京都板橋区 Itabashi-ku,Tokyo 345
62	法政大学 Hosei University	東京都千代田区 Chiyoda-ku,Tokyo 351
63	立正大学 Rissho University	東京都品川区 Sinagawa-ku,Tokyo 357
64	早稲田大学 Waseda University	東京都新宿区 Shinjyuku-ku,Tokyo 363
65	創価大学 Soka University	東京都八王子市 Hachioji-shi,Tokyo 369
66	南山大学 Nanzan University	愛知県名古屋市中区 Nagoya-shi,Aichi 375
67	北陸大学 Hokuriku University	石川県金沢市 Kanazawa-shi,Ishikawa 381
68	愛知淑徳大学 Aichi Shukutoku University	愛知県長久手市 Nagakute-shi,Aichi 387
69	京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies	京都府京都市 Kyoto-shi,Kyoto 393
70	同志社大学 Doshisha University	京都府京都市 Kyoto-shi,Kyoto 399
71	立命館大学 Ritsumeikan University	京都府京都市 Kyoto-shi,Kyoto 405
72	大阪樟蔭女子大学 Osaka Shoin Women's University	大阪府東大阪市 Higashiosaka-shi,Osaka 411
73	神戸女子大学 Kobe Women's University	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo 417
74	山陽学園大学 Sanyo Gakuen University	岡山県岡山市 Okayama-shi,Okayama 421



北海道大学

HOKKAIDO UNIVERSITY

【北海道】

日本語・日本文化に関する研究・調査活動に役立つ日本語能力の育成と、研究に必要な基礎知識、方法論・技能等の修得・運用を通じた日本語・日本文化理解を目的とするコースであり、プログラムの中で受講生の日本語能力の向上を図り、また、日研選択科目、多文化交流科目、国際交流科目の履修や、後半においては「自主研究」を履修する学生に対して指導教員が受講生の専攻分野に応じるなど、日本文化・社会についての多様な指導を行う。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

北海道大学は、我が国における最初の高等農事教育機関として1876年に開設された札幌農学校に始まります。開設当時、札幌農学校は米国マサチューセッツ農科大学長であるウィリアム・S・クラーク博士を迎え、豊かな教養と高度の知識・技術を教授されました。クラーク博士の“Boys, be ambitious”の言葉に代表されるフロンティア・スピリットは、開学以来130年余にわたって本学の建学精神として受け継がれています。1919年、医学部が設置されると同時に従来の農科大学は農学部となり、その後、工学部、理学部等が設置され理科系の総合大学へと発展しました。1947年、文科系の学部が設置され初めて現在の「北海道大学」という名称が誕生、2年後の1949年には、新制の北海道大学が発足し、7学部1教養学科が設置されました。1953年には新制の大学院が設置され、現在12学部、18の大学院及び26の研究・センター等を有する我が国有数の総合大学です。

学部名：

文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・医学部・歯学部・薬学部・工学部・農学部・獣医学部・水産学部

教員数：2,057名

学生数：学部学生 11,649名、大学院学生 6,195名、計 17,844名



② 国際交流の実績

(2014年5月1日現在)

大学間交流協定数：39カ国・地域、145協定・151機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

留学生受入実績：2014年 1,456名(80カ国・地域)
2013年 1,384名(81カ国・地域)
2012年 1,347名(86カ国・地域)

日本語・日本文化研修生受入実績：2014年 50名
2013年 37名
2012年 35名

④ 地域の特徴

北海道大学は、日本の北部、豊かな自然に恵まれた北海道にあります。大学のメインキャンパスは札幌の市街地にあり、美しい都市において必要なもののほとんどは、徒歩圏内にあります。港町である函館市にもう一つのキャンパスを持つ北大は、まさに日本の北方圏における革新的なフロンティアです。

○北海道大学へのアクセス：



■コースの概要

① コースの特色

日本語・日本文化の双方に関する研究・調査活動に役立つ日本語能力の育成と、研究に必要な基礎知識、方法論・技能等の修得・運用を通じた日本語・日本文化理解を目的とするコースであり、1年間のプログラムの中で受講生の日本語能力の向上を図り、また、後半においては「自主研究」を履修する学生に対して指導教員が受講生の専攻分野に応じて、研究レポート作成及び研究発表遂行を目標とした個別の研究指導を行うことを特色としています。

② 受入定員(2014年度実績)

30名(大使館推薦17名、大学推薦13名)

③ 受講希望者の資格、条件等

受入の資格・条件としては、以下の全ての要件を満たすこととします。

a. 身分及び専攻

外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化に関する専攻課程を主専攻として履修している者。(ただし、1年生を除く)

b. 日本語能力

申し込み時に、日本語能力が中級以上に達している者(日本国際教育協会が実施する「日本語能力試験」N3以上またはこれと同等の日本語能力を有する者)。日本語が初級レベルの者は出願を認めません。なお、渡日後、日本語能力が初級であると判定された者はコースを修了できないので、注意してください。

c. 学業成績

大学における学習成績が上位の者。

④達成目標

- a.「話す・聞く・書く・読む」のそれぞれの技能において、各自が自己の目標を達成できるような日本語運用力を身につけること。
- b.各自の研究分野において、まとまった成果が発信できるような知見・日本語力を獲得すること。

⑤研修期間

2015年9月1日～2016年8月31日
(冬季休業, 春季休業, 夏季休業及び自主研修期間を含む)

⑥研修科目の概要

内容は、日本語を学習する選択必修科目群、日本語・日本文化に関する講義を行う選択科目群、研究レポート作成を含む自主研究である自由科目の三つの科目区分より構成されます。
※プログラムの単位化に向けて学内制度の整備中のため、それに併せてカリキュラムも改編予定。

(1) 授業科目名, 区分及び時間数

a. 選択必修科目 (2014年11月現在)

授業科目区分	授業科目名	時間数(第1期)	時間数(第2期)
選択必修科目	中級文法	30又は60	30又は60
	上級文法	30	30
	中級漢字語彙	60	60
	上級漢字語彙	30	30
	中級読解	30	30
	上級読解	30	30
	中級文章表現	30	30
	上級文章表現	30	30
	中級口頭表現	60	60
	上級口頭表現	60	60
	中級聴解	30	30
	上級聴解	30	30

b. 選択科目 (2014年11月現在)

授業科目区分	授業科目名	時間数(第1期)	時間数(第2期)
選択科目	日本語・日本文化に関する科目		
	日本語学概論	30	
	日本語の発音	30	
	日本語の文法	30	
	日本語の語彙		30
	日本語の表記		30
	日本語の歴史		30
	日本語研究	(不定)	(不定)
	比較文化論	30	
	日本の歴史・地理	30	
	日本の政治・経済	30	
	日本の文学・芸術	30	
	日本の社会・文化	30	
	日本文化研究	(不定)	(不定)
	特別講義	120以内	

c. 自由科目

授業科目区分	授業科目名	時間数(第1期)	時間数(第2期)
自由科目	自主研究		30

【研修科目に関する補足事項】

- 第1期は9月から3月まで, 第2期は4月から8月までとします。
- 選択必修科目の履修方法は, 第1期及び第2期を通して, 300時間以上を履修すること。
- 第1期及び第2期を通して, 選択必修科目及び選択科目を合わせて540時間以上修得すること。
- 選択科目のうち別に定めるものについては, 全学教育科目又は各学部で開講される専門科目の履修をもって, 当該選択科目の履修に代えることができます。
- 留学生センター長は, 教育上有益と認めるときは, 前号の規定により履修する授業科目のほかに, 全学教育科目又は各学部において開講される専門科目または国際交流科目の履修を許可することがあります。
- 前号の規定により履修した授業科目は, 選択科目の特別講義の所定の時間数を履修したものとみなします。ただし, その時間数は, 120時間を超えないものとします。

(2)授業内容 (2014年11月現在)

a.選択必修科目:

- ・「中級／上級文法」
既習の文型や表現を整理し, 日常会話や文章表現に必要な文法項目を習得する。
- ・「中級／上級漢字・語彙」
読み物などを通じて漢字習得・語彙力を伸ばす。
- ・「中級／上級読解」
新聞・雑誌・単行本などの生教材を通じて読解力を伸ばす。
- ・「中級／上級文章表現」
適切な文型や表現を習得し, 手紙・メール・レポート・論文などの学術的な文章を書く力を身につける。
- ・「中級／上級口頭表現」
大学内外の様々な場面で必要な口頭表現能力を身につける
- ・「中級／上級聴解」

日常生活で耳にする日本語の話し言葉の音声的な特徴を理解し, 慣れる。

※各科目の授業概要は, 下記によりホームページで閲覧が可能です。

北海道大学ホームページ

- > 留学生センター
- > コース・プログラム
- > 日本語コース
- > 一般日本語コース
- > 授業概要



b.自由科目「自主研究」:

第2期のみ開講される。受講生の専攻分野・研究課題に応じて指導教員より個別に指導・助言を受けることを通して, 研究のための方法・技能等を習得し, 研究レポート作成を遂行します。作成したレポートは研究成果を示す「レポート集」として刊行します。



(3)コース及びクラスの形態

a. コース形態

北海道大学留学生センター内に設置されたコースであり, 受講生は入学後1年間を通してこのコースで指導を受けます。

b.クラスの形態

選択必修科目のみ, 入学後に実施するプレースメントテストにより, 日本語能力別に中級レベル及び上級レベルのクラスを受講します。初級レベルと判断された場合は, 初級レベルのクラスの受講となるため, 修了証書は発行されません。



⑦年間行事

(第1期:9月～3月)

9月中旬～10月初旬:

面接・プレースメントテスト, 新入生オリエンテーション

10月初旬:

入学式, 第1期授業開始

12月末～1月初旬:

冬季休業

2月中旬:

留学生歓迎・送別懇談会

(第2期:4月～8月)

4月10日頃:

第2期授業開始

6月第1木曜日から日曜日まで:

大学祭

8月:

修了式・修了祝賀会



⑧指導体制

(1)専任教員

氏名	所属	職名	専攻
山下 好孝	留学生センター	教授	日本語学・スペイン語
小林 由子	留学生センター	教授	日本語教育・学習科学
中村 重穂	留学生センター	准教授	日本語教育・意味論
小河原 義朗	留学生センター	准教授	日本語教育
鄭 惠先	留学生センター	准教授	日本語学・社会言語学
山田 智久	留学生センター	准教授	日本語教育・社会教師論
山田 悦子	留学生センター	准教授	日本語教育・異文化間教育
伊藤 孝行	留学生センター	准教授	日本語教育・日本語学

(2)個別指導

a.学業面

コース・コーディネーターが必要に応じて個別指導を行います。第2期(2016年4月～2016年8月)に「自主研究を受講する学生については各学生の指導教員が毎週1回個別指導を行います。

b.生活面

1年間を通して、国際本部のカウンセラーが必要に応じて相談業務に当たります。

⑨コースの修了要件

第1期・第2期を通じて、必修科目、選択必修科目及び選択科目を合わせて540時間以上を修得することを修了要件とし、この要件を満たした者には修了証書を授与します。

※単位化された場合、時間数は単位に換算されます。

上記のプレースメントテストにおいて初級レベルと判断された者は、初級クラスでの受講となり、修了要件を満たさないため、修了証書は発行されません。

※単位認定、単位互換等について

各期末に学生に対して成績表を交付するとともに、コース終了後、成績証明書を交付します。

■宿 舎

北海道大学には、霜星寮(単身女子)、北大インターナショナルハウス(単身、夫婦、家族)の宿舎があり、日本語・日本文化研修生は上記のいずれかへの入居が可能となっています。

単身用宿舎月額:4,700円～25,000円



■修了生のフォローアップ

修了生は、出身大学の学部に戻り、本コースにおける日本語・日本文化に関する研修成果を生かし、卒業に向けて学習を継続することになります。

本コース修了生の中には、出身大学を卒業後、日本に戻ってくる人も多くいます。日本で就職した者や本学の大学院修士課程の学生として在籍している者も少なくありません。なかには、本学の教員として採用されている者もいます。

■問い合わせ先

大学所在地:

〒060-0815 札幌市北区北15条西8丁目

担当部署:

北海道大学国際本部国際教務課

TEL:

+81-11-706-8058

FAX:

+81-11-706-8067

E-MAIL:

rkouryu@oia.hokudai.ac.jp

大学のホームページ:

<http://www.hokudai.ac.jp/>

日研コースのホームページ

<http://www.isc.hokudai.ac.jp/www.ISC/cms/cgi-bin/index.pl>

北海道大学留学生センターのホームページ

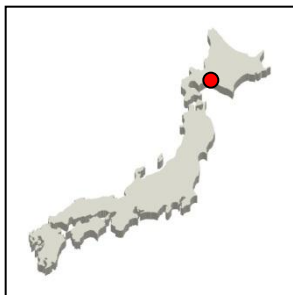
>コース・プログラム>日本語・日本文化研修

コース

担当教員:

小林 由子





北海道大学

HOKKAIDO UNIVERSITY

(Hokkaido)

The objectives of this program are:

- (1) to improve students' Japanese language proficiency in order to enable them to interact with Japanese speakers and to conduct research in Japanese;
- (2) to acquire basic knowledge and methodologies for Japanese studies – particularly relating to Japanese general and applied linguistics;
- (3) to gain a deeper understanding of Japanese language, culture and society through various courses – In the second semester (April – August), students can study a research topic in their field of specialty and complete a final report under the guidance of a supervisor.

University Overview

1. Outline and characteristics of Hokkaido University

Hokkaido University began as Sapporo Agricultural College, which was founded in 1876 as the first educational institution for agricultural studies in Japan. The College was also the first institution in Japan to grant bachelor's degrees.

On its establishment the College invited Dr. William S. Clark, then president of Massachusetts Agricultural College in the United States, to be its Vice President. From its inception the College offered an education stressing cultural richness as well as advanced knowledge and skills. The frontier spirit of the time, echoed in Dr. Clark's farewell words "Boys, be ambitious", has been inherited as the spirit of foundation of the University throughout its over 130 years' history. In 1949 Hokkaido University underwent major reforms to become a university with seven faculties and one department of general education, and it has since developed into one of the most distinguished universities in Japan.

The University currently consists of 12 faculties, 18 graduate schools, and 26 research institutes and centers, and has 2,057 academic staff, 11,649 undergraduate and 6,195 graduate students.



2. International Academic Exchange

(As of May 1, 2014)

Exchange Agreements: 145 Agreements,
151 Universities/Institutions in 39 Countries / Regions

3. Number of Overseas Students

- Total : 1,456 (from 80 countries) in 2014
1,384 (from 81 countries) in 2013
1,347 (from 86 countries) in 2012

- Japanese Language and Culture Studies Students:
50 (2014–2015)
37 (2013–2014)
35 (2012–2013)

4.Characteristics of the area

Hokkaido University is located on the island of Hokkaido, in the northern part of Japan which is rich in nature. The stunning main campus is located in downtown Sapporo, within walking distance of almost everything the beautiful city has to offer. With an additional campus in the coastal city of Hakodate, Hokudai is the frontier of real innovation in northern Japan.



Outline of the Program

1. Characteristic objectives of the program

The objectives of this program are:

- (1) to improve students' Japanese language proficiency in order to enable them to interact with Japanese speakers and to conduct research in Japanese;
- (2) to acquire basic knowledge and methodologies for Japanese studies – especially relating to Japanese general and applied linguistics;
- (3) to gain a deeper understanding both of Japanese language and culture. In the second semester (April – August), students can study a research topic in their field of specialty and complete a final report under the guidance of their supervisor.

2. Number of students accepted: Total 30
Embassy 17, University 13

3. Qualifications of applicants:

Applicants must meet the following conditions:

a. Status and field of specialty:

Applicants must be regular students in an undergraduate program at an overseas university. Applicants must be studying Japanese language or Japanese culture as their academic major. (First-year students are not eligible to apply.)

b. Competence in Japanese language

Applicants must have passed N3 (or higher) of the Japanese Language Proficiency Test or have the equivalent or higher proficiency in the language at the time of application. Applications from beginners will not be accepted. Any students who are found to have inadequate language skills after arrival will not be able to complete the course.

c. Academic record:

Applicants must possess a good academic record at university level.

4. Course goals:

- a. To acquire sufficient Japanese proficiency for students to achieve their own goals in the skills of “Speaking”, “Listening”, “Writing” and “Reading”.
- b. To acquire sufficient knowledge and Japanese proficiency to be able to convey their study outcome in their own field.

5. Period of program:

September 1, 2015 – August 31, 2016 (including winter and spring breaks and summer vacation)

No classes will be held on Saturdays, Sundays, or national holidays.

Graduation Ceremony will be held in August 2016.

6. Outline of courses:

The program consists of three types of courses: courses in Japanese language; courses in Japanese linguistics, culture and society; and independent study in students’ fields of specialty including a final report. Japanese language courses are compulsory, and courses in Japanese linguistics, culture and society are elective. Students take eight to twelve class hours of compulsory Japanese courses per week and additional elective courses in their own areas of interest. Independent study is offered only in the second semester. The number of class hours varies according to the level of the student and the semester.

※This program is undergoing curriculum changes in order for it to become a credited program.

(1) Names, types and class hours of courses

- a. Compulsory courses (as of November 2014)

Type	Course Name	Hours (1st semester)	Hours (2nd semester)
Compulsory	Intermediate Grammar	30 or 60	30 or 60
	Advanced Grammar	30	30
	Intermediate Kanji and Vocabulary	60	60
	Advanced Kanji and Vocabulary	30	30
	Intermediate Reading	30	30
	Advanced Reading	30	30
	Intermediate Writing	30	30
	Advanced Writing	30	30
	Intermediate Oral Communication	60	60
	Advanced Oral Communication	60	60
	Intermediate Listening	30	30
	Advanced Listening	30	30

b. Elective courses (as of November 2014)

Type	Course Name	Hours (1st semester)	Hours (2nd semester)
Elective	Japanese Linguistics	30	
	Japanese Sound System	30	
	Japanese Grammar	30	
	Japanese Lexicology		30
	Japanese Writing System		30
	History of Japanese		30
	Studies in Japanese Language	Not offered every semester	
	Comparative Culture	30	
	Japanese History & Geography		30
	Japanese Politics & Economy		30
	Japanese Literature & Arts		30
	Japanese Society & Culture		30
	Studies in Japanese Culture	Not offered every semester	
	Special Lectures	Up to 120 hours	

c. Optional course

Type	Course Name	Hours (1st semester)	Hours (2nd semester)
Optional	Independent Study		30

Notes:

1. The first semester is from October to March and the second semester is from April to September.
2. All students must take at least 300 hours of Japanese language courses during the year.
3. Students must take at least 540 hours of courses in total throughout the year.
4. Students may take approved subjects offered in the general education program or in the faculties at Hokkaido University in place of some elective courses.
5. The Director of the International Student Center may also give permission to students to take additional appropriate subjects in the general education program, in the faculties, or arts and science courses in English at Hokkaido University.
6. Courses taken under 5 above will be counted as Special Lectures in elective courses up to a maximum of 120 hours.

(2) Contents of courses (as of November 2014):

a. Language :

1) Intermediate / Advanced Grammar

Review of basic grammar and acquisition of further grammatical patterns and expressions through study and practical exercises.

2) Intermediate / Advanced Kanji and Vocabulary

Acquisition of kanji and control of meaning and use of vocabulary through reading and other practical exercises.

3) Intermediate / Advanced Reading

Acquisition of skills and techniques in reading authentic Japanese texts in various genres.

4) Intermediate / Advanced Writing

Study and practice in writing various types and styles of Japanese, from everyday letters and e-mails to academic reports.

*Japanese Language course syllabus is available from our homepage. Visit the homepage of International Student Center > Course/Program > Japanese Language Courses > General Japanese Course



- 5) Intermediate / Advanced Oral Communication
Practice and development of oral communication skills required in everyday and academic situations.
- 6) Intermediate / Advanced Listening
Acquisition of skills in listening and understanding phonetic characteristics of common Japanese spoken language.

b. Independent study:

This course is offered only in the second semester. Students acquire the basic concepts, techniques and methodology for research in their field, and complete a final report under the guidance of their supervisor. Reports are collected in a printed booklet.



(3) Organization of courses and classes

a. Courses:

The courses comprise units offered throughout the year by the International Student Center at Hokkaido University.

b. Classes:

Only language courses are divided into intermediate and advanced levels. Placement will be decided by the placement test held after enrollment. Those who allocated to Introductory level will not be able to receive the certificate of completion.



7. Annual schedule:

<1st semester>

From the middle week of September to the first week of October: Interview, Placement Test, Orientation
Around Oct. 10th: Entrance ceremony, Starting Class
End of December to beginning of January: Winter break
Middle of February: Welcome party

<2nd semester>

Around April 10th: Starting Class
From first Thursday to Sunday in June:
University Festival
August: Graduation ceremony, Farewell party



8. Teaching and guidance:

(1) Teaching staff of International Student Center

Name	Title	Field Speciality
YAMASHITA, Yoshitaka	Professor	Japanese Linguistics Spanish Linguistics
KOBAYASHI, Yoshiko	Professor	Japanese Language Teaching Learning Science
NAKAMURA, Shigeho	Associate Professor	Japanese Language Teaching Semantics
OGAWARA, Yoshiro	Associate Professor	Japanese Language Teaching
JUNG, Hyeseon	Associate Professor	Japanese Linguistics Social Linguistics
YAMADA, Tomohisa	Associate Professor	Japanese Linguistics Teacher Education
YAMADA, Etsuko	Associate Professor	Japanese Language Education Intercultural Education
ITO, Takayuki	Associate Professor	Japanese Language Teaching Japanese Linguistics

(2) Personal guidance

a. Academic advice:

The course coordinator advises students on academic issues as the need arises. In the second semester, supervisors advise individual students who take Independent study each week.

b. General advice:

A counselor in the Office of International Affairs will give advice to students who need help throughout the year.

9. Conditions for completion of the course:

A certificate of completion of the program will be given to students who satisfactorily complete 540 hours or more of courses throughout the year.

※If the program becomes a credited program, study hours will be converted to credits.

Students designated to Introductory levels as the result of the initial placement test will not be able to receive a certificate of completion, since they fail to satisfy the requirements of the program.

○ Credit Transfer:

A list of completed courses and grades will be given to each student at the end of each semester. Students will also receive their transcripts at the end of the program.

■ Accommodation

- Sosei-ryo (for single women)
- Hokudai International House (for single men/women, married couples and families)

Accommodation is available for all students who join this program.

Range of rental costs for a single room: ¥4,700 – ¥25,000



■ Follow-up on our Alumni

After completing the program, students go back to their own universities and continue their studies with the achievement acquired through this program for their graduation.

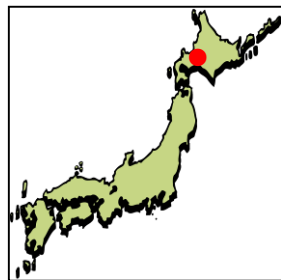
On occasion, some of the Alumni of this program return to Hokkaido University after graduating from their home universities. We have some examples of those who are currently working in Japan and are studying in a master's program at Hokkaido University. Also one of the Alumni is now teaching at one of our Graduate Schools.

■ Contact

Address :
Hokkaido University
Kita 15, Nishi 8, Kita-ku, Sapporo 060-0815 JAPAN
Contact :
Division of International Academic Programs
TEL :
+81-11-706-8058
FAX :
+81-11-706-8067
E-MAIL :
rkouryu@oia.hokudai.ac.jp
Homepage of Hokkaido University :
<http://www.oia.hokudai.ac.jp>
Homepage of JLSC program:
<http://www.oia.hokudai.ac.jp/jlscsp/>

Coordinator :
KOBAYASHI, Yoshiko





北海道教育大学 (北海道)



日本語や日本の文化、教育制度、北海道の先住民であるアイヌ民族の言語や文化についてのさまざまな授業を受けることができます。

◆大学紹介

① 大学の特色と概要

北海道教育大学は、教育学部1学部が5つのキャンパス（札幌、函館、旭川、釧路、岩見沢）に分かれており、日本語・日本文化研修留学生は、札幌キャンパスで学びます。

札幌キャンパスに設置された教員養成課程では、札幌の特色を活かしながら北海道全域にわたって教育現場に密着した教員養成を行います。

また、大学院修士課程には、学校教育専攻、教科教育専攻、養護教育専攻、学校臨床心理専攻、専門職学位課程には、高度教職実践専攻が設置されています。

② 学生数（平成26年10月1日現在／5キャンパス合計）

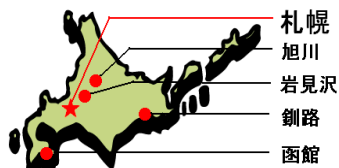
学部学生 5,203名、大学院生（修士） 218名
大学院生（専門職学位） 98名、養護教諭特別別科 29名

③ 国際交流の実績（平成26年10月1日現在／5キャンパス合計）

・留学生数 15カ国 97名 ・国際交流協定教育機関 15カ国 35大学

④ 日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績（過去3年）

2012年度 大使館推薦1名、大学推薦1名
2013年度 大使館推薦0名、大学推薦2名
2014年度 大使館推薦3名、大学推薦2名



⑤ 北海道の特色

北海道は、日本の最北端に位置し、世界自然遺産の知床をはじめ雄大な自然に恵まれ、食文化も優れていることから、観光地としても有名です。

北海道の夏は、台風の影響が少ない上、日本の他の地域に比べると気温が低いため、とても過ごしやすいです。

また、冬は雪が積もり、気温が -10°C 以下になる地域もありますが、スキーや雪祭りなど、冬の楽しみも体験できます。



◆プログラムの概要

① プログラムの特色

本プログラムの特徴は、交換留学生のための日本語授業（日本語・日本事情やアカデミック日本語）と、国際理解について勉強している日本人学生とともに日本文化を学ぶ授業（日本文化・日本社会講座や国際理解基礎演習）を行っていることです。

それらの大学の授業とともに、ホームステイの体験や学生との交流を通して「生きた日本文化」を学びます。

また、北海道の地域性を生かして、北海道の大自然や先住民であるアイヌ民族文化について学ぶ研修旅行があります。

② 受入定員

5名（大使館推薦 3名、大学推薦 2名）

③ 受験希望者の資格、条件等

外国（日本以外）の大学学部にて在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者。また、日本語の初級レベルの学習を終了した者。（日本語能力試験N4（3級）取得、もしくは日本語学習時間数300時間以上が望ましいです。）

④ 達成目標

日本語での日常会話がほぼ普通に話せるようになること。

具体的には、日本語能力試験N2以上に合格できる能力を身につけることです。

⑤ プログラム期間

2015年10月～2016年8月

⑥ プログラムの構成

期間の前半は、日本語の能力の獲得に重心を置き、後半は日本文化の理解に重心を置いています。

⑦授業科目の概要

日本語と日本文化の両方を学ぶプログラムで、全ての授業が日本語で行われます。Ⅰ)～Ⅴ)は必修科目、Ⅵ)は選択必修科目です。(★ただし日本語能力検定試験N1程度の留学生は、Ⅰ)及びⅡ)の授業を受講しなくてもよい場合があります。)

Ⅰ)「日本語・日本事情」(非N1:10月-2月 180時間)(★ N1:免除)

場面に応じて必要な日本語が使える、社会文化的なトピックについての簡単なディスカッションができるようにコミュニケーション・スキルを習得するとともに、大学での研究に役立つ総合的な日本語能力の習得を目指します。また、日本事情・文化について知るとともに、ディスカッションや自国文化の紹介を通じて、異なる文化を相互に理解する心を育てます。

Ⅱ)「アカデミック日本語」(非N1:10月-2月 60時間)(★ N1:免除)

聴解能力や論文作成能力の向上など、大学での学習・研究活動に必要な技能を修得します。

Ⅲ)日本の文化や社会についての留学生向け講座(非N1+N1:4月-8月 60時間)

日本の文化や社会の特色や特質について、講義・講演を聞いて学びます。内容は年度や学期によって変わります。

Ⅳ)留学生向けの体験型講座(非N1+N1:4月-8月 30時間)

日本の文化や社会について実体験を通じて学びます。内容は年度や季節によって変わります。茶道や田植え、ゆかたの着付けや日本料理などを体験します。

Ⅴ)日本語文章作成のための講座(非N1+N1:4月-8月 60時間)

各自が興味を持つテーマについて、修了時まで小論文を作成します。それに必要な日本語作文の力をつけるための講座です。

Ⅵ)一般学生向けの授業からの選択(非N1:4月-8月 30時間×2科目以上)

(★ N1:10月-2月 30時間×7科目 4月-8月 30時間×2科目)

一般学生向けの授業の中から必要科目数以上選択して、日本人学生と一緒に受講します。



ゆかたの着付けをしました。



お寺で座禅を体験しました。

⑧指導体制

責任教員：国際交流・協力センター

札幌校センターセンター長

中川 大 (哲学)

協力教員：開設科目担当教員

国際交流・協力センター教員

大賀 京子 (日本語教育)

阿部 二郎 (日本語教育)

⑨行事

- ・大学近隣の日本人家庭に1週間ホームステイをします。
- ・学生の国際交流サークルによる季節ごとのイベント等があります。
- ・ホームステイ協会が主催するイベントがあります。
- ・地域の学校を訪問します。
- ・札幌近郊での研修旅行があります。

⑩プログラムの修了要件、修了証書の発行

決められた日本語教育科目、日本事情・日本文化関連科目の受講、及び修了小論文の執筆を修了要件とし、プログラムを修了した者には、修了証を授与します。

⑪単位認定、単位互換等

履修科目において所定の成績をおさめた場合は単位を認定し、成績証明書を発行します。

◆宿 舎

大学周辺の民間アパートや札幌国際交流会館等を紹介します。

留学生用の寮はありません。

①過去3年間の日研生の宿舍入居状況

大学が紹介した民間アパートに入居しています。

②宿舍費(月額)

民間アパート 26,000円 ~ 50,000円 (地域や設備によって異なります)

札幌国際交流会館 27,600円

※光熱水料費、食費及び大学までの通学費等が別途かかります。

◆修了生へのフォローアップ

①フォローアップの実績

北海道教育大学大学院への進学説明会を開催し、留学生の相談に乗っています。

②修了後のキャリアパス

帰国後に本国の大学を卒業し、日系企業への就職を果たし、日本語を使用して勤務されている方が多数います。また、本国や日本の大学院へ進学し、日本もしくは日本語に関わる研究をさらに進めている方々もいます。中には日本で就職をしている方や、札幌市の国際交流員を経験した方もいます。

◆問い合わせ先

大学所在地：〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

担当部署：学務部 国際課

連絡先：TEL: 011-778-0673 FAX: 011-778-0675

E-MAIL: g-kokusai@j.hokkyodai.ac.jp

ホームページアドレス: <http://www.hokkyodai.ac.jp/>



Hokkaido University of Education (Hokkaido)



We provide Japanese Studies Students with a variety of classes on Japanese language, culture, Japanese education system, and the language and culture of *Ainu*, Hokkaido Natives.

◆ Overview of the University

(1) Overview

The Faculty of Education, the sole faculty at the Hokkaido University of Education, has five campuses (Sapporo, Hakodate, Asahikawa, Kushiro and Iwamizawa) and covers all areas of education. Japanese Studies Students will be assigned to Sapporo campus.

As a Teachers Training Department, Sapporo campus offers its unique program to afford students opportunities to learn practical teaching skills they will need in their teaching fields.



The Graduate School of Education offers the following programs;

- a) M.Ed. level: School Education/Subjects Education/School Health Nursing/Clinical Psychology and School Education
- b) Professional Degree level: Advanced Teacher Professional Development Programs

(2) Current enrollment (5 campuses total as of Oct. 1, 2014)

- Undergraduate: 5,203 • Postgraduate: 316
- Special Course for Nurse Teachers: 29

(3) International relations (5 campuses total as of Oct. 1, 2014)

- 97 Students from 15 countries
- 35 Exchange partner universities in 15 countries

(4) Number of Japanese Studies Students (past 3 years)

AY 2012	Embassy nominee: 1	University nominee: 1
AY 2013	Embassy nominee: 0	University nominee: 2
AY 2014	Embassy nominee: 3	University nominee: 2



(5) About Hokkaido

Hokkaido prefecture is located at the north end of Japan and is a popular sightseeing spot for its majestic nature including the World Nature Heritage Site, *Shiretoko*, and fascinating food culture.

Low humidity and little damage of typhoon make the summer pleasant, while in the winter, you can enjoy winter sports and snow festivals though the temperature can go down below -10 °C in some areas.

◆ Program Outline

(1) Features

We offer Japanese language classes such as “Japanese Language and Culture” and “Academic Japanese Language” for international exchange students and also Japanese culture classes like “Japanese Culture and Society” and “Pre-seminar in International Understanding” with Japanese undergraduate students majoring in international studies.

Along with these classes, you can learn “living Japanese culture” through real experiences such as home-stay and cultural exchange activities with Japanese students.

(2) Number of students to be accepted

5 students (Japanese Embassy nominee: 3, University nominee: 2)

(3) Minimum requirements for applicants

Applicants must be an undergraduate at a foreign (non-Japanese) university majoring in fields related to the Japanese language or Japanese culture.

In addition, applicants are expected to have studied Japanese at the elementary level or higher: Acquisition of N4 (3rd) level of the Japanese Language Proficiency Test, or approximately 300 hours of Japanese language study experience is desirable.

(4) Goal

To speak fluent Japanese in everyday conversation.

To attain to the N2 or higher level fluency of the Japanese Language Proficiency Test.

(5) Period

October 2015 to August 2016

(6) Program structure

The first semester focuses on learning Japanese language, and the second semester concentrates on understanding Japanese culture.

(7) Classes

All the classes are conducted in Japanese.

I) - V) are mandatory, VI) is mandatory elective. (Applicants who have passed the N1 level of Japanese-Language Proficiency Test may be exempted from I and II. *)

I) Japanese Language and Culture :Open Oct.-Feb.

(Non N1 holders: 180 hrs. * N1 holders: may be exempted)

Aims to develop the student's practical skills of the Japanese language. The students learn well-balanced language skills for academic research at the University, especially communication skills for discussion on social-cultural topics. Students also deepen their knowledge of the Japanese culture and develop the cross-cultural understanding through discussion and presentation of their own cultures.

II) Academic Japanese Language :Open Oct.-Feb.

(Non N1 holders: 60 hrs. * N1 holders: may be exempted)

Aims to improve the student's listening skill and academic writing skill for study and research at the University.

III) Japanese Culture and Society Course for international students :Open April-Aug.

(Non N1 holders and * N1 holders: 60 hrs.)

Aims to study Japanese culture and society through lectures and talks. Contents may vary every term.

IV) Experience-based Japanese Culture and Society Course for international students :Open April-Aug. (Non N1 holders and * N1 holders: 30 hrs.)

Aims to study Japanese culture and society based on field experiences including tea ceremony, rice planting, yukata dressing, Japanese cooking, and so on. Contents may vary every term.

V) Academic Japanese Writing Course :Open April-Aug.

(Non N1 holders and * N1 holders: 60 hrs.)

Each student is required to write a research essay in Japanese on a theme of their interest by the end of exchange. It aims to practice academic Japanese writing skills for essay writing.

VI) Elective subjects from HUE Undergraduate Course List :Open Oct.-Aug.

(Non N1 holders: 2 subjects/ 30hrs. April-Aug.)

(* N1 holders: 7 subjects / 30hrs. Oct.-Feb. ; 2 subjects / 30hrs. April-Aug.)

Students are required to register for subjects selected from HUE Undergraduate Course list and attend classes with Japanese students.



Dressed up in yukata!



Experienced Zen meditation at a temple!

(8) Faculty

Instructors and advisors:

- **Hajime NAKAGAWA**, Prof. of Philosophy, Director of the Sapporo International Center
- **Kyoko OGA**, Associate Prof. of Japanese, International Center
- **Jiro ABE**, Associate Prof. of Japanese, International Center

(9) Events

- One-week home stay with a Japanese family near the campus
- International students gathering, Student club seasonal activities
- Home stay association events
- Local school visits
- Field trip around Sapporo

(10) Certificate of Completion

The Hokkaido University of Education issues a Certificate of Completion to students once they finish their courses of study including the required subjects; Japanese language, Japan studies, Japanese culture, Final project.

(11) Credits

An official academic transcript will be provided to students who successfully completed their studies.

◆ Accommodation

We will help each student to find a place in an off-campus apartment or Sapporo International House. There are not any dormitories for only international students.

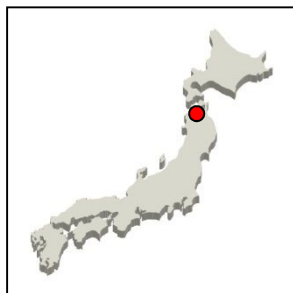
- (1) Housing for the Japanese Studies Students (past 3 years)
Off-campus apartment near the campus
- (2) Monthly rent
Apartment: 26,000yen - 50,000 yen (depends on the area and facilities)
Sapporo International House: 27,600 yen
※Utilities, meal expenses and commuting costs are not included.

◆ We Follow Up Completing Students

- (1) In Following Up.....
We hold briefing sessions for exchange students on graduate study in Japan, and provide individual consultation for those who are interested in applying to Graduate Schools of Hokkaido University of Education.
- (2) Career Path after Completing the Course
After going back to their countries and graduating from their universities, many are working at Japanese-affiliated companies using Japanese. Some have gone up to graduate schools in their countries or in Japan, pursuing their studies relating to Japan or Japanese language. There are some who are working in Japan, or who has worked as Coordinator for International Relations in Sapporo.

◆ Contact Information

International Section, Hokkaido University of Education
5-3-1, Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8501 Japan
Phone: +81-(0)11-778-0673 Fax: +81-(0)11-778-0675
E-mail: g-kokusai@j.hokkyodai.ac.jp Web: <http://www.hokkyodai.ac.jp/>



弘前大学 (青森県)



弘前大学

本州の最北端で、日本をまなぶ。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

1949年に設立されてから、青森県内および近県の教員、医師、公務員等の人材育成を担ってきた、歴史のある国立大学です。5学部、7研究科で多彩な分野の研究を行っています。

設立：1949年

学生数：合計：6,911人

学部生：6,100人

大学院：811人

留学生数：135人

○学部：

人文学部、教育学部、理工学部、
農学生命科学部、医学部

○大学院

(修士課程)	(博士課程)
人文社会科学研究科	地域社会研究科
教育学研究科	理工学研究科
理工学研究科	保健学研究科
農学生命科学研究科	医学研究科
保健学研究科	

②国際交流の実績

海外協定校26校（12国）、海外拠点3箇所
（中国2、タイ1）

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数135人、日研生 3人

2013年：留学生数111人、日研生 3人

2012年：留学生数108人、日研生 3人

④ 地域の特色

弘前大学がある弘前市は、人口18万の町に4つの大学がある学園都市です。もともと、津軽藩の城下町として栄えた由緒ある町ですが市の周囲は農村部で、比較的物価が安く、留学生には住みやすい町であると言えるでしょう。市はコンパクトにまとまり、大学の周囲には学生向けのアパート、食堂や居酒屋などで学生街が形成されています。市の繁華街に歩いて15分～30分程度で行くことができます。学生の主な交通手段は自転車です。

■コースの概要

① コースの特色

○様々な分野の勉強が可能な環境

本学の日研生コースは、自分で既に学びたい分野があり、その基礎を作ったり、さらに深めたいという学生に最適のコースです。

留学生用の日本語日本文化関係科目から、学部の専門科目まで、幅広い分野の授業を受けることが出来ます。そのため、日本語日本文化関係の興味ある分野や周辺分野の基礎を作ることができます。

また、学部の教員が指導教員としてつきますから、日本語能力に応じて日本人と同じ指導を受けることができます。

弘前は地方の小都市ですが、伝統ある城下町で、伝統的な生の日本文化に容易に触れることができます。

○学部にも所属して研究室の一員に

日研生は、人文学部か、教育学部かいずれかの学部にも所属し、特に日本語能力が高い学生は日本人学生と一緒にゼミナールに参加、ゼミの行事に参加しています。

（近年、日研生を受け入れた教員の専門分野は、日本文学、比較文学、日本史、思想史、国語学、言語学、言語教育学、社会学、日本美術学、民俗学、考古学、国際政治などです。）

○充実した実地見学・体験学習

留学生向けの「国際交流科目」は実地体験、体験学習を多く取り入れております。



② 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

③ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムの受講者は、大使館から推薦された日本語・日本文化研修留学生とし、かつ、以下の要件を満たす者とします。まず、大使館推薦の要項をよく読んでください。

また専門によって以下の条件を加えます。

- ・日本で調査・研究活動をする予定の学生は、調査・研究活動に必要な言語能力があること
- ・日本で文献収集を行う予定の学生は、日本語で文献を読む能力があること。

（注意）日本に関する特定の専門分野（日本文学「古代、中世、近代、現代」、日本語学「古代、中世、近代現代」、日本史「古代、中世、近代」、日本考古学、日本美術史、日本経営、日本民族学など）を学ぶ希望のある学生は、分野名を願書に明記することが必要です。

また、文学と歴史については、時代を示すことが可能であれば望ましいです。学びたい分野として「日本語」「日本文化」「日本事情」としか書かれていないと、これらは日本の大学では専攻名としては扱われていませんので、専門が違う教員が指導教員になる場合もあります。

④ 達成目標

○日本語：より高い総合日本語力（N3～N1超）を獲得する。

○研究対象分野：対象分野についてのプロジェクトを行ったり発表したりできるようになる。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日

修了式は8月を予定（2014年は8月）

1：秋学期 10月1日 ～ 2月上旬

2：春学期 4月上旬 ～ 8月上旬 各16週

⑥ 研修科目の概要

一般学生・短期プログラム用の授業を受講しながら個々の専門に応じた資料収集、調査等の指導を受ける。

1) 日本語科目

(科目名)	(回数)	(内容)
中級A	週2回	総合日本語
中級B/E	週2回	読解
中級C	週1回	作文
中級D	週1回	文法
中上級A	週1回	スピーチ・聴解
中上級B	週1回	読解
中上級C	週1回	作文
中上級D	週1回	文法
上級A	週1回	スピーチ・聴解
上級B	週1回	読解
上級C	週1回	作文
上級E	週1回	専門日本語基礎

2) 理論と体験を通して学ぶ日本事情科目、インターンシップ科目

(科目名)	(回数)	(内容)
日本のスポーツ	週1回	日本の伝統スポーツの理論と実際
津軽の工芸	週1回	津軽工芸の歴史学習と体験実習
津軽近代文化史	週1回	講義と見学で学ぶ地域近代史
インターンシップ	週1回	インターンシップ
地域ツーリズム	週1回	インターンシップ

（インターンシップにはN2相当以上の総合日本語力が必要）

3) 主に日本語で開講される専門科目等

21世紀教育科目（1, 2年生用の基礎・教養科目）、学部専門科目等

⑦ 年間行事

10月	秋学期オリエンテーション
10月	総合文化祭
12月	桔梗野餅つき大会
2月	外国人留学生卒業懇談会
4月	春学期オリエンテーション
8月	ねぷた運行参加、桔梗野町会盆踊り

⑧ 指導体制

・日本語担当教員

小山 宣子	国際教育センター准教授（日本語教育学）
鹿嶋 彰	国際教育センター准教授（日本語教育学）

・日本文化・日本事情担当教員

諏訪 淳一郎	国際教育センター准教授（文化人類学）
サワダ・ハンナ	国際教育センター准教授（比較文学・文化）

学業面では、主に学部の指導教員と国際教育センターの責任教員が、生活面では、指導教員および国際教育センター教員が指導、助言に当たります。

⑨ コースの修了要件

○本プログラム修了者には、1年で20単位の修得と修了レポートの提出を条件として、研修修了証書を授与します。

○授業科目を履修した者については、試験の上、合格した者に単位を与えます。

■宿 舎

国費外国人留学生（日研究生を含む）を対象とした宿舎は現在ありません。希望により、市内のアパート（1万5千円～3万5千円程度）を紹介できます。

■修了生へのフォローアップ

○フォローアップ実績の一例

- ・修了レポートを卒業論文につなげるために、弘前大学教員がサポート。
- ・再度日本に留学し、大学院に出願している学生へ、弘前大学教員がサポート。
- ・母国での研修分野での大学院進学をサポート

○修了後のキャリアパスの一例

- ・母国で日本語教員として就職
- ・母国や日本の企業で専門性を生かした仕事に従事

■問合せ先

（担当部署）

弘前大学国際教育センター

住所 〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL +81-172-39-3109（直通）

FAX +81-172-39-3133

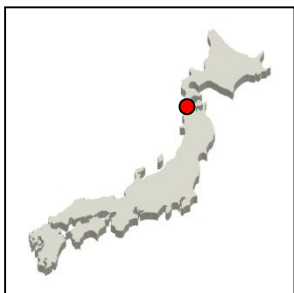
E-mail jm3109@cc.hirosaki-u.ac.jp

弘前大学国際教育センターホームページ

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/kokusai/index.html>

弘前大学ホームページ

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/>



HIROSAKI UNIVERSITY



Study "JAPAN" in Hirosaki.

■ Introducing

① Characteristics and Overview

Hirosaki University is the only National University in Aomori Prefecture. It is now comprised of 5 faculties and 7 graduate schools.

Established: 1949

Number of students	: 6,911
Undergraduate	: 6,100
Graduate	: 811
International students	: 135

○ Faculties:

Humanities, Education, School of Medicine, Science and Technology, Agriculture and Life Science.

○ Graduate schools:

Humanities and Social Science (M&D)
Education (M)
Science and Technology (M&D)
Agriculture and Life Science (M)
Medicine (D)
Health Science (M&D)

② International Exchange

Sister Universities: 26 (12 countries)
Overseas offices: 3 (China, 2, Thai)

③ Number of Japanese Studies Students in past 3 years (including students recommended by the University)

2014: 135 International students, 3 JSSs
2013: 111 International students, 3 JSSs
2012: 108 International students, 3 JSSs

④ Characteristics of Town

Hirosaki city where Hirosaki University is located is a university town, having 4 universities with a population of 180,000. Hirosaki has been prospered originally as a castle town, used to be ruled by the Tsugaru clan, however it's surrounded by farming areas. The living cost is relatively low, and it's livable for students from abroad. Students would feel comfortable to live in, because there are many students in this area. You can find apartments, dining, and bars for students around this university area. And you can go to the downtown in about 15–30 minutes on foot. Most students use bicycles as a primary means of transportation.

■ Outline

① Characteristics of Course

○ Environments making it possible for various subjects of study

This course is suited to students who have an area they wish to do research and deepen their knowledge. International Education Center staff will support students' investigations, experiments, and research.

Because they will be assigned an Academic Advisor in a faculty, it is possible for them to receive the same supervision as Japanese students, depending on their level of Japanese proficiency.

Though Hirosaki city is local and small, you can experience conventional, real Japanese culture in this traditional castle town.

○ Join faculty and become a member of a laboratory

As students who belong to Faculty of Humanities or Faculty of Education, those who have high Japanese language proficiency can attend seminars and use the facilities like the Japanese students. They can take part in events organized by seminars, such as trips. (Specialized fields of recent accepted Japanese Studies Students are: Japanese Literature, Comparative Literature, Japanese History, History of Thought, Japanese Philology, Linguistics, Language Education, Sociology, Japanese Arts, Folklore, Archeology, International Politics)

○ Fulfilling field trips, hands-on experiences

Many of "International Exchange courses" feature field trips and hands-on experiences.



② Number of students to be accepted:

4 people (University recommendation = 2)
(Embassy recommendation = 2)

③ Conditions for eligibility

Students should be recommended by the Japanese Embassy in their country as students in our Japanese Studies Program and should meet the requirements below. Please read the guidelines for the scholarship program carefully.

• For students researching/studying in Japan:

Adequate language proficiency in order to carry out investigations and conduct research

• For students acquiring documents in Japan:

Adequate language proficiency in order to read academic papers

Please Note:

Students planning to study specific areas concerning Japan are required to define their fields of study as clearly as possible.

For example, Japanese Literature (Ancient, Middle, Modern, and Postmodern), Japanese Linguistics (Ancient, Middle, Modern, and Postmodern),

Japanese History (Ancient, Middle, and Modern), Archeology, History of Art, Japanese Management, Japanese Folklore, etc.
Japanese Language, Japanese Culture, and Japanese Affairs are not considered as course names, so without further specification, students may be assigned to an Academic Advisor outside their preferred field.

④ Course Goals

○Japanese: Should aim to improve Japanese skill (N3~N1 or above)

○Research subjects: Should aim to be able to work on a project or make a presentation on their research field.

⑤ Duration

Oct. 1, 2015 ~ Sept. 30, 2016

1: Fall semester Oct. 1 ~ Early Feb.

2: Spring semester Early Apr. ~ Early Aug.
(16 weeks each)

Complete Celebration will be held on Aug.

⑥ Outline of trainee subjects

1) Japanese

Subject	Schedule	Content
Intermediate A	twice a week	General Japanese
Intermediate B/E	twice a week	Reading
Intermediate C	once a week	Writing
Intermediate D	once a week	Grammar
UpperIntermediate A	once a week	Speech Listening
UpperIntermediate B	once a week	Reading
UpperIntermediate C	once a week	Writing
UpperIntermediate D	once a week	Grammar
Advanced A	once a week	Speech Listening
Advanced B	once a week	Reading
Advanced C	once a week	Writing
Advanced E	once a week	Foundation of Academic Japanese

2) Japanese Culture subjects learning by theories and experiences, and internship

Subject	Schedule	Content
Japanese sports	once a week	Traditional Japanese sports
Tsugaru arts	once a week	Traditional Tsugaru art study
Modern Tsugaru		
History	once a week	Modern history of Tsugaru
Internship	once a week	Internship
Regional Tourism	once a week	Internship

3) Other Subjects

General education (for freshman and sophomore), special subjects of departments

⑦ Annual Event

Oct. Fall term orientation

Oct. University Festival

Dec. Kikyono Community rice cake-making party

Feb. International student graduation and completion celebration.

Apr. Spring term orientation,

Aug. Participation in the Neputa festival and Kikyono community bon dance

⑧ Teaching Staff

• Staff in charge of Japanese language courses:

Nobuko Oyama, Associate Professor, International Education Center, specializing in Japanese language pedagogy

Akira Kashima, Associate Professor, International Education Center, specializing in Japanese language pedagogy

• Staff in charge of Japanese cultures and affairs:

Junichiro Suwa, Associate Professor, International Education Center, specializing in Anthropology

Hannah Sawada, Associate Professor, International Education Center, specializing in Comparative literature and culture

Academic advisors and teachers in the International Education Center are in charge of providing guidance regarding study and all teachers in the center are in charge of providing advice regarding life in Japan.

⑨ Requirements for completing the program

○A certificate of completion is awarded for students completing this program with 20 credits in a year and submitting a report of completion.

○Students receive credits when they take class subjects and pass the exam.

■ Housing

There are no specific accommodations for national scholarship students. The International Education Center will help the students find apartments (¥15,000~¥35,000 per month) .

■ Follow-ups for completed students

○Example of the follow-up

• Support by teachers of Hirosaki University to guide the students' report of completion in their thesis

• Support by teachers of Hirosaki University for students who wish to continue their study and apply for a graduate school in Japan

○Example of career path

• Japanese language teacher in students' home countries

• Work for companies of Japan or students' countries by utilizing their specialties

■ For further information

Hirosaki University International Education Center

Hirosaki University

Bunkyo-cho 1

036-8560 Hirosaki City

Aomori Prefecture Japan

Tel.: +81-172-39-3109

Fax: +81-172-39-3133

E-mail: jm3109@cc.hirosaki-u.ac.jp

Hirosaki University Home Page Address:

<http://www.hirosaki-u.ac.jp>

International Education Center Home Page Address:

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/kokusai/index.html>

Academic Members Reference:

<http://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/index-e.jsp>



岩手大学

(岩手県)



知識、体験、分析を融合させた知的発見による学びの場を提供

■大学紹介

① 大学の特色および概要

岩手大学は、宮沢賢治の母校として、また、東日本大震災の被災地の復興支援の拠点として、持続可能な地域社会に貢献する「地域密着型」の大学である。

1949年に学芸学部、工学部、農学部からなる新制大学として発足し、現在は、学部として人文社会科学部、教育学部、工学部及び農学部、大学院修士課程として人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部（博士前期課程）及び農学研究科、大学院博士課程として工学研究科（博士後期課程）と連合農学研究科を有している。

また、学内共同教育研究施設として、地域連携推進機構、教育推進機構、情報基盤センター、保健管理センター及び国際教育センターが設置されている。

岩手大学は学生数約6,300名、教職員約800名（うち教員約500名）の大学である。4つの学部がすべて同じキャンパスにあり、面積は42万㎡に及ぶ。10分以内でキャンパスのどこへでも移動でき、皆が集まれるのも大変便利である。この本学には約50万点の資料や標本等がある。これらの財産を学内で教育研究に用いるだけでなく、一般市民にも活用してもらうという目的で、大学全体を総合博物館として「岩手大学ミュージアム」の名称で一般公開されている。中には植物園、自然観察園、獣医学科標本室等の施設や重要文化財に指定されている農業教育資料館、旧門番所・旧正門があり、市民の憩いの場ともなっている。

② 国際交流の実績

近年本学でも国際交流が一段と活発化しており、海外からの研究者や留学生は年々増加している。2014年5月1日現在で、中国・ロシア・アメリカ等25カ国1地域、43の大学・研究機関等と国際交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

	2012	2013	2014
留学生数	210	203	248
日本語・日本文化 研修留学生	1	4	6

④ 地域の特徴

本学の位置する盛岡市は、北東北の交通の中心地であり、豊かな自然に囲まれた人口30万の教育・文化都市である。

岩手は、宮沢賢治・石川啄木・野村胡堂・萬鉄五郎・田中館愛橘・金田一京助など、学術・文化に貢献した多くの人材や、後藤新平、新渡戸稲造ら国際的に活躍した人物を生み出した土地である。総理大臣も4人輩出している。県南部に位置する平泉はかつて奥州藤原氏が栄華を誇った土地で、2011年6月にユネスコの世界遺産に登録された。また、県中央部の遠野は、多くの民話や伝承が残る。民俗学者 柳田國男の『遠野物語』で有名である。

さらに、2011年3月の東日本大震災では沿岸地域に甚大な被害を被ったが、盛岡をはじめ内陸地域から被災地支援が継続的に行われ、地域一体となって復興を目指している。

こうした豊かな文化や歴史を有し、また大きな自然災害を経験した岩手の、県都盛岡の中心部に位置する岩手大学で学ぶことは、即ち日本の文化や風土を理解し、災害を含め自然と人間との共存について知るのに適した地域であると言えるだろう。世界各国の有為の若者の訪れを期待している。



■コースの概要

① コースの特色

本コースのねらいは、日本語及び日本の諸事情、即ち日本の文化・歴史・地理・政治・経済・社会・教育等について、理解を深めさせることにある。教室内の学習にとどまらず、着物の着付け、華道などの日本文化体験、地域住民との文化交流活動、ボランティアなど様々な体験学習が豊富に用意され、体験を通して「日本語」「日本文化」どちらも学べるのが本学のプログラムの特色である。

また、滞在中を通じてひとつのテーマについて修了論文をまとめる「個別研究」を通じて、実践的な研究力を高め、卒業論文の基礎研究とすることができ。

② 受入定員

5名（大使館推薦2名、大学推薦3名）

③ 受講希望者の資格、条件等
このコースを受講する者は、次の1)、2)を
満たしていることを要件とする。

1) 中級後半以上の日本語(漢字1,000字程度、
語彙6,000語程度)を学習し、日常生活に
必要な会話能力、文章の読み書き能力を有
すること。

2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻して
いる者、または他の分野を専攻しながら日
本語・日本文化に関する分野も学習してい
る者。

④ 達成目標

本コースの達成目標は以下の通りである。
1) 来日時と比較して2段階以上の上の日本語
能力を習得する。
2) 日本語によるアカデミックな文章作成力、
口頭発表力を習得する。
3) 日本や岩手について体験に基づく幅広い知
識を獲得し、理解、解釈する能力を得る。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日
修了式は8月を予定

⑥ 研修科目の概要

本コースは、
1) 日本語・日本事情等に関する留学生向け
の授業
2) 各自の研究テーマに関する専門の授業
(日本人学生とともに参加)
3) 個別研究
の3つで構成される。

指導教員の助言のもとに本学の開設科目の
中から各自の能力、関心に応じて選択し、履
修することができ。自由度の高いカリキュ
ラムを活用することにより、独自の日本語・
日本文化の研究を深めることが可能となる。
「個別研究」では日本語・日本文化に関す
るテーマを選択し、文献分析、調査などに
より研究を進め、その成果は口頭ならびに小
論文で発表を行う。

岩手大学において開講している日本語・日本事情関係の授業科目
は、以下の通り(1コマ=90分)である。

日本語・日本事情科目	
国際交流科目	中級日本語Ⅰ文法
	中級日本語Ⅰ会話
	中級日本語Ⅰ作文
	中級日本語Ⅰ読解
	中級日本語Ⅰ漢字
	中級日本語Ⅱ文法
	中級日本語Ⅱ会話
	中級日本語Ⅱ作文
	中級日本語Ⅱ漢字
	中級日本語Ⅱ文系日本語
共通教育科目	中級日本語Ⅱアカデミック
	上級日本語アカデミック
	上級日本語ビジネス
	上級日本語A(口頭発表)
	上級日本語B(読解1)
	上級日本語C(理系1・文系1)
	上級日本語D(論文作成1)
	上級日本語E(口頭表現)
	上級日本語F(読解2)
	上級日本語G(理系2・文系2)
	上級日本語H(論文作成2)
	多文化コミュニケーションA
	多文化コミュニケーションB
	日本事情A
	日本事情B

日本文化・日本研究科目(国際交流科目)
日本文化と日本人心理の発見(英語)
岩手学(英語)
文化の諸相(英語)
グローバルな視点から見た日本の伝統(英語)
異文化間非言語コミュニケーション(英語)
やさしい日本語で語る日本文学
個別研究

※(英語):英語で実施する

1) 必修科目

- ①日本語科目:各学期4単位以上
- ②日本事情科目:各学期2単位
- ③日本文化・日本研究科目2単位以上
- ④個別研究

2) 見学、地域交流等の参加型科目

- ①岩手学:周辺の名所・旧跡等を訪ねたり、博物館等の文化施設で研修を行なう。
- ②多文化コミュニケーション:県内の中学生、県外他大学との合同合宿研修が組み込まれた交流型科目である。

その他、学内・学外のイベント、ボランティア活動等に積極的に参加して、関係者や市民との交流を深める。大学祭、さんざ踊り(地域の祭り)、スキーツアー、着物体験会など季節毎の催しが学外諸団体の協力のもとに数多く実施され、留学生がこれを通して日本文化を体験できる。小中高などに招かれて交流会等に参加することも多い。

3) その他の講義、選択科目等

人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部で開講されている専門教育科目の中から、各自の能力、関心に応じて講義を選択することがで
きる。

⑦ 年間行事

- 10月 開講式・オリエンテーション
 不來方祭（文化祭）
 11月 北東北国立三大学合同合宿研修
 12月 生け花体験、着物体験
 冬休み（12月23日～1月7日）
 1月 フィールドスタディ（スキー）
 6月 留学生と市民のガーデニングパーティー
 7月 個別研究発表
 8月 盛岡さんざ踊り
 プログラム修了式
 フィールドスタディ（見学旅行）
 夏休み（8月6日～9月30日）



フィールドスタディ（見学旅行）



フィールドスタディ（スキー）

⑧ 指導体制

留学生の専門分野や興味・関心にマッチする専攻の教員が、指導教員としてあたる。また、日本語指導や生活・就学上の相談などについては、国際教育センターの教員が、共同で携わる。

国際教育センターの専任教員は、次の通りである（2015年度予定）。

職 名	氏 名
准教授	松 岡 洋 子
准教授	尾 中 夏 美

⑨ コースの修了要件

修了判定＝必修科目を全て履修した者について、審議により判定する。

受講科目修了者については、成績等の条件を満たした場合、単位を与える。（単位修得証明書を発行する。）



着物体験



生け花体験

■ 宿 舎

キャンパス内に位置する国際交流会館（単身用30室、夫婦用3室、研究員用3室）や日本人学生と混住の学生寮、あるいは大学の転換する民間アパートに入居が可能である。

http://iuiic.iwate-u.ac.jp/01_hope/hope_05/index.html



国際交流会館

■ 修了生へのフォローアップ

帰国後の進路等について、継続的に連絡をとり、情報交流や必要な支援を行う。

また、日本での就職希望者について、キャリア支援課と協力し、ガイダンス等の支援を行う。

■ 問合せ先

（担当部署）

岩手大学学務部国際課

住所 〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-34

TEL +81-19-621-6927

FAX +81-19-621-6290

E-mail gryugaku@iwate-u.ac.jp

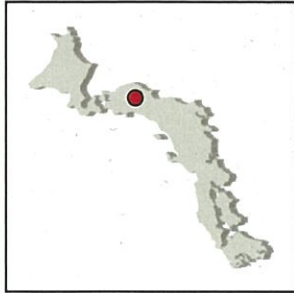
URL

岩手大学国際教育センターホームページ

<http://iuiic.iwate-u.ac.jp/>

岩手大学ホームページ

<http://www.iwate-u.ac.jp/>



Iwate University (Iwate prefecture)



We provide intellectual discoveries integrating knowledge, experience and analysis.

■ Profile of Iwate University

① Profile of Iwate University

Iwate University is known as an alma mater of MIYAZAKI KENJI as well as the hub of recovery support for disaster affected areas of the East Japan Great Earthquake. It's mission is to be a "locally-oriented university", which contributes to the sustainable local community.

Iwate University was founded in 1949 with faculties of Liberal Arts, Engineering, and Agriculture under the new educational system of Japan. Since then it has continued to grow.

At present, we have 4 undergraduate programs (The Faculty of Humanities and Social Sciences, Education, Engineering and Agriculture), a master's program in each Faculty and a doctoral program in the Faculty of Engineering and the United Graduate School of Agricultural Sciences. In addition, we have many interdisciplinary departments and affiliated institutions to support our academic activities.

Among these departments and institutions is Center for Regional Collaboration in Research and Education, University Education Center, Center for Information and Media, Health Administration Center and International Center. The Field Science Center, Veterinary Teaching Hospital and Cryobiofrontier Research Center are affiliated to the Faculty of Agriculture.

The enrollment at Iwate University is approximately 6,300 students, with 800 faculties and staffs to support them. All four faculties are located in the center of Morioka, on the same campus (420 thousand square meters), so it is easy to visit all of them and takes less than 10 minutes to walk around the campus.

Iwate University is proud of its collection of about 500,000 items of valuable relics and materials provided by the hard work of its past and present faculty members.

To let the public utilize its resources, not only using them for research and education on the campus, we started "Iwate University Museum", which enables the whole university to be a one museum. Among the facilities that contain these treasures is the University Botanical Garden, the Nature Observation Park, center for agricultural education, and center for veterinary study.

② History of International Exchange

International exchange is becoming more and more active at Iwate University as visiting scholars and students from overseas are increasing. Iwate University has exchange agreements with about 43 overseas institutions in 25 countries and a region as of May 1st, 2014. The university has been accepting international students on the JLC Program since 2001 and is planning to increase the number.

③ International Students (2011-2013)

	2012	2013	2014
Number of Foreign Students enrolled	210	203	248
Number of Japanese Studies Students enrolled	1	4	6



Historical Museum for Agricultural Education

④ Other Information

Morioka City serves as the center of the North Tohoku Region with a population of 300,000. It has an abundance of nature, and it is known as a city of education and culture.

There are many people from Iwate who have played important roles in the areas of academism, culture and politics. Among them include the philosopher MIYAZAWA Kenji, the poet ISHIKAWA Takuboku, and the author and international administrator NITOE Inazo. Additionally, four former Prime Ministers were from Iwate.

Hiraizumi, which is located in southern Iwate, was the center of prosperity of the Fujiwara Family, and there was registered as a UNESCO World Heritage site in June 2011. In the center of the prefecture is Tohno, which is well-known for folklore and folk tales. A famous folklorist, YANAGIDA Kunio wrote "Tales of Tohno".

In March, 2011, Iwate's coastal areas were utterly destroyed by the East Japan Great Earthquake. Morioka as well as other inland areas of Iwate continuously provide support to the disaster affected areas and all communities work together towards recovery. Iwate has a rich culture and history, and it also experienced the great natural disaster. Studying at Iwate University located in Morioka, the center of the capital of Iwate, would be most suitable for students wanting to understand Japanese culture and nature and how nature (including disasters) and human beings can coexist. We are always looking forward to seeing promising youth from around the world on our campus.

■ Outline of Courses

① Profile

The program focuses on Japanese language and affairs as a whole: culture, history, geography, politics, economics, society, education, etc.

In order to encourage students to understand "Japan", students will engage in hands-on experiences outside the classroom such as a kimono

workshop, Tea ceremony, Japanese calligraphy, etc. In addition, students are required to write an academic report focusing on the topic of their selection related to the Japanese culture.

② Maximum Enrollment: 5

(Recommendation by Embassy: 2)

(Recommendation by University: 3)

③ Qualification for Enrollment

In order to apply for this program, students must meet the following requirements.

1) An intermediate or advanced level of Japanese proficiency, mastery of approximately 1,000 basic kanji and a vocabulary of 6,000 words, and the ability to carry on daily conversation and read simple passages in Japanese.

2) A major or minor of Japanese language, Japanese culture or a Japan related field at their home institution.

④ Goals and objectives

Goals of this course are as below.

- 1) Students acquire two and more higher leveled Japanese language skills comparing from when they had just arrived Japan.
- 2) Students acquire academic writing and presentation skills in Japanese.
- 3) Students acquire wide-ranging knowledge based on their experiences in Japan and Iwate and also skills to understand and interpret them.

⑤ Period:

1 October, 2015 – 30 September, 2016
(Closing Ceremony: early August, 2015)

⑥ Outline of Courses

The course of study has two main components. In one, students take Japanese language and culture classes for international students. In the other, students take classes in their areas of study with Japanese undergraduates from the University. Students are assigned an adviser who will help them decide the number of classes to take. Usually, students can take any course that is available and meets their interests. Thus, they are able to focus on their specific area of interest.

Iwate University provides Japanese language courses from the beginning to the advanced level. In these classes, students have the unique opportunity to study Japanese with classmates from a variety of different countries. There are also courses taught in English.

Courses encompassing the study of the Japanese language and Japanese Affairs are listed on this page(one class length is 90 minutes).

(Students in the JLC Program are able to take interdisciplinary courses and supplementary courses.)

Introductory Major Courses
Discovering Japanese Culture and Japanese Psychology (Taught in English)
Iwate Studies (Taught in English)
Cultural Domains (Taught in English)
Intercultural Non-Verbal Communication (Taught in English)
Japanese Tradition from Global Perspectives (Taught in English)
Japanese Classical Literature in easy Japanese
Independent Studies



Kimono workshop

Japanese Language & Japanese Affairs Courses	
International Courses	Intermediate Japanese I grammar
	Intermediate Japanese I Conversation
	Intermediate Japanese I Composition
	Intermediate Japanese I Reading
	Intermediate Japanese I Kanji
	Intermediate Japanese II Grammar
	Intermediate Japanese II Conversation
	Intermediate Japanese II Composition
	Intermediate Japanese II Reading
	Intermediate Japanese Kanji
Interdisciplinary Courses	Intermediate Japanese II JSP for social science
	Intermediate Japanese II for Academic
	Advanced Japanese for Business
	Advanced Japanese for Academic
	Independent Studies
	Advanced Japanese A (Presentation)
	Advanced Japanese B (Reading 1)
	Advanced Japanese C (JSP for Science/Social science 1)
	Advanced Japanese D(Writing 1)
	Advanced Japanese E (Oral communication)
Interdisciplinary Courses	Advanced Japanese F(Reading 2)
	Advanced Japanese G (JSP for Science/Social science 2)
	Advanced Japanese H(Writing 2)
	Multicultural Communication A
	Multicultural Communication B
	Japanese Culture & Society A
	Japanese Culture & Society B

1) Required Course

- ① Japanese Language:
More than 4 credits per semester
- ② Japanese Culture and Society
2 credits per semester
- ③ Japanese Culture and Research
2 Credits (Independent Studies)

2) Participating Course

- ① Iwate Studies
Students will visit famous spots in the area including museums and learn the history in Iwate Region.
- ② Multicultural Study Camp
Students study about multicultural Communication through camping with junior high school Students and other university students.

Also, International students are invited to participate in such annual events as Cherry-tree blossom viewing picnics (Japanese tradition), a bus tour, camping, summer festivals, Mochi pounding, skiing and a visit to a hot spring. Girl's Doll Festival, Kimono workshop etc. by local community groups. These hands-on experiences serve as a great opportunity to understand Japanese culture. Students are also invited to local schools for cultural exchanges.

3) Other Courses

From various specialized subjects relate to Japanese language and situation from all the faculties such as Humanities and Social Sciences, Education, Engineering and Agriculture, students can choose classes depending their own skills and interests.



Field Study

⑦ Annual Events

- Oct. Opening Ceremony & Orientation
- University Festival
- Nov. International Camp for Multicultural Communication Training
- Dec. Ikebana and Kimono Workshop
- Winter Vacation (21 Dec. – 6 Jan.)
- Jan. Ski Trip
- May. Workshop for Disaster Prevention
- Jun. Garden Party
- Jul. Final Presentation
- Aug. Closing Ceremony

Field Study

⑧ Teaching Staff

Advisers are assigned to individual students to help them in their respective fields of study. In addition, faculty members from the International Center assist students with their Japanese language study as well as academic and daily life.

The faculty members belonging to the International Center are:

Associate Professor	Yoko MATSUOKA
Associate Professor	Natsumi ONAKA

⑨ Requirements for a Certificate of Completion

Method for certify of completion: the council screens the students who completed all required courses.

A Certificate of Completion and transcript will be issued to students who successfully complete the program. Students earn the credits if their academic scores meet the requirements.



Ski Trip

■ Resident Facilities

The International House is an on-campus housing facility for international students and has 30 single rooms, 3 rooms for couples, and 3 for researchers. International students can live in the International House for up to 1 year.

http://iuiic.iwate-u.ac.jp/english/01_hope/hope_05/index.html



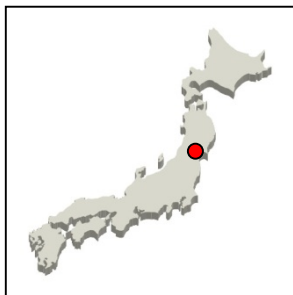
International House

■ Follow-up for Graduates

Students can get a constant support after they left about their paths and necessary information will be provided.

■ Contact Address

International Office, Iwate University
3-18-34 Ueda, Morioka, Iwate 020-8550
TEL : +81-19-621-6927
FAX : +81-19-621-6290
Email : gyugaku@iwate-u.ac.jp
URL : <http://www.iwate-u.ac.jp>
<http://iuiic.iwate-u.ac.jp/>



東北大学 (宮城県)



自主的な学習・研究活動を好む学生に向けたプログラムである。多数の日本語の授業に加えて、日本思想史、日本文学関連の授業を常時開講している。また、授業での発表のしかた、報告の書き方などアカデミック・スキルの指導にも力を入れている。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

1) 東北大学は日本で3番目の国立大学として1907年に創設された。現在、10の学部、16の大学院研究科、3つの専門職大学院及び6つの研究所がある。伝統の「門戸開放の精神」と「研究第一主義」にもとづき、国際級の大学として、教育・研究上重要な役割を果たしている。

2) 学部名、教員数、学生数は次のとおりである。
(平成26年5月)

学部: 文学部、教育学部、法学部、経済学部、
理学部、医学部、歯学部、薬学部、
工学部、農学部

教員数: 3, 174名

学生数: 学部学生 11, 060名
大学院生 6, 757名 計 17, 817名

② 国際交流の実績

留学生数: 1, 532名 (83カ国) (2014年5月現在)
外国人研究者数: 1, 760名 (2013年度受入実績)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年: 留学生数 1, 532人、日本語・日本文化研修留学生 10人
2013年: 留学生数 1, 436人、日本語・日本文化研修留学生 3人
2012年: 留学生数 1, 431人、日本語・日本文化研修留学生 2人

④ 地域の特徴

宮城県は東北地方に属している。東部は太平洋に面し、仙台平野をはさんで西部は山地となっており、漁業、農業等がさかんである。東北大学のある仙台市(人口約100万)は城下町として栄えた都市で、現在は東北地方の経済・文化の中心として重要な役割を果たしている。昔から「杜の都」と言われ、日本の中でも美しく住みやすい都市の一つとして知られている。首都の東京からは新幹線で1時間40分の距離である。

■コースの概要

① コースの特色

東北大学日本語・日本文化研修プログラム

本プログラムは、多様な日本語・日本文化関係の授業の中から、当人のレベル・目的に適合した授業を選択して受講する方式になっている。自主的な学習・研究活動を好む学生に向けたプログラムである。多数の日本語の授業に加えて、日本思想史、日本文学関連の授業を常時開講している。また、授業での発表のしかた、報告の書き方などアカデミック・スキルの指導にも力を入れている。

② 受入定員
10名(大使館推薦9名、大学推薦1名)

③ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムへの応募者は次の条件を満たすことが求められる。

- 1) 中級以上の日本語能力を有すること。国際交流基金が実施している日本語能力試験の2級以上の能力を有することが望ましい。
- 2) 原籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

④ 達成目標

日本語能力の向上、および日本・日本文化に対する理解を深める。

- ⑤ 研修期間
2015年10月1日 ～ 2016年9月30日
修了式は9月を予定

⑥ 研修科目の概要

留学生のために開講されている右記の授業科目を中心に受講する。授業は1回90分である。

レベル	授業種別	学習内容	期間
中級後期	文法	中級後期の文法を学ぶ。	15週
	聴解	ニュースなどの聴解練習を行い、日本社会に関する知識を得る。	〃
	聴解	e-learning システムを利用して聴解練習を行う。	〃
	会話	ゼミ形式で会話練習を行う。報告、発表、討論などの方法を学ぶ。	〃
	読解	解説文や論説文の読解を通して、学術的な文章の表現や構造を学ぶ。	〃
	作文	学術的文章の作成の技法を身につける。学期末に小論文を書く。	〃
	応用	応用練習。日本人学生をまじえたコミュニケーションのクラス。	〃
	漢字	大学で使う基本的な語彙を重点的に学習する。	〃
	日本文化	日本の歌を素材として日本語・日本文化を学ぶ。	〃
	日本文化	日本研究ゼミ。論説文の概要を報告し、内容について討論する。	〃
	日本文化	日本の企業で働くために必要な日本語表現やマナーを学ぶ。	〃
	日本文化	経済学・経営学の分野で使われる日本語を学ぶ。	〃
上級	文法	上級前期の文法を学ぶ。	〃
	読解	日本の社会や文化についての文章の読解により学術的表現を習得する。	〃
	応用	応用練習。研究のための日本語の総合的な力をつけることをめざす。	〃
	漢字	大学での勉強・研究に必要な漢字語彙を学習する。	〃
	映像	映画やTVドラマを見て、日本語と日本文化を学ぶ。	〃
	多文化	日本人学生とともに現代日本社会について考える。	〃
	日本思想	江戸時代までの歴史を、思想を中心に学習する。	〃
	日本思想	明治時代以降の歴史を、思想を中心に学習する。	〃
	日本文化	著名な日本文化論を読み、意見交換を行う。	〃
	日本研究	日本研究ゼミ。論説文の概要を報告し、内容について討論する。	〃
	近代・現代文学	明治時代から現代までの文学作品からテキストを選んで読み、内容について話し合う。	〃

2) 見学、地域交流等の参加型科目

特別講義を年5回行う。特別講義は、日本の伝統文化についての実演をかねた授業である。華道、和菓子作り、茶道、和太鼓など。

3) その他の講義、選択科目等

全学の学部学生を対象とした全学教育科目や、各局で開講している学部学生向けの授業も、担当教員の許可を得て履修又は聴講することができる。

⑦ 年間行事

オリエンテーション、開講式、インターナショナル・アワー（年8回程度：日本人学生や他の留学生との交流行事）、国際祭り など。

⑧ 指導体制

責任教員：助川泰彦教授（日本語教育学、音声学）

高橋章則教授

（日本思想史学、文化史学）

日本語教育部門スタッフ：31名

事務責任者：我妻建史 教育・学生支援部留学生課長

※ 研修生には指導教員がつく。

⑨ コースの修了要件

研修生は各学期6科目以上の授業を履修しなければならない。

■宿 舎

施設及び所在地

- ・国際交流会館三条第一会館

仙台市青葉区三条町19-1

- ・国際交流会館三条第二会館

仙台市青葉区三条町10-15

- ・国際交流会館東仙台会館

仙台市宮城野区東仙台6-14-15

- ・ユニバーシティ・ハウス三条

仙台市青葉区三条町19-1

- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ

仙台市青葉区三条町19-1

- ・ユニバーシティ・ハウス片平

仙台市青葉区一番町1-14-15

【ホームページ】

<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index.cgi?pg=130515141317>



■問合せ先

東北大学グローバルラーニングセンター

助川泰彦（教授）

住所 〒980—8576

宮城県仙台市青葉区川内41

TEL +81-022-795-7966

（直通）

FAX +81-022-795-7826

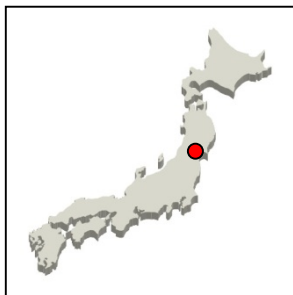
E-mail sukegawa@m.tohoku.ac.jp

東北大学グローバルラーニングセンターホームページ

<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index.cgi>

東北大学ホームページ

<http://www.tohoku.ac.jp/>



TOHOKU UNIVERSITY (Miyagi Prefecture)



This program is aimed at students who have strong motivation and interest in independent research activities. In addition to a number of Japanese language courses, the program regularly offers classes in history of Japanese thoughts, Japanese literature, etc. Among the foci of the program is to train program students in academic skills in class presentation and report writing.

■ University's Overview

① University's Overview

Tohoku University was founded in 1907 as the third Imperial University in Japan. Tohoku University consists of 10 faculties for undergraduate, 16 graduate schools, 3 professional graduate schools and 6 research institutes. Based on "research-first" and "open-door" policies, we are committed to playing a vital role in international cooperative research and educational endeavors as a world-famous university.

2) Department: (as of 1 May,2014)

Arts and Letters, Education, Law, Economics, Science, Medicine, Dentistry, Pharmacy, Engineering, Agriculture

Number of students, etc.

Faculty members : 3,174

Undergraduate students : 11,060

Graduate students : 6,757 total : 17,817

② Track record of international exchange

International students : 1,532

(83 nationalities and areas) (as of 1 May,2014)

International visitors & researchers : 1,760

(April, 2013–March, 2014)

③ Students accepted in recent years

2014: International students : 1,532

Japanese and Japanese Culture Training Course students : 10

2013: International students : 1,436

Japanese and Japanese Culture Training Course students : 3

2012: International students : 1,431

Japanese and Japanese Culture Training Course students : 2

④ Characteristics of the Region

Miyagi Prefecture belongs to Tohoku (northeastern) district in Japan. The eastern part of the prefecture faces the Pacific Ocean and the western part is a mountainous region. Between them lies the Sendai Plain. Fishery and agriculture are the chief industries in the prefecture. Sendai city in which Tohoku University is located has a population of about 1,000,000. The city, once prospered as a castle town, plays an important role as the economic and cultural center of Tohoku district at present. Sendai has been called "City of Green" and widely known as one of the most beautiful and environmentally pleasant cities in Japan. It is about 1 hour and 40 minutes by Shinkansen (super express) from Tokyo.

■ Program Overview

① Feature of the course

Japanese language & Japanese culture studies program at Tohoku University Characteristics of the Program

This program is aimed at students who have strong motivation and interest in independent research activities. The students can take classes of their choice from a large variety of Japanese language and culture courses offered at Tohoku University. In addition to a number of Japanese language courses, the program regularly offers classes in history of Japanese thoughts, Japanese literature, etc. Among the foci of the program is to train program students in academic skills in class presentation and report writing.

② Number of Student to be accepted :

10 students

Embassy Recommendation: 9

University Recommendation: 1

③ Qualification and Requirements for Applicants

Applicants must satisfy the following conditions.

1) Applicants are expected to have passed level 2 (or higher) of the Japanese Language Proficiency Test provided by Japan Foundation or have equal or higher proficiency.

2) Applicants must be studying Japanese language or Japanese culture as their academic major at their home country university.

④ Goals and Objectives

Improvement of Japanese ability, and understanding of Japan and Japanese culture.

⑤ Period of the Program

October 1, 2015 – September 30, 2016

Closing ceremony is scheduled for September.

⑥ Classes

All courses meet 1.5 hours per week. The following table is a list of Japanese language and culture related classes for international students.

Level	Class type	Learning contents	Week
Intermediate	Grammar	Learning intermediate level Japanese grammar	15
	Listening	Practice listening to news on Japanese society	"
	Listening	Practice listening comprehension using CALL	"
	Conversation	Practice seminar-style conversation : reporting, presenting and discussion	"
	Reading	Learning the skills in reading academic papers and articles in Japanese	"
	Composition	Learning the skills in writing academic papers and articles in Japanese	"
	Practice	Practice communication with Japanese students	"
	Kanji	Learning college-level Kanji	"
	Culture	Learning Japanese language and culture through songs	"
	Culture	Reading and discussing in Japanese culture and society	"
Advance	Culture	Learning expressions and manners in Japanese business	"
	Culture	Learning Japanese used in Economics and Management	"
	Grammar	Learning advanced-level Japanese grammar	"
	Reading	Learning academic expressions through reading books about the Japanese society and culture	"
	Practice	Learning the integrative Japanese skills for academic purposes	"
	Kanji	Learning Kanji characters necessary for the college-level study	"
	Culture	Learning the Japanese language and cultures through films and TV programs	"
	Culture	Providing an opportunity to consider the Japanese society together with Japanese students	"
	Culture	Learning the Japanese history up to the Edo period	"
	Culture	Learning the Japanese history after the Meiji period	"
	Culture	Reading famous articles on the Japanese culture and discussing them in class	"
	Culture	Reading and discussing in Japanese language and culture	"
	Culture	Reading the Modern Japanese literature selectively and discussing them in class	"

2) Workshops on Japanese Culture

The program also offers Workshops on Japanese Culture (Flower arrangement, Japanese sweets cooking, Tea ceremony, Japanese drums, etc.)

3) Other lectures, elective, etc.

Besides these classes for international students, the program students may, with the permission of the instructor, take or audit undergraduate classes in other departments (e.g. Faculty of Arts and Letters).

⑦ Events

Orientation, Opening Ceremony, International hours, International festival, etc.

⑧ Support System

Academic advisors:

SUKEGAWA, Yasuhiko

(Professor in Japanese phonetics)

TAKAHASHI, Akinori

(Professor in Japanese history of thoughts, Cultural history), and 31 others

Administrative officer:

WAGATSUMA, Takeshi

(Director of Student Exchange Division)

※ An academic advisor will be assigned to each student.

⑨ Requirements for completion of the course, the issue of certificate

Program students are required to take a Minimum of 6 classes per week in each semester.

■ Dormitory

Accommodations and Locations

• International House Sanjo 1

19-1 Sanjomachi Aobaku Sendai 981-0935

• International House Sanjo 2

10-15 Sanjomachi Aobaku Sendai 981-0935

• International House Higashi-Sendai

6-14-15 Higashisendai Miyaginoku Sendai 983-0833

• University House Sanjo

19-1 Sanjomachi Aobaku Sendai 981-0935

• University House Sanjo II

19-1 Sanjomachi Aobaku Sendai 981-0935

• University House Katahira

1-14-15 Ichibancho Aobaku Sendai 983-0833

Website

<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index.cgi?pg=130515141317>



■ Contact Person

Name : SUKEGAWA, Yasuhiko

Position : Professor

Address :

41 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai, 980-8576 JAPAN

Phone : +81-22-795-7966

Fax : +81-22-795-7826

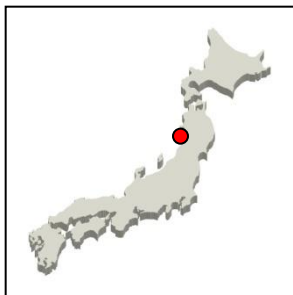
E-mail sukegawa@m.tohoku.ac.jp

Global Learning Center, Tohoku University

<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index.cgi>

Tohoku University Homepage

<http://www.tohoku.ac.jp/>



秋田大学 (秋田県)



秋田の豊かな自然と風土に立脚し、秋田独自の視点から日本文化および地域文化を十分に学ぶことができます。

日本人学生との交流、異なる文化背景を持った他留学生との交流の機会が数多くあり、体験的に日本語・日本文化を習得できるコースです。

■大学紹介

① 大学の特徴および概要

秋田大学は、教育文化学部、医学部、理工学部、国際資源学部の4学部（研究科を除く）からなる総合大学で、約5,000人の学生が学んでいます。

日本語・日本文化研修留学生を受け入れる教育文化学部の歴史は古く、今日まで120有余年にわたり教員養成と地方文化の拠点として幾多の人材を教育、学芸、文化の各方面に送り出してきました。



秋田大学
外観

② 国際交流の実績

大学間協定を53大学（28カ国・地域）、部局間協定を16学部等（9カ国）と結び、留学生の受入れや日本人学生の派遣などを活発に行っています。（2014年10月1日実績）

③ 過去3年間の受入れ留学生数 及び

日本語・日本文化研修留学生の受入実績
（毎年度10月1日実績）

年度	留学生数	日 研 生
2012	211	4
2013	208	5
2014	195	4

④ 地域の特徴

秋田市は秋田県の県庁所在地で、東北地方に位置し、人口は約33万人、東北地方の主要都市の一つです。

秋田県は、世界自然遺産である「白神山地」、日本の深さを誇る湖「田沢湖」などがあり、自然の美しさに溢れた地域です。自然豊かな山に囲まれ、各シーズンを通して、登山や温泉などを楽しむことができます。



秋田駒ヶ岳



田沢湖

また、「かんとう」「なまはげ」「かまくら」などの伝統的な行事が多数受け継がれているほか、小京都と呼ばれる「角館」など、史跡も数多く、そこでは人々の心のあたたかさにふれることができます。



夏：かんとう



冬：かまくら

■コースの概要

① コースの特徴

秋田大学日本語・日本文化研修プログラムは、日本の大学での勉学に必要な日本語能力を習得し、秋田地域独自の視点から日本文化を理解・研究するためのプログラムです。

●「日本語」授業

講義を理解してノートを取り、試験やレポートを書ける、ゼミなどで専門的な討論に参加し自分の意見を発表できる、交友を広げるための異文化コミュニケーション能力の技能習得等をめざします。

●「日本文化」授業

最大の特長は、全て日本人学生と共に受講することができる点です。各個人の文化を深く知ることをめざした「多文化コミュニケーション入門」などの学生参加型授業だけでなく、日本語の古典の思想について古典文法の知識がなくとも学ぶことのできる「日本の古典文学」など専門的知識を学ぶこともできます。

●「課題研究」

「日本語」および「日本文化」授業で学んだ成果と、秋田・日本での生活経験から得た問題意識を研究レポートとしてまとめる「課題研究」を必修としています。「課題研究」では少人数でじっくり考えながら研究テーマを決め、それぞれの受講生にあった研究方法を教員が助言します。

② 受入定員

大学推薦：3名 大使館推薦：2名

③ 受講希望者の資格、条件等

●必要な日本語レベル

日本語能力試験のN2のレベル。
やや高度な文法・漢字(1,000字程度)・語彙(6,000語程度)を習得し、日常生活についての会話ができ、読み書きできる能力を求めます。

●日本語学習歴および専攻の条件

外国の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍し、日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了した者を対象とします。

④ 達成目標

●日本語学習

日本語で学術的内容のレポートを作成し、その内容について口頭で発表でき、また質疑にも日本語で答えられる能力の習得をめざします。

これは、日本語能力試験1級(N1)合格相当にあたりますが、自分の問題意識を他者に伝えるための日本語能力習得を重視します。

●日本文化学習

一般的な日本文化理解にとどまることなく、日本人と合同の授業やさまざまな課外活動の経験、また秋田県での日常生活を通じ自らの課題を見つけ、それに基づいて、日本文化とは何か、秋田の文化とは何かを考察できるようになる地点をめざします。

⑤ 研修期間

秋 semester : 2015年10月～2016年2月
春 semester : 2016年4月～2016年8月
(各学期15週間+テスト 1コマ90分)

●修了式は8月を予定(2015年は8月)

⑥ 研修科目の概要

1) 必修科目

課題研究 (90分×15回)	日本語・日本文化科目での学習、および秋田での生活を通して発見したことに基づき、論文を作成する
-------------------	--

2) 選択必修科目

i) 日本語科目

日本語4-I/II (各90分×30回)	大学生活に必要な会話能力 および漢字を身につける
日本語4-III/IV (各90分×30回)	大学生活に必要な読解と作文 能力を身につける
日本語4-V/VI (各90分×15回)	中級レベルの文法・語彙・表現の 運用能力を総合的に高める
日本語5-I/II (各90分×15回)	論文やレポートなどの高度な 書き方を習得する
日本語5-III/IV (各90分×15回)	プレゼンテーションスキルの向上 と正しい音声での発話を目的とし た講義
日本語5-V/VI (各90分×15回)	新聞読解やニュース聴解などを 通して、時事日本語を学ぶ
日本語5-VII/VIII (各90分×15回)	上級レベルの文法・語彙・表現の 運用能力を総合的に高める
日本語5-IX (90分×15回)	日本語でさまざまなスタイルの 文章を書く
日本語5-X (90分×15回)	論文の読解の仕方を学ぶ

ii) 主な日本文化科目(選択必修)

※日本人学生との合同授業

掲載されている授業以外にも、授業が用意されています。

日本社会入門 I/II (各90分×15回)	日本や秋田の社会について学ぶ
日本の古典文学 (90分×15回)	古典文学を通し、日本文化の背景に ついての理解を深める
日本語教授法 (90分×15回)	日本語の教え方の基礎を学ぶ
日本語教育学入門 I/II (各90分×15回)	日本語教育学の歴史的背景、日本語教 育実践研究の意義と課題、言語教育 観、評価観の現状に関して考察する
日本語学 V/VI (90分×15回)	社会言語学的アプローチにより日本語の 現状を理解する。待遇表現など日本語 表現の可能性と問題を検討する
言語コミュニケーション I (90分×15回)	日本語と英語との対象言語学の基礎的 知識などを学ぶ
日朝比較文化論 I (90分×15回)	日本と韓国の近代について考える

3) 参加型科目 ※日本人学生との合同授業

日本文化入門 I/II (90分×15回)	日本や秋田の文化について農業体験 や施設見学を通じて学ぶ
多文化間交流論 I/II (各90分×15回)	日本人学生と討論し、コミュニケー ション力を向上させる
社会教育課題研究	まちづくりに関し地域で現地調査を 行い、研究成果を発表する

4) 実技(選択) ※日本人学生との合同授業

柔道	日本民謡
サッカー	

⑦年間行事（2014年度実績）

- 1月 卒業・修了パーティ
- 2月 冬の伝統行事体験/スキー合宿
- 7月 夏の見学旅行（尾去沢鉱山跡）
- 10月・11月 秋田の農家民泊体験
- 12月 もちつき

このほかにも、地域のボランティアの方々に協力を
をいただいて、着物や茶道、生け花の体験なども
行っています。



もちつき スキー合宿

⑧指導体制

国際交流センター専任教員
市嶋 典子 准教授
E-mail: ichis@gipc.akita-u.ac.jp

国際交流センター専任教員
佐々木 良造 助教
E-mail: ryozo@gipc.akita-u.ac.jp

国際交流センター専任教員
平田 未季 助教
E-mail: mihirata@gipc.akita-u.ac.jp

留学生の学習や生活上の問題解決の手助けをする
ため、国際交流センターの担当教員が個別指
導や補講を行っています。

⑨コースの修了要件、修了証書の発行

- ◆修了要件：
コース期間中、日本語・日本文化科目を各セメ
スター7コマ以上受講し、課題研究の小論文を
提出すること
- ◆修了証書の発行：期間修了時（2015年8月予定）

■宿 舎

日研生はほとんどの場合、④の借上アパートにな
ります。

- 留学生用宿舎等（単身用）
 - ①留学生会館（27室）
 - ②国際交流会館 A棟（10室）
 - ③国際交流会館 B棟（18室）
 - ④大学借上アパート（最大20室）

※室数が限られているため、希望者全員が希望の宿舎に
入居できるとは限りません。宿舎に入居できない場合は、
生協を通じてアパートを探すことができます。

- 過去3年間の日研生の宿舎入居状況
 - ・2012年度 大学借上アパート4名
 - ・2013年度 大学借上アパート5名
 - ・2014年度 大学借上アパート4名

- 宿舎費（単身用・月）
 - ①②5,900円 ③15,000円 ④17,500円
 - （ガス・水道・電気などの光熱費は含まない）
 - （④はインターネット代も含まない）

- 各個室の設備等
ユニットバス・トイレ、冷蔵庫、キッチン、ベッ
ドなど。各部屋にエアコンも完備。
※ふとん、食器などは各自用意願います。

- 通学時間：①徒歩15分 ②③徒歩5分 ④徒歩20分

- 参照ホームページ
http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/in_guide.html



留学生会館



国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

- 研究レポートを日研生用のウェブサイト
に掲載し、他の研究者から問い合わせがあった
場合は、速やかに修了生に連絡して、研究の
進展を支援しています。
- 研究レポートを卒業論文作成へとつなげる
ために、帰国後も「課題研究」担当教員が
卒業論文執筆援助を行います。

- キャリアパスの例
 - 1) 母国の出身大学に就職し、留学生関係の仕事
に従事。
 - 2) 秋田県の企業に就職し、秋田と中国間の貿易
関係の仕事に従事。
 - 3) 母国で日本語教室を開校。



忠犬ハチ公で
有名な秋田犬

■問い合わせ先（担当部署）

秋田大学 国際課 留学生交流・支援担当

住所 〒010-8502
秋田県秋田市手形学園町1-1
TEL +81-18-889-2258
FAX +81-18-889-3012
E-mail ryugaku@jim.u.ac.jp

- 秋田大学ホームページ
<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/index.html>
- 秋田大学国際交流センターホームページ
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html>
- 日研生ホームページ
http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/in_class.html

Akita University



Japanese Studies Students at Akita University can deepen their understanding of Japanese culture and local culture from a unique view point of Akita. They can also experience Japanese language, culture and other views through interaction with Japanese students and other international students of various cultural backgrounds.

■ University's Overview

1. History and Features

Akita University is a comprehensive university comprising four faculties, namely, Faculty of Education and Human Studies, Faculty of Medicine, Faculty of Engineering Science and Faculty of International Resource Sciences.

The Faculty of Education and Human Studies has a long history. Up to the end of the past 120 years, as a center of teacher's training and local culture it has produced a lot of talented people for the fields of education, liberal arts and culture.



2. Academic agreements

The international exchange is very brisk in Akita University. We have inter-university agreements with 53 universities in 28 countries and regions. We also have inter-faculty agreements with 16 faculties of universities in 9 countries as of October 1, 2014.

3. Number of International students

Japanese studies program students

2012: International Students	211
Japanese studies program	4
2013: International Students	208
Japanese studies program	5
2014: International Students	195
Japanese studies program	4

※as of October 1 each year

4. Environments of Akita

Akita City is in the central part of Akita Prefecture, located on the western side of Tohoku District (the Northeastern Part of Mainland).

Akita is rich in natural beauty of the seasons. Students can enjoy hiking and hot springs through every seasons.



Mt. Komagatake



Tazawa Lake

There are also numerous places of historical interest as well as traditional festivals in and around Akita. People in this area are friendly and warmhearted, as you will find.



Kanto Festival



Kamakura Festival

■ Outline of Japanese Studies Program

◆ Contents of the Course

This program is for those students from other countries who are regular students that wish to improve their Academic Japanese skills to pursue their academic goal in university. We also accept students who have interested in starting their research about Japan from a unique view point of Akita area.

The aims of **Japanese Language course** are as follows;

- (1) To be able to understand lectures in Japanese and take notes in Japanese.
- (2) To be able to write papers and technical reports in Japanese.
- (3) To be able to participate in discussions in Japanese in upper level seminar classes.

The aims of **Japanese Culture course** are to get basic knowledge of the latest Japanese cultural studies analyzed through local viewpoint. Students will attend Invitation to Multi-cultural Communication and Studies on Japan, and so on.

At the end of the one-year-course, all Japanese studies students are required to write short papers as final reports.

◆ Number of Students to be accepted :

- Recommendation by university: 3
- Recommendation by embassy: 2

◆Qualifications and Conditions of Applicants

Those who wish to apply for our program should at least have mastered basic grammar of the language, should be able to take part in everyday conversation and should be able to read and write nontechnical papers.

To specify, the applicants must be enrolled in the university out of Japan in a faculty or department that offers studies related to Japanese language and culture. Those who are going to apply for our program should have studied Japanese longer than 600 hours and have learned more than 6,000 words and 1,000 Kanji (Chinese characters) with a minimum level of JLPT N2.

◆Objectives

●Study Japanese

We will support those advanced international students who are going to conduct academic research in Japanese. Courses are designed to teach students how to make presentations in Japanese.

We will put much emphasis on communicative Japanese abilities to express own interests properly as well as equivalent abilities with JLPT N1.

●Study Japanese Culture

You will acquire general knowledge of Japan and specific knowledge of the local language and culture of Akita prefecture through various experience and highly specialized lectures.

◆Period of the Course (Semester)

- Term 1: October 2015—February 2016
- Term 2: April 2016—August 2016

Each term lasts 16 weeks on which the last is the exam week. The completion ceremony will be held in August.

■ Class Descriptions (Each classes 90 minutes long)

1. Required (90min×15)

Research Paper	Writing a paper based on knowledge learned in Japanese Language classes and Japanese Culture classes, and daily life in Akita.
----------------	--

2. Elective Required (90min×15)

i) Japanese Language

4-I/ II (90min × 30)	Intermediate level grammar and communicative skills on campus
4-III/IV (90min × 30)	Reading and writing skills for academic life
4-V/VI	Integrated project-work class to improve Intermediate level Japanese competence
5-I / II	Advanced writing skills for research papers
5-III/IV	This course aims at improving academic presentation skills as well as correcting accents of students' mother tongues
5-V/VI	Learning current Japanese
5-VII/VIII	Advanced level grammar and communicative skills
5-IX	Writing skills of various Japanese style
5-X	Basic reading skills research papers

ii) Japanese Culture (Conducted with regular Japanese students)

Introduction to Japanese Society I/II	I :Introducing minorities in Japan II :Introductory Japanese Linguistics
Classical Literature in Japan	Understanding of classical literature through reading classical literatures
Methodology of TJFL	Acquiring basic skills of Japanese teaching method
Introduction to Japanese Language Education	Examine the historical context of Japanese language education, purpose and problems of practical research, and philosophy and evaluation of language education.
Japanese Language Studies V/VI	Understanding current Japanese language from sociolinguistic point of view. Examine the capability of various Japanese expressions and problems.
Language and Communication I	Understanding basic constructive linguistics between Japanese and English
Comparative Study of Japanese & Korean Cultures	Discussing of modern Japan and Korea

3. Participatory (Elective Required, conducted with regular Japanese Students) (90min×15)

An Introduction to Japanese Culture I/II	Understanding culture in Japan and Akita thorough lectures by off campus activities, firm stay, and so on.
Invitation to Multicultural Communication I/ II	Finding micro-cultures next to you thorough discussing with Japanese students and writing a paper
Field Study for Social Education	Conducting presentation/field trip based on a regional town development

4. Practical Classes: Judo, Soccer, Japanese Classical Music

◆ Activities (Academic year 2014)

January: Farewell Party

February: Winter Cultural Experience Trip/Ski Trip

July : Summer School Trip(Osarizawa Mining)

October/November : Farm Stay

December: Making Mochi Party

Other activities are also offered such as Kimono, tea ceremony and Japanese flower arrangement.



Mochi Party



Ski Trip

◆ Faculty members

• Associate Professor ICHISHIMA Noriko
(International Exchange Center)
E-mail : ichis@gipc.akita-u.ac.jp

• Assistant Professor SASAKI Ryoza
(International Exchange Center)
E-mail: ryoza@gipc.akita-u.ac.jp

• Assistant Professor HIRATA Miki
(International Exchange Center)
E-mail: mihirata@gipc.akita-u.ac.jp

The International Exchange Center offers counseling services and support for various issues regarding daily life, health and study.

■ Certificate

Certificates of Japanese studies are given at the end of the course when the students have satisfactorily met the requirements.

● Issuing certificates

Upon completing your research period
(to be issued in August, 2015)

■ Accommodations

● Number of Single rooms

- ① Int'l Student House : 27 ② Int'l House Building A : 10
③ Int'l House Building B : 18 ④ Leased apartment : 20

Not all applicants will be able to get the accommodations due to the limited number of rooms available.

If the accommodations are not available, you can find the apartment through University coop.

● Actual number of availability

for Japanese studies program students

- 2012 Leased apartment: 4
- 2013 Leased apartment: 5
- 2014 Leased apartment: 4

● Monthly rent ※Utility fees are not included

- ①② 5,900 JPY ③ 15,000 JPY ④ 17,500JPY
(④also not include Internet access fee)

● Each room is equipped with:

Bathroom, refrigerator, kitchenette, bed, desk, bookshelf.

③④ also has an air-conditioner.

*Need to prepare your own bedding and kitchen utensils

● Distance from campus on foot

- ①15 min. / ②③ 5 min. / ④20 min.

● Web-site

http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/in_guide.html



International
Student House



International House

■ Follow-up for graduates

We upload your research paper on our website so that other researchers can access it and can contact you.

In order to develop your research paper into a graduate thesis, we will continue helping you to complete it even after you return your home country.

○ Examples of career paths

- 1) To engage in international affairs at a partner university of Akita University
- 2) To engage in trade between Japan and China at a company in Akita
- 3) To open Japanese Language School at home country



Akita dog

■ Contact

International Student Support
International Affairs Division

● Address:

Akita University , Tegata-Gakuenmachi 1-1
Akita City, 010-8502 Japan
TEL +81-18-889-2258 / FAX +81-18-89-3012
E-mail ryugaku@jimmu.akita-u.ac.jp

● University Web-site

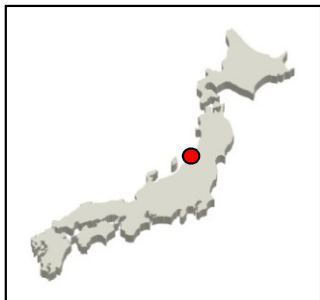
<http://www.akita-ac.jp/english/index.html>

● International Exchange Center Web-site

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html>

● Japanese studies program students

http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/in_class.html



■大学紹介

① 大学の特色および概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、6研究科、1教育院から成る。教員約850人、総学生数約10,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

② 国際交流の実績（2014年10月1日現在）

海外機関との交流協定数：39カ国・地域151機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数

および日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数202人、日研生3人

2013年：留学生数209人、日研生2人

2012年：留学生数207人、日研生3人

④ 地域の特色ー山形県

山形県は、四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。



着付け

山形大学 (山形県)



言葉の世界を探検し、日常会話から古典文学作品まで学んでみませんか？

■コースの概要

① コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な基礎となる言語能力を伸ばすよう授業が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。口頭発表をし、修了論文を書くことのできる日本語力をつけることを達成目標としている。

② 受入定員 大使館推薦・大学推薦 各2名

③ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
- 2) 日本語能力試験2級・N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。

④ 達成目標

生きた日本語が使われている環境で、山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。また、専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養い、同時に自ら行う研究プロジェクトを通して、その運用力を身につける。

⑤ 研修期間 2015年10月1日～2016年9月30日

宿舎には2015年9月下旬に入居できる。修了式は9月を予定。

⑥ 研修科目の概要

授業は前期・後期各15週開講される。授業にはⅠ、Ⅱ、Ⅲの三つの種類がある。Ⅰは留学生向け日本語科目で、Ⅱ、Ⅲは日本人学生とともに学ぶ科目である。

このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要である。そのうち、6科目以上は、Ⅰ、Ⅱの分野から選択するものとする。

- 1) 必須科目：Ⅰの分野の研究プロジェクトを必修とする。
- 2) 参加型科目：Ⅱの科目では、地域の人々と交流する。
- 3) 選択科目：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各科目は、Ⅰの研究プロジェクト以外、すべて選択科目である。

※〔前期〕：4～8月開講科目、〔後期〕：10～2月開講科目

Ⅰ 日本語科目

a. 基盤教育日本語科目

日本語中級1「総合」（北川絹代・鈴木寛子）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「読む」（内海由美子）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級1「書く」（薄井宏美）中級前半〔前期・後期〕

日本語中級2「総合」（菅原和夫・横沢由実）中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「読む」（薄井宏美）中級後半〔前期・後期〕

日本語中級2「書く」（内海由美子）中級後半〔前期・後期〕

漢字4（横沢由実）中級漢字〔前期・後期〕

日本語上級1「読む」（黒沢晶子・園田博文）上級前半一般書の抜粋や新聞記事から情報を読み取り、自国と他国との比較対照を行う。〔前期・後期〕

日本語上級1「話す」（内海由美子）上級前半〔前期・後期〕

日本語上級1「書く」（黒沢晶子）上級前半：日本語でレポート・論文などの学術的文章を書くのに必要な、基礎的な力を養う。〔前期・後期〕

日本語上級1「聞く」（内海由美子）上級前半〔前期・後期〕

日本語上級2「読む」（遠藤義孝）上級後半：文法の復習や読解を行う。〔前期・後期〕

日本語上級2「話す」（菅原和夫）上級後半：大学生生活に必要な聞いたり話したりする力を伸ばすことを目標とする。〔前期・後期〕

日本語上級2「書く」（渡辺文生・内海由美子）上級後半：大学の授業を受講する上で必要となる日本語力の向上を目指す。特に大学の学習・研究活動に必要とされる「書く力」の養成を目指して練習を行う。〔前期・後期〕

研究プロジェクトⅠ：〔後期〕

研究プロジェクトⅡ：〔前期〕

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

b. 人文学部専門日本語科目

日本語(二) (渡辺文生) : 上級の読解を行う。

〔後期〕

日本語コース授業時間数

- ・日本語中級1・2 : 各学期 210時間
- ・日本語上級1 : 各学期 120時間
- ・日本語上級2 : 各学期 90時間
- ・研究プロジェクトⅠ・Ⅱ 各学期 30時間
- ・日本語(二)後期 30時間

Ⅱ 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門(尤 銘煌) 地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。〔前期・後期〕

多文化交流Ⅰ(尤 銘煌) 日本の通過儀礼 : 日本人が妊娠、誕生、生育、成人、結婚などの折節に行う冠婚葬祭を通して日本文化・日本社会を理解することを目的とする。〔前期〕

多文化交流Ⅱ(内海由美子) 在住外国人 : 在住外国人をとりまく状況と問題を理解する。また、留学生と日本人学生のディスカッションを通して、多文化を知り、自文化を理解し、自己を再認識することも目的とする。〔前期〕

多文化交流Ⅲ(尤 銘煌) 日本人の死生観 : 通過儀礼の中で最も重要で、伝統的であり、最も複雑な葬送儀礼を通して、日本人の死生観を探り、日本文化・日本社会を理解することを目的とする。〔後期〕

多文化交流Ⅳ(ラインホルト・グリンダ) ヨーロッパと日本 : ヨーロッパと日本の文化に焦点を当てる。〔後期〕

フィールドワーク共生の森もがみ : 山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。〔前期・後期〕



山車作り

Ⅲ 人文・社会科学科目

a. 人文学部教員担当科目 * 基盤教育科目

日本語学特殊講義(中澤信幸) : 日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。〔後期〕

ことばの意味(言語学) * (渡辺文生) : 意味論の基礎的知識について解説する。〔前期〕

日本語音韻史入門(言語学) * (中澤信幸) : 日本語音韻の歴史の変遷について解説する。〔後期〕

日本語学概論(中澤信幸) : 日本語と日本語教育について解説する。〔前期〕

日本語学文法講義(渡辺文生) : 現代日本語の記述的文法を解説する。〔後期〕

日本語学特殊講義(渡辺文生) : 現代日本語の談話分析の研究について解説する。〔前期〕

日本語学講読(中澤信幸) : 日本語の歴史分野に関する研究論文を読み進める。〔後期〕

映像学講義(大久保清朗) : 映画の分析論。日本映画の分析を含む。〔前期〕

日本古典文学講義(宮腰直人) : 主に平安・室町期から近世初期までの和歌・物語・説話などを読む。〔後期〕

日本現代文学講義(森岡卓司) : 明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。〔前期〕

仏教入門(文化論) * (松尾剛次) : 仏教とは何かについて日本仏教に注目しながら論じる〔前期〕

中世都市鎌倉の風景(歴史学) * (松尾剛次) : 日本中世の武士の「首都」鎌倉の実体を語る。〔後期〕

中国文学文化演習(福山泰男) : 漢文を日本語の文法にしたがって読む。(漢文訓読の学習)〔前期〕



お花見

地誌学(山田浩久) : 地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。〔後期〕

基礎講義(文化解釈学)(人文学部教員) : 〔後期〕文化研究の基礎概念と方法を概観し、それらを文学、映画、美術、映像芸術、マンガ等々の様々な対象の解釈、さらには、国家、共同体、諸文化の相互関係に関する諸問題の考察に適用する仕方を紹介する。

文化交流史(伊藤豊) : 明治期の日米文化交流についてフェノロサと岡倉天心に焦点を当てて論じる。〔前期〕

日本外交史(松本邦彦) : 明治以降の日本外交史を映像資料、文献資料をもとに概観し現代の視点で追体験してゆくことで、今後の日本の外交政策を考えて行く上で必要な歴史知識を得てもらう。〔前期・後期〕

日本経済史(岩田浩太郎) : 鎌倉時代から明治時代の経済史を講じ、日本社会の特質をあきらかにする。〔後期〕

b. 地域教育文化学部教員担当科目

国語学概論A(須賀一好) : 音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。〔前期〕

国語学概論B(須賀一好) : 文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。〔後期〕

日本語教育概説(園田博文) : 日本語教育を行う上で必要となる基礎的な事柄について解説する。〔前期〕

日本語学概説(園田博文) : 日本語学の基礎的な事柄について解説する。〔後期〕

日本語教育演習(園田博文) : 日本語教育に関するさまざまな問題を取り上げ討議する。〔前期〕

c. 基盤教育院教員担当科目

日本語教育入門 * (黒沢晶子) : 学習者の文法上の問題を通して日本語を分析する。〔後期〕



着付け

⑦ 見学・行事等

日本の家庭訪問やホームスティ、日帰り旅行、見学旅行、地元の祭り(例:花笠祭り)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

期日	行 事
10月	日帰り旅行
	学園祭(八峰祭)
11～12月	留学生懇談会(学部別)
1月	多文化交流コンサート ー山形から世界へー
2月	山形県留学生日本語スピーチ・コンテスト
7月	実地見学旅行
8月	花笠祭り

⑧ 指導体制

1) プログラム実施責任教員:

黒沢晶子 基盤教育院教授 言語学

2) 協力教員:

内海由美子 基盤教育院准教授 日本語教育

尤銘煌 基盤教育院准教授 社会学

3) 指導教員

人文学部、地域教育文化学部、または基盤教育院の教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

⑥の要件を満たし、本プログラムを修了した者に、修了証が発行される。



先輩日研生が講演に来訪



漫才(地域の国際芸能祭で)



南京玉すだれ(多文化交流コンサート)



花笠祭り

⑩ 単位認定・単位互換

履修した科目の単位を認定し、成績を証明する書類を発行する。認定された単位が在籍大学の専攻における卒業必要条件をどこまで満たすかは、在籍大学の判断による。

■修了生へのフォローアップ

これまで10年間の修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げている。2012年には翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。シンガポールの大学を卒業後、日本へ戻り、JTで働き始めた修了生は、2014年、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。

■宿 舎

1) 一般的な日本のアパートの場合、家賃は、家具なし・風呂トイレ付きの部屋で30,000円～50,000円、家具なし・風呂トイレ共同の部屋で15,000円～30,000円ぐらい。

さらに、入居のときに、敷金として1～2ヵ月分の家賃程度の金額を支払う必要がある。

2) 山形大学山形国際交流会館(香澄町・平清水、家具・風呂トイレ付き、9月下旬に入居できる。)

	室料	共益費	保証積立金
単身室:	5,900円	500円	30,000円
家族室:	14,200円	900円	45,000円

■問い合わせ先

山形大学教育・学生支援部国際交流課国際交流室

所在地:〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

電話: +81-23-628-4017

FAX: +81-23-628-4051

E-mail: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

大学ホームページ:

<http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

プログラム責任教員: 黒沢晶子

E-mail: akuros@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp



Yamagata University (Yamagata Prefecture)



Explore the world of language, literary classics, everyday speech, and more!

■ Yamagata University

① About Yamagata University

Yamagata University came into being in 1949 but its origin goes back to the nineteenth century with the founding of Yamagata Normal School in 1878. Today the university consists of 6 faculties and 6 graduate schools, together with 1 institute. It plays a central role in education and research in Yamagata Prefecture as a major comprehensive national institution with some 850 academic staff and approximately 10,000 students. Its idea of education is to offer specialized programs of natural sciences, humanities, and social sciences closely connected to each other as well as a wide range of liberal arts programs, and to foster global citizens who will play leading roles both in home and around the world. The university's academics aim to pursue and achieve excellence in a wide range of research activities and scholarship, and to contribute to development in the global and local communities.

② International Exchange (Oct 1, 2014)

Number of academic exchange agreements:
128 (39 territories)

③ Number of international students and Japanese Studies Program students during the past three years:

2014: 202 (Nikkensei: 3)
2013: 209 (Nikkensei: 2)
2012: 207 (Nikkensei: 3)

④ Yamagata Prefecture

Yamagata Prefecture is blessed with four distinct seasons and an abundance of nature close at hand. Hot springs can be found throughout the prefecture and you will experience the warmth and genuine hospitality of the people in Yamagata.

■ Contents of the course

① Language and culture courses

Yamagata University offers an excellent range of courses on Japanese language and culture. Japanese language courses are designed for students to develop a language competence, which lays the essential foundation for study. Multicultural studies courses and specialized courses cover a broad spectrum of Japanese culture, including such aspects as linguistics, literature, history, multicultural relations, sociology, geography, economics, politics, art and education. The program focuses on the Independent Studies Project, whose objective is to develop the ability to write an essay in Japanese and present it.

② **Number of students to be accepted:** two each for both Embassy recommendation and University recommendation categories.

③ Qualifications and conditions of applicants

- 1) Applicants are expected to have majored or minored in Japanese language and/or Japanese studies.
- 2) Applicants are expected to have a good command of Japanese, an equivalent of Level 2 or N2 of the Japanese Language Proficiency Test. They are expected to have the ability to express their opinions and interact with Japanese people using Japanese.

④ The aim of the course

The aim of the course is to deepen understanding of the Japanese culture rooted in the local communities through exchanges with people in Yamagata. Students are also expected to develop one's intellect by taking specialized courses and to learn how to carry out a study project in Japanese.

⑤ **Period of the course:** from October 1, 2015 to September 30, 2016. A certificate of completion will be awarded in September.

⑥ Outline of the courses

Courses run for 15 weeks each Spring and Fall Semester. They are divided into three categories: I, II, and III.

Category I contains Japanese language courses for international students while courses in categories II and III are open to both Japanese and international students. To complete the program, students must take twelve or more courses, with six or more from categories I and II below.

- 1) Independent Study Project I & II in category I are compulsory.
- 2) II contains participatory courses in which students have lots of opportunities to meet local people.
- 3) All the courses except Independent Study Project are elective.

I Japanese Language Courses

※[Sp]: Spring Semester, [Fa & Sp]: Fall Semester
Japanese Language Courses for Undergraduates at the Institute of Arts and Sciences

The aim of Japanese courses is to help students acquire the knowledge, strategies and skills to read authentic materials, develop an argument, and effectively interact in Japanese with faculty, staff and other students in the academic environment.

INTERMEDIATE JAPANESE 1&2 [Fa & Sp] 210 credit hours per semester:

Integrated skills (grammar, speaking and listening), **Reading, Writing, and KANJI 4**

ADVANCED JAPANESE 1 [Fa & Sp] Lower advanced, 120 credit hours per semester

Reading, Writing, Speaking, and Listening

ADVANCED JAPANESE 2 [Fa & Sp] Upper advanced, 90 credit hours per semester:

Reading, Writing, & Speaking

INDEPENDENT STUDY PROJECT I & II [Fa & Sp] : 30 credit hours per semester.

Compulsory to all students of this program. Students write an essay in Japanese on a topic agreed in conjunction with the advisor. They will present a paper on their topic at the end of the course.

b. Japanese language courses at the Faculty of Literature and Social Sciences
30 credit hours.

JAPANESE FOR INTERNATIONAL STUDENTS II (WATANABE Fumio):

Advanced reading, aiming to develop skills to read and understand various writings on Japanese cultures and social issues. [Fa]

II Multicultural and Regional Studies

(General Education courses)

JAPANESE CULTURE I & II (YU Ming-Hwang) This course utilizes local resources in Yamagata for international students to experience aspects of the Japanese culture such as tea ceremony, flower arrangement, Zen meditation, and hot springs. [Sp & Fa]

MULTICULTURAL STUDIES I (YU Ming-Hwang)
Life events in Japan: The purpose of this course is to understand Japanese culture and society through important life events such as pregnancy, giving birth, bringing up a child, and wedding ceremonies. [Sp]

MULTICULTURAL STUDIES II (UTSUMI Yumiko)
Foreign residents in Japan: The aim of this course is to promote understanding of the situation and issues of foreign residents in Japan, appreciation of diverse cultures, and to develop critical consciousness through discussion. [Sp]

MULTICULTURAL STUDIES III: (YU Ming-Hwang)
The Japanese perspective on life and death: The purpose of this course is to understand the Japanese perspective on life & death through the most important and traditional ceremony, the funeral. [Fa]

MULTICULTURAL STUDIES IV (GRINDA Reinhold) Europe and Japan: This course focuses on cultures of Europe and Japan [Fa]

FIELDWORK IN AREA CUMPUS MOGAMI

(REGIONAL STUDY)* Learns from local experts such things as a way of life by woods, to make floats for a unique festival. [Sp & Fa]

III Courses in Humanities and Social Sciences

a. The following courses are taught by academic staff at the Faculty of Literature and Social Sciences.

* : Introductory courses offered as a part of general education for undergraduates

TOPICS IN JAPANESE LINGUISTICS (NAKAZAWA

Nobuyuki) :Explicates philology of Japanese language. [Fa]

INTRODUCTION TO LINGUISTICS SEMANTICS

(LINGUISTICS)* (WATANABE Fumio): Explicates basic knowledge of semantics. [Sp]

INTRODUCTION TO JAPANESE HISTORICAL

PHONOLOGY* (NAKAZAWA Nobuyuki) : Explicates history of Japanese phoneme. [Fa]

INTRODUCTION TO JAPANESE LINGUISTICS AT AN

ADVANCED LEVEL (NAKAZAWA Nobuyuki) : Explicates Japanese linguistics and the education as a foreign language. [Sp]

TOPICS IN JAPANESE GRAMMAR (WATNABE Fumio):

Explains the descriptive grammar of modern Japanese. [Fa]

TOPICS IN JAPANESE LINGUISTICS (WATNABE Fumio):

Explains the studies on discourse analysis in modern Japanese. [Sp]

DIRECTED READING IN JAPANESE LINGUISTICS

(NAKAZAWA Nobuyuki): A reading of dissertations of historical Japanese linguistics. [Fa]

STUDIES OF VISUAL IMAGES (OKUBO Kiyooki): Analysis of Visual images (Movie, Video, Animation). Including some critical comments on Japanese Cinema. [Sp]

JAPANESE LITERATURE-CLASSICAL (MIYAKOSHI Naoto):

A close reading of classical Japanese poems and other narrative works.[Fa]

JAPANESE LITERATURE-MODERN(MORIOKA Takashi):

A close reading of modern Japanese novels, poems, and other narrative works. [Sp]



zazen

INTRODUCTION TO BUDDHISM (CULTURE)*

(MATSUO Kenji): An introduction to Buddhism, focusing on Japanese Buddhism.[Sp]

CITYSCAPE OF KAMAKURA IN THE MIDDLE

AGES (HISTORY)* (MATSUO Kenji): Discusses the real state of Kamakura as the metropolis" of Japanese samurai in the middle ages. [Fa]

UNDERGRADUATE SEMINAR IN CHINESE LITERATURE AND CULTURE

(FUKUYAMA Yasuo): A reading of classical Chinese literature according to Japanese grammar. [Sp]

REGIONAL GEOGRAPHY (YAMADA Hirohisa):

This course aims to clarify the relationship between various phenomena in a specific region and its historical and natural environment. [Fa]

FUNDAMENTALS OF CULTURAL

INTERPRETATION (Staff): This course will trace and teach fundamental concepts and methods of cultural studies, applying it to the analysis of literature, cinema, picture, photograph, cartoon and so forth, and also of such problems as nation, state, community, mutual relation between cultures and so on. [Fa]

HISTORY OF CULTURAL EXCHANGE (ITO

Yutaka): This is a course on the cultural exchange between America and Japan, focusing on Earnest. F. Fenollosa and Tenshin Okakura.[Sp]



snow monsters in Zao

JAPAN'S DIPLOMATIC HISTORY (MATSUMOTO

Kunihiko): This course will survey the diplomatic history after the Meiji period through visual and documentary materials and helps students to acquire the knowledge necessary to consider Japan's foreign policy in the future. [Sp & Fa]

JAPANESE ECONOMIC HISTORY (IWATA

Koutaro): This course will trace the Japanese economic history from the 13th to 19th century, clarifying the characteristics of Japanese society. [Fa]

b. The Faculty of Education, Art and Science

INTRODUCTION TO JAPANESE LINGUISTICS A

(SUGA Kazuyoshi): An Introduction to Japanese linguistics, focusing on phonology, the writing system, lexicon, and dialects. [Sp]

INTRODUCTION TO JAPANESE LINGUISTICS B

(SUGA Kazuyoshi): An Introduction to Japanese linguistics, focusing on grammar, the honorific system, and history. [Fa]

INTRODUCTION TO JAPANESE LANGUAGE

PEDAGOGY (SONODA Hirofumi): Surveys the Japanese Language Pedagogy. [Sp]

INTRODUCTION TO JAPANESE LINGUISTICS

(SONODA Hirofumi): An overview of Japanese linguistics. [Fa]

SEMINAR IN JAPANESE LANGUAGE

PEDAGOGY (SONODA Hirofumi): A case study on Japanese language pedagogy. [Sp]

c. The Institute of Arts and Sciences

AN INTRODUCTION TO JAPANESE LANGUAGE TEACHING*

(KUROSAWA Akiko): This course analyzes the Japanese language by exploring learners' problems in grammar. [Fa]



kimono

⑦ Excursions and other events

Students will have the opportunity to meet locals by staying with or visiting a family in Yamagata, through day trips, a field trip, and local festivals (e.g. Hanagasa Matsuri). They can also participate in activities such as a tea ceremony, flower arrangement, kokeshi doll painting, Zen meditation, and kimono wearing.

Oct	Day Trip
	Campus festival
Dec.	Departmental round table meetings for international students
Jan	Multicultural Concert: Yamagata to the World
Feb	Yamagata Japanese Speech Contest for International Students
July	Field Trip
Aug	Hanagasa Festival (Yamagata City)

⑧ Academic advisors

- 1) Program coordinator (Institute of Arts and Sciences)
KUROSAWA Akiko (Professor in Linguistics)
- 2) Supporting academic staff (Institute of Arts and Sciences)
UTSUMI Yumiko (Associate Professor in Japanese Language Teaching)
YU Ming Fang (Associate Professor in Sociology)
- 3) Academic advisor: Each student is assigned to an academic advisor from the Faculty of Literature and Social Sciences, the Faculty of Education, Art and Science, or the Institute of Arts and Sciences, to be supervised in completion of the essay project in weekly tutorial sessions. Students will belong to the faculty/institute of his/her advisor.

⑨ Certificate

The students who fulfill the necessary requirements in ⑥ can obtain a certificate of completion at the end of the program.



Speech contest

⑩ Credits

Credits will be given and a transcript will be issued to the students who have satisfied the course requirements. Their home institution has the final authority to determine how the approved credits are used to fulfill specific major requirements.

■ Alumni

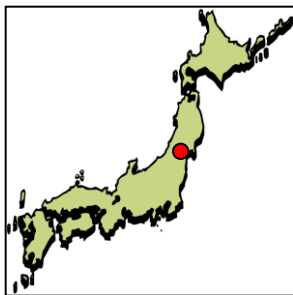
Students who had completed the program in the past ten years keep in touch with us. Most of them have gone on to graduate schools, pursuing their career either in their home countries or Japan. One of them joined Yamagata university as an administrative staff after her master's degree, and now working for Toyota Motor Corporation in China. Another student has started a translation company while doing his master's degree in Finland. He came back to Yamagata for a talk on Finland in 2012. Another one who had started working for JT in Tokyo came to talk to current international students at Yamagata in 2014.

■ Accommodation

- 1) Studio apartment : The Monthly rent for an unfurnished room with bath and toilet is ¥30,000 to ¥50,000; and for an unfurnished room with shared bath and toilet ¥15,000 to ¥30,000. On moving in, 'shikikin', a security deposit equivalent to one to two months' rent, will have to be paid.
- 2) the YU International Houses (Kasumi-cho and Hirashimizu, furnished rooms with bath and toilet):
 - Single room: ¥ 5,900 + ¥ 500 (Common service charge)/month, Security deposit ¥ 30,000
 - Two bedroom flat: ¥ 14,200 + ¥ 900 (Common service charge)/month. Security deposit ¥ 45,000.Students can move in late September.

■ Contacts

International Exchange Division
Address: 1-4-12, Kojirakawa-machi
Yamagata-shi, Yamagata Prefecture,
990-8560 JAPAN
TEL: +81 23 628 4017
FAX: +81 23 628 4051
E-mail: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>
Program coordinator: Dr. Akiko KUROSAWA
E-mail: akuros@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp



宮城教育大学 (宮城県)



地域と学校で日本語・日本文化を学ぶ

■大学紹介

①大学の特色および概要：小さな総合大学

1) 歴史と特色

宮城教育大学は、日本の東北地方、仙台市にある教員養成大学です。学部、大学院（修士課程）あわせて学生総数約1,600人の小規模な大学ですが、あらゆる分野の専門家を擁し、小さな総合大学ということができます。大学全体の家庭的な雰囲気と優秀な指導体制は、大規模大学にない本学の特色となっています。仙台の街は緑ゆたかで、物価も比較的安く、文化施設も豊富で暮らしやすいです。留学生は世界各地から33名が学んでいて、教育の分野を中心として、帰国後は各方面で活躍しています。また、豊かな宮城の環境の中で、持続発展教育（ESD）とユネスコスクールの活動を推進していることで有名です。

2) 教員・学生数等

教授	准教授	講師	助手
71	40	1	2
附属学校教諭	養護教諭	栄養教諭	職員
89	4	2	82

教育学部（学士課程）	1,508人
教育学研究科（修士課程）	117人

(2014年10月1日現在)

②国際交流の実績

大学間交流協定機関：8カ国・地域10件

③過去3年間の受入れ留学生数（10月現在）及び日本語・日本文化研修留学生の受入実績

2014年：留学生数 33人、日本語・日本文化研修留学生 5人
 2013年：留学生数 28人、日本語・日本文化研修留学生 1人
 2012年：留学生数 25人、日本語・日本文化研修留学生 1人

④地域（仙台市）の特色

仙台市は人口100万人の、東北地方の中核都市です。大都市でありながらも自然と調和のとれた町です。多くの歴史のある大学が存在し「学都」として知られます。

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震により津波の深刻な被害を受けた沿岸部に対し、内陸部は比較的軽微な被害にとどまっており、地震以前の暮らしを取り戻しています。

また、福島原子力発電所の事故による放射線数値にも顕著な上昇は見られず、仙台市は震災の復興の拠点としても機能しています。

■コースの概要

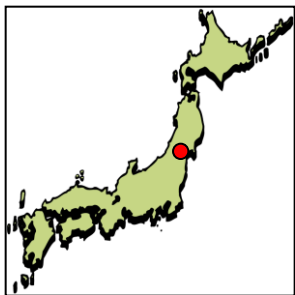
①コースの特色

宮城教育大学は、教員養成を目的とする大学で、その専門分野は、文科系・理科系から、芸術体育系まで幅広い分野にまたがっています。そのため、日本語・日本文化研修留学生は、日本語・日本文化関係の授業だけでなく、多様な講義を受講できます。少人数で密度の高い指導を受けることができます。留学生の諸行事を通じて、日本人学生との交流も活発です。さらに、ユネスコスクールを中心とする学校現場を訪問して、国際理解の活動をしたり、環境教育を中心とした持続発展教育（ESD）について学ぶことができます。

②受入定員：8人（大使館推薦4名、大学推薦4名）

③受講希望者の資格、条件等

日本語学習時間600時間以上相当の日本語力があることが望ましい。日本語・日本文化関係の学部・学科・専攻等に所属しているか、日本語・日本文化関係の科目を履修済みであることが必要です。なお大学1年生については対象外としています。



宮城教育大学 (宮城県)



地域と学校で日本語・日本文化を学ぶ

④達成目標

- ・日本語の高い運用能力を身に付ける
- ・日本、日本文化への理解を深める
- ・日本語や日本文化に関連したテーマを調査する能力、調査結果を発表する能力を身に付け、成果を口頭発表、論文発表する。

⑤研修期間

2015年10月1日～2016年9月30日

修了式は実施しない予定です。

⑥研修科目の概要

「日本語」だけでなく、関連科目も指導教員、授業担当教員と相談しながら履修でき、日本に関して総合的に学習できる研修です。

1) 必修科目

「日本語」-少人数で親切的指導

学習者のレベルにあわせて、上級または中級10のクラスを用意しています。他の国からの留学生とともに少人数クラスで学びます。

上級クラス (日本語学習歴900時間以上の者を対象)				
・1時間: 90分				
科目名	内容	単位数	履修時間	
			前期	後期
上級1A	実践的読解・作文	1	15	15
上級1B	実践的聴解・発話	1	15	15
上級2A	論作文	1	15	15
上級2B	実践的論作文発表	1	15	15

中級クラス (日本語学習歴300時間以上の者を対象)				
・1時間: 90分				
科目名	内容	単位数	履修時間	
			前期	後期
中級1A、2A、3A	聴解・発話	1	15	15
中級1B、2B、3B	読解・作文	1	15	15

「特別研究・論文作成」-論文発表ができます

指導教員の下で学習指導と論文指導を受けます(特別研究・必修2単位)。またその研究成果を論文としてまとめて提出します(修了論文・必修2単位)。

特別研究・修了論文				
科目名	内容	単位数	履修時間	
			前期	後期
特別研究	指導教員の下での研究・論文指導	2	-	
修了論文	研究成果のまとめ	2	-	

* 研究の成果の発表の場として「日本語・日本文化研究発表会(2015年7月)」、論文発表の場として、『留学生教育報告書 PHILIA』があります。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

「国際理解教育活動」

宮城教育大学は、仙台市の宮城県の教育委員会と協力して学校現場の国際理解教育活動を支援しています。留学生は、地域や学校現場で国際理解教育活動に参加して、自国文化を紹介したり日本文化を学んだりする機会があります。

「ユネスコ・スクールと持続発展教育(ESD)」

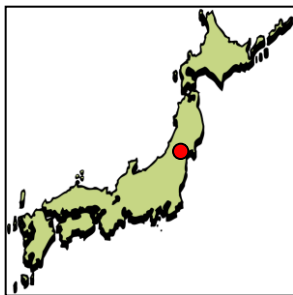
宮城教育大学は、ユネスコスクールネットワークの中心として、地域に30以上あるユネスコスクールと連携しています。また、宮城は国連から環境教育のモデル認定を受けた地域です(仙台広域圏RCE)。留学生は、ユネスコスクールを訪問したり、持続可能な開発のための教育(ESD)について学んだりすることができます。

3) その他の講義、選択科目等

専門に応じて、学部開講の関連する授業を履修し、単位を取得することが可能です。(以下は選択科目として考えられる一例です。)

他選択必修科目 (日本語学習歴600時間以上の者を対象) の例				
・1時間: 90分				
科目名	内容	単位数	履修時間	
			前期	後期
比較日本文化論	日本文化を海外の文化と比較しながら考察	2		15
多文化理解入門	日本国内の多文化化の現状や課題について学ぶ	2		15
日本語教育概論	日本語教員としての基礎的な知識や技能を学ぶ	2		15
国語理解	国語の教科書を分析し、表現する力を身につける	2		15
日本の言語と文化	日本語のしくみについて、基本的な性質を学ぶ	2	15	
書道演習	書道の用筆方法を学ぶ	2	30	
工芸基礎	工芸の基礎的技術の収録	2	15	15
日本の芸能	日本古来の民族芸能を学ぶ	2	15	15

こうした学部開講の授業を受講する場合には、一般的に600時間以上の日本語を学習していることと、あらかじめ授業担当教員に相談することが必要です。



宮城教育大学 (宮城県)



地域と学校で日本語・日本文化を学ぶ

⑦行事等

本学には多くの留学生関係行事があり、参加を募っています。

行事名	内 容
春期研修 (6月)	日本の自然に触れるとともに日本文化も体験。
実地見学研修 (7月)	日本国内で研修旅行に行き、日本文化を体験。
グローバル・カフェ (10月)	大学祭で、お国の飲み物・お菓子を出す喫茶店を出店。
日本語スピーチコンテスト (12月)	日本語学習の成果をコンテストで披露。
留学生を囲む会 (12月)	留学生を中心に教職員と日本人学生との懇談。
冬季研修 (2月)	東北固有の冬の自然・文化を体験。

⑧指導体制

1) 留学生部会委員

委員の氏名	所属講座	連絡先	
		@staff.miyakyo-u.ac.jp	+81 - 22 - 214
高橋亜紀子	日本語教育	akiko12	3371
市瀬 智紀	日本語教育	ichinose	3381
笠井 香代子	理科教育	kasai	3429
田中 良英	社会科教育	y-tanaka	3384
西原 哲雄	英語教育	nisihara	3489
箱田 恵子	社会科教育	keihako	3393
リース・エイドリアン	英語教育	adrian	3488

留学生部会は、留学生の生活や学習面でのサポートをします。困ったことがあれば、何でも相談できます。

2) 指導教員と日本人チューター

指導教員が、主に研究指導・論文指導を行います。
また、日本人チューターから宿題や、日常会話を通じて日本語力の向上を手伝ってもらうことができます。

⑨コースの修了要件

修了には、日本語科目を含む10単位以上を履修した上で、指導教員の下で研究活動を行い、その研究成果を修了論文としてまとめて提出することが必要です。また、履修した科目は、単位を認定し、「成績証明書」を交付するので、それらを母国での単位認定に利用することができます。

■ 宿 舎

東北大学国際交流会館への入居を予定しています。

(<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/?pg=130515141317>)

しかし、近年交流会館が満室のため、入居が難しくなっています。その場合、民間アパート（月家賃約6万）や、学生寮（2名1室/月額約2万）等に入居する必要があります。

宿舎入居状況

年 度	宿 舎
2014年度	東北大学国際交流会館：0名 民間アパート：5名
2013年度	東北大学国際交流会館：1名
2012年度	東北大学国際交流会館：1名

■ 修了生へのフォローアップ

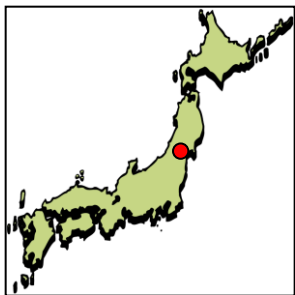
多くの留学生が、修了後もインターネットを通じ、指導教員、留学生部会委員から継続して日本語等の学習指導を受けています。また、さらなる日本での勉強の継続を希望する留学生には進路相談に応じます。

■ 問い合わせ先

大学所在地：〒9800845 仙台市青葉区荒巻字青葉149
教務課大学院教務係（留学生担当）

担当者	E-mail
留 学 生 担 当 共 通	ryugaku@adm.miyakyo-u.ac.jp
蘆 立 泰 典	ashidate@staff.miyakyo-u.ac.jp
菅 浪 久 美 子	k-take@staff.miyakyo-u.ac.jp

TEL：+81-22-214-3654 FAX：+81-22-214-3621
大学のホームページアドレス：
<http://www.miyakyo-u.ac.jp/index.html>
留学生のためのホームページアドレス：
<http://ryugakusei.miyakyo-u.ac.jp/index.html>



Miyagi University of Education (Miyagi Prefecture)



Study Japanese in the district and Schools

■ Introduction to the university

① General Guidance of the university

(1) Characteristics and History

Miyagi University of Education(MUE) is a teachers' college in Sendai City in the Tohoku district. Sendai has an abundance of nature, and the cost of living is low. The total population of our university is about 1,600 students including undergraduate and graduate schools (master's courses). We have specialists in all fields. A homely atmosphere and excellent instruction system are special features of our university. Now 33 international students are studying in this environment. Our university is also famous for promoting UNESCO School network and Education for Sustainable Development

(2) Total number of teachers and students

Professors	Associate Professors	Lecturers	Research Associates
71	40	1	2
Teachers at Affiliated schools	School Nurses	Nutrition I Health	Officials
89	4	2	82
Undergraduate Students			1,508
Graduate Students			117

(2014.10.1)

② International Exchange

Overseas Partner Institutions : 10 institutions (8 countries / districts)

③ Number of International Students

Y2014 : 33

(5 students from this program)

Y2013 : 28

(1 students from this program)

Y2012 : 25

(1 students from this program)

④ Characteristics of Sendai City

Sendai is a city with a population of one million, and is the political, economic, and academic center of Japan's Tohoku (northeast) Region. Because many established universities are located in Sendai, it is famously known as the "Gakuto-Academic City".

The Sendai coastal area was hit by a massive tsunami caused by a big earthquake on Mar.11th 2011. However, damage in the inland area, including the heart of Sendai City and MUE, were relatively small.

People's life is back on track again.

The Fukushima Nuclear Accident doesn't severely influence Sendai, which is well within the safe zone. The city works as the FOB(Forward Operation Base) for resilience from damages in the coastal Tohoku region.

■ Outline of the course

① Characteristics of this course

MUE trains teachers. We have a variety of majors such as Liberal Arts, Natural Science, Gymnastics and Art. Japanese and Japanese Culture Training Course students can attend various lectures including such courses. Moreover, students can receive high quality education in small classes and attend many cultural exchange activities with Japanese students.

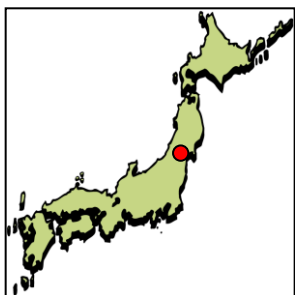
Since our university has a network of UNESO schools, students can acquire hands-on experience of attending cultural exchange activities and studying through the Education for Sustainable Development(ESD) program.

② Number of students to be accepted

Eight students each year
(Four by University Recommendation, Four by Embassy Recommendation)

③ Eligibility of applicants

Applicants are requested preferably to have studied Japanese for over 600 hours. Applicants must be enrolled in courses or programs for studying Japanese language or Japan. Students in the first year of university are not eligible.



Miyagi University of Education (Miyagi Prefecture)



Study Japanese in the district and Schools

④Goals

- To acquire high Japanese language proficiency
- To deepen Japan/culture understanding.
- To acquire research skills on a Japan-related theme and presentation skills on it.

⑤Period of the course

From October 1, 2015 to September 30, 2016.

There will be no Graduation Ceremony.

⑥ Overview of the classes

Students can comprehensively study Japan-related subjects. Teachers can give advice when choosing classes.

(1)Japanese language education (Compulsory)

According to the student's level, there are 10 classes from advanced to intermediate levels. The course runs for one year, and students can learn with a small number of foreign students.

Intermediate Class (For students who have studied Japanese over 300 hours.)

•1 class hour:90 minutes

Name	Contents	Credit	Total Class hours	
			1st Semester	2nd Semester
Middle-class 1A,2A,3A	Speaking and Listening	1	15	15
Middle-class 1B,2B,3B	Reading and Writing	1	15	15

Upper Class (For students who have studied Japanese over 900 hours.)

•1 class hour:90 minutes

Name	Contents	Credit	Total Class hours	
			1st Semester	2nd Semester
Upper-class1A	Practical Speaking and Listening	1	15	15
Upper-class1B	Reading and Writing	1	15	15
Upper-class2A	Composing a paper	1	15	15
Upper-class2B	Practical paper presentation	1	15	15

(2) Research activity/Final report(Compulsory)

Students research a Japan-related theme with the assistance of their Advisory Teacher for 1 year, and write a final report as a research outcome for submission.

Research Activity,Final Report

Name	Contents	Credit	Total Class hours	
			1st Semester	2nd Semester
Research Activity	Research activity with the assistance of Advisory Teacher for one year	2	-	
Final Report	Research outcome Paper	2	-	

Students will give a presentation on their research at “The Japanese Cultural Studies Exhibition (July, 2015).” They will write a “Foreign Students’ Educational Report”.

(3) Field Study

Our university supports international understanding educational activities. Foreign students have the opportunity to participate in international understanding educational activities.

(4)UNESCO school and ESD(Education for Sustainable Development)

MUE collaborates with more than 30 regional UNESCO schools as a center of the UNESCO school network. Miyagi Prefecture has been certified as a model by the U.N. because of its rich environmental resources. Students can access these resources and learn ESD.

(5)Special subjects (selection)

Examples of Special subjects

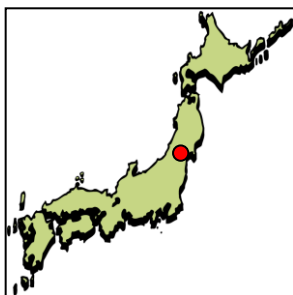
(Students can select subjects depending on their Japanese ability)

•1 class hour:90 minutes

Name	Contents	Credit	Total Class hours	
			1st Semester	2nd Semester
Comparative Studies in Japanese Culture	Comparing Japanese culture with foreign cultures	2		15
Introduction of Multiculturalism	Learn about the present conditions and a problem of many enculturation in Japan	2		15
Introduction of Japanese Education	Learn the basic knowledge and skill as the Japanese teacher	2		15
Reading and comprehension	Analyze a textbook of Japanese language and acquire power to express	2		15
Language and Culture in Japan	Learn a basic property About Japanese structure	2	15	
Calligraphy : Seminar	Fundamental techniques in calligraphy	2	30	
Handicrafts Basic	Foundations of Japanese folk dance and drums	2	15	15
Japanese Folk Dance and Drum	Foundations of ceramic art	2	15	15

Students can select subjects depending on their Japanese language ability if they have already studied more than 600 hours.

It is necessary to get permission in advance from the lecturer of the subject you want to choose.



Miyagi University of Education (Miyagi Prefecture)



Study Japanese in the district and Schools

⑦Events

There are many pleasant events to be offered

Name	Date	Contents
Spring training	June	Getting into nature and enjoying Japanese culture.
Practical visit training	July	Short trip to Japanese Traditional spots.
Global Cafe	October	Foreign students open one-day cafe.
Japanese speech contest	December	Foreign students speak about their experience in Japan.
Year end's party	December	Join a party for foreign students, Japanese students and the staff of the university.
Winter training	February	Snow trekking and visiting a hot spring resort.

⑧Teaching system

(1)Foreign student committee

The committee support students in every aspect.

Foreign student committee	Affiliation lecture	Contact	
		@staff.miyako-u.ac.jp	+ 81-22-214-
Akiko TAKAHASHI	Japanese Language Education	akiko12	3371
Tomonori ICHINOSE	Japanese Language Education	ichinose	3381
Kayoko KASAI	Science Education	kasai	3429
Yoshihide TANAKA	Social Studies Education	y-tanaka	3384
Tetsuo NISHIHARA	English Language Education	nishihara	3489
Keiko HAKODA	Social Studies Education	keihako	3393
Adrian Leis	English Education	adrian	3488

(2) Supervising professor and tutor of Japanese students.

⑨Requirements for completion

The requirements for completion of this course are to obtain more than 10 credits including at least 1 Japanese language credit , and submit a final research paper. Through the results certificate , the credits earned at MUE will be transferred to the students' home institution.

■Housing

Students will live in the international student house of Tohoku University. See below.

<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index-e.cgi?pg=130527113858>

But recently, it gets tougher to secure rooms in it. In this case, a private apartment (¥60,000/ average rent) or Student Dorm(¥20,000/average rent will be offered. One room shared by two persons)

Year	Housing
2014	0 (International Student House of Tohoku University) 5 (private apartment)
2013	1 (International Student House of Tohoku University)
2012	1 (International Student House of Tohoku University)

■Caring Graduates

Many former students have been taught by the Supervisor and Foreign students committee even after finishing the course. If they want further their academic career in Japan, they can consult with the Supervisor and Foreign students committee.

■Inquiries

Address:149 Aramaki-aza Aoba, Aoba-ku Sendai City, Japan 9800845 International Exchange Section

Contact	Email
International Exchange Section Yasunori ASHIDATE Kumiko SUGANAMI	ryugaku@adm.miyakyo-u.ac.jp ashidate@staff.miyakyo-u.ac.jp k-take@staff.miyakyo-u.ac.jp

Phone: +81-22-214-3654

FAX: +81-22-214-3621

Miyagi University of Education home page:

<http://www.miyakyo-u.ac.jp/>

Home page for foreign students:

<http://ryugakusei.miyakyo-u.ac.jp/index.html>



茨城大学 (茨城県)



研修生は留学生のためのクラス及び日本人学生と同一のクラスで学び、更に日本社会で生活することにより、日本語・日本文化を体験的に学ぶことができる。

■大学紹介

①大学の特色および概要

(1) 特色と歴史

本学は昭和24年新制大学としてスタートし、現在は人文・教育・理・工・農の5学部と人文科学・教育学・理工学・農学研究科の4大学院を有する総合大学として発展している。教育の伝統は、少人数によるゼミナール形式授業の重視、現代的・地域的課題に取り組む実学研究の重視等である。

(2) 教員及び学生数

2014年現在の教員数は、528名、学生数は、正規生のみで、学部生7,112名、大学院生は1,070名となっている。

②国際交流の実績

茨城大学は、海外15ヶ国の39大学等と交流協定を結んでおり、多数の外国人研究者と留学生を受け入れている。

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生受入実績

2014年留学生数	(学部レベル) 182
	(大学院レベル) 94
2013年留学生数	(学部レベル) 181
	(大学院レベル) 103
2012年留学生数	(学部レベル) 184
	(大学院レベル) 106

2014年度日本語・日本文化研修留学生3名
2013年度日本語・日本文化研修留学生1名
2012年度日本語・日本文化研修留学生3名

④水戸市の特色

東京から北東100kmに位置する水戸市は、茨城県の政治・経済・文化の中心地として古くから発展してきた都市である。市の中心地には日本3名園のひとつ、徳川家ゆかりの「偕楽園」があり、春になると梅を楽しむ人々で賑わう。広大な緑地や千波湖は、市民の憩いの場として親しまれている。

■コースの概要

①コースの特色

研修生は留学生のためのクラス及び日本人学生と同一のクラスで学び、更に日本社会で生活することにより、日本語・日本文化を体験的に学ぶことができる。コース形態は下記のとおりである。
日本語・日本事情：留学生センター・教養科目で開講される主に留学生のための日本語・日本理解のための授業
日本文化：日本人学生と日本について学ぶ教養科目
日本関連科目：人文学部で開講される授業

②受入れ定員：3名（大使館推薦3名、大学推薦0名）

③受講希望者の資格、条件等

来日前に日本語の学習歴を有し、日本語で行われる授業の参加に必要な日本語能力を備えていることが望ましい。

④達成目標

日本語・日本文化を学びながら、同世代の日本人学生と積極的にコミュニケーションを図ることで、より一層日本への関心や興味を持ち、理解を深めていく事を達成目標とする。

⑤研修期間：2015年10月1日～2016年9月30日

⑥研修科目の概要

授業は原則として、前期(4月～8月上旬)と後期(10月～2月上旬)各16週(内1週はテスト)開講される。

(1) 必修科目

(1) 必修科目

①日本語

日本語レベルにより、a. またはb. の授業から選択

a. 教養科目「学術日本語」「学術日本語基礎」

- ・日本語上級(聴解、読解、口頭発表、レポート作成、総合)

b. 留学生センター開講科目 (これらのクラスは、「単位」には関係ありません。)

- ・日本語中級～上級
- ・レベル3: 総合、口頭表現、中級漢字
- レベル4: 総合、上級会話、上級漢字、日本事情

②日本人学生と学ぶ教養科目

- ・異文化理解

日本人と留学生が討論を通して、互いの文化や様々な文化についての理解を深める。

- ・異文化と日本の出会い

日本の生活文化について、日本人学生と留学生が話し合う。

- ・異文化としての日本

留学生と日本人学生により、日本文化の理解を深める。

茨城大学 (茨城県)



研修生は留学生のためのクラス及び日本人学生と同一のクラスで学び、更に日本社会で生活することにより、日本語・日本文化を体験的に学ぶことができる。

(2) 選択科目

人文学部で開講される日本語・日本文化に関連する科目及び日本を理解する上で役立つ他の科目の中から、留学生が指導教員と相談の上、授業科目を選択し受講する。

⑦行事等

(1) 全学の留学生とともに、関東地方又は東北地方方面への国際交流合宿研修を実施する。

(2) 留学生支援団体及び地域住民等との懇談会・交流会を実施する。

⑧指導体制

(1) プログラム実施委員長

古賀 純一郎 (人文学部教授)

(2) 指導体制

当該の留学生の関心領域に近い専門の教員が指導教員となり、日本文化及び関連分野についての勉学が進むように指導する。

また、国際交流等に関心の高い日本人学生をチューターとして付け、勉学面のみならず、生活面に渡るまでサポート体制を取り組む。

⑨コースの修了要件、修了証書の発行

所定の科目を履修した者に、コース期間修了後「修了証明書」を交付する。

⑩単位認定、単位互換等

留学生センター開講の授業は、単位を出さないが、人文学部開講の授業は、単位を認定する。単位互換は、当該学生の出身大学の判断による。

■ 宿舎

国際交流会館

○ 宿舎数

- ・ 単身用38室 (A, B棟)、12室 (D棟)、23室 (EFGHI棟)
- ・ 夫婦用2室 (C棟) ・ 世帯用2室 (C棟)

○ 家賃 (月額)

- ・ 単身用 5,900円 (A, B棟)、20,400円 (D棟)、20,400円 (EFGHI棟)
- ・ 夫婦用、世帯用 14,200円 (C棟)

○ 宿舎周辺の生活情報、通学時間

国際交流会館から本学までは徒歩15分位で、入居期間は1年以内である。

■ 修了生へのフォローアップ

修了後の研究に対し、要請に応じたEメール等を通じて協力助言する。

■ 問い合わせ先

住所：〒310-8512

茨城県水戸市文京2-1-1

担当：学務部留学交流課

TEL：029-228-8056

FAX：029-228-8594

茨城大学ホームページ

<http://www.ibaraki.ac.jp>

茨城大学留学生センターホームページ

<http://www.isc.ibaraki.ac.jp>

Ibaraki University (Ibaraki Pref.)



The program is offered to improve both the students' Japanese communicative competence and the understanding of Japanese culture and way of life through studying with Japanese students and living in Japanese society.

■ University Overview

1. Characteristics and Outline

(1) Characteristics and History

Ibaraki University was established in 1949 and has been developing as an university with five colleges (Humanities, Education, Sciences, Engineering, and Agriculture) and four graduate schools (Humanities, Education, Natural Sciences and Engineering, and Agriculture). Emphasis is put on practical teaching about current and local issues.

(2) Faculty and Students (as of May 1, 2014)

Faculty members:	528
Undergraduate Students:	7,112
Graduate Students:	1,070

2. International Exchange

Ibaraki University has international exchange agreements with 39 universities and institutions of 15 countries. The university has accepted a large number of scholars and students from abroad, which include Japanese studies program students (3 in 2014, 1 in 2013, and 3 in 2012).

3. Number of International Students

2014	Total: 276
	Undergraduate: 182
	Graduate: 94
2013	Total: 284
	Undergraduate: 181
	Graduate: 103
2012	Total: 290
	Undergraduate: 184
	Graduate: 106

4. General Information about Mito City

Mito City, in 100 km northeast of Tokyo, is the political, economic, and cultural center of Ibaraki Prefecture. The city has rich historical and cultural sites such as Kairakuen, a plum tree garden constructed in the Edo period.

■ Outline of the Japanese Studies Program

1. Characteristics

The program is offered to improve overseas students' communicative competence in Japanese and understanding of Japanese culture and life through studying with Japanese students and living in Japanese society. The program is composed as follows:

- Japanese and Japanese Affairs (International Student Center): Especially designed for overseas students to learn Japanese language and understand Japanese society.
- Japanese Culture (Liberal Arts): Learning Japanese culture with Japanese students.
- Japan-related matters (the College of Humanities)

2. Number of Students Accepted: Three students

- Embassy recommendation 3
- University recommendation 0

3. Application Requirements

It is desirable that the applicants have studied Japanese and have sufficient proficiency to understand lectures and take part in seminars as well to read materials and write reports in Japanese.

4. Program Objectives

Through the program, overseas students can not only study Japanese language and culture but also deepen their understanding and concerns on Japanese society. Positive attitude toward establishing relationship with Japanese students help them achieve the objectives easier.

5. Program Period: From October 1, 2015 to September 30, 2016

6. Program Description

Academic year has two semesters: the first semester from April to the early August, the second semester from October to the early February. Each semester has sixteen weeks, including an examination week.

(1) Compulsory courses

① Japanese language

Choose (a) or (b) in the below according to the Japanese language proficiency level.

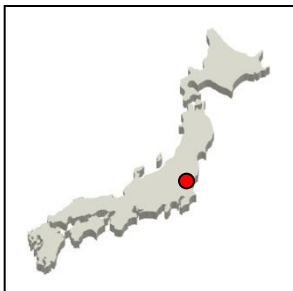
- a. Academic Japanese, Basic Academic Japanese (liberal arts subjects)
- Academic Japanese (listening, reading, oral presentation, academic writing, general)

b. Courses offered at International Student Center (No credit is given for the following courses.)

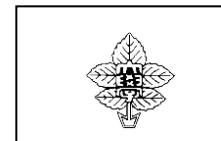
- Intermediate & Advanced Japanese
- Level 3 (general, oral expressions, intermediate kanji)
- Level 4 (general, advanced conversation, advanced kanji, Japanese studies)

② Courses offered as Liberal Arts subjects

- Cross-cultural understanding
- Cross-Cultural Communication in Japanese culture and Foreign cultures
- Rediscovery of Japanese culture, from the ethnological perspective



Ibaraki University (Ibaraki Pref.)



The program is offered to improve both the students' Japanese communicative competence and the understanding of Japanese culture and way of life through studying with Japanese students and living in Japanese society.

(2) Elective Courses:

Among courses of the College of Humanities, students may enroll courses useful to understand Japan as well as courses related to Japanese language and culture. Their advisors assist them to select those courses.

7. Events

- (1) A field trip to the Kanto or Tohoku area together with other overseas students.
- (2) International exchange activities with organizations supporting overseas students and the people in the local communities.

8. Academic Supporting System

(1) Program Coordinator

Prof. Junichiro Koga, Faculty of Humanities

(2) Academic Advisors

A faculty member whose specialization fits in with the area of interest of the overseas student is assigned as his/her academic advisor.

(3) Tutoring

A Japanese student who is interested in international exchange is assigned as a tutor to help a overseas student adapt to the new environment at/outside of the campus.

9. Program Completion and Issuance of Certificate

After completing required courses, students are given a certificate of completion.

10. Credit Certification and Credit Transfer

Except for those subjects offered at the International Student Center, credits are given upon completion of course requirements. Credit transfer depends on the policy of the student's home university.

■ Accommodations

Japanese Studies Program students are given priority to live at International House.

In the past three years all Japanese Studies Program students lived in the Ibaraki University International House.

The International House

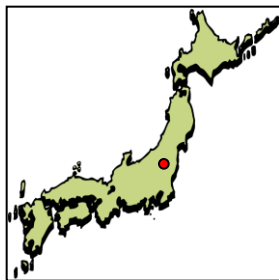
- Number of rooms
 - Single: 38 (Building A,B), 12 (Building D), 23 (Building EFGHI)
 - Couple: 2 (Building C)
 - Family: 2 (Building C)
- Rent (per month)
 - Building A,B 5,900yen
 - Building DEFGHI 20,400yen
 - Building C 14,200yen
- Information for daily life and commute time
 - The maximum period of stay is one year
 - About 15-minute walk from the university
 - A private apartment for single costs about 30,000 – 40,000 yen per month.

■ Follow-up after Completion

Upon request, the teaching staff will extend advice and cooperation to the research of the graduates after their completion of the program by email, etc.

■ Contact Office

Student Exchange Division
Address: 2-1-1 Bunkyo, Mito City, Ibaraki, 310-8512 Japan
Phone: +81-29-228-8056
Fax: +81-29-228-8594
URL: <http://www.ibaraki.ac.jp>
URL: <http://www.isc.ibaraki.ac.jp>



宇都宮大学 (栃木県)



世界遺産の日光、最先端のテクノポリス、豊かな自然が身近にある環境での研修です

■大学紹介

① 大学の特徴および概要

宇都宮大学は栃木県の中央にある宇都宮市にある大学で、4つの学部と4つの研究科（大学院）からなる総合大学である。大きな大学ではないので、種々の面で学生に対してきめ細やかに対応しており、学部や研究科間を連携した教育・研究活動も行いやすい。

●教員数と学生数（2014年10月1日現在）

教員数： 342 名
学生数： 4, 887 名
（学部生 4, 123名、大学院生 764名）

●学部と研究科

＜国際学部・国際学研究科＞

国際的な視野から社会と文化の総合的な教育研究を進めており、世界で活躍できる人材の育成を行っている。海外からの留学生、海外に留学する学生がともに多い。

＜教育学部・教育学研究科＞

教員養成に長い歴史を持ち、学校教育をはじめ、多方面で活躍できる人材を養成している。

＜工学部・工学研究科＞

自然環境及び人工環境と人間の共生をめざした先端的研究を行っている。

＜農学部・農学研究科＞

戦前の宇都宮高等農林専門学校からの長い伝統を持つ一方で、バイオテクノロジーや国際協力などの先端的な研究分野でも大きな成果をあげている。

② 国際交流の実績

留学生の数： 282 名（30 か国）
研究者の数： 5 名（4 か国）
大学間等交流協定校の数： 56 大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数 282人 日本語・日本文化研修留学生 9人
2013年：留学生数 297人 日本語・日本文化研修留学生 11人
2012年：留学生数 324人 日本語・日本文化研修留学生 7人

④ 地域の特徴

本学のある宇都宮市は東京の北100km（新幹線で約50分）に位置している。宇都宮市は人口約50万人で、東には鬼怒川（きどがわ）、北には那須山地、西には世界遺産の観光地日光など、美しい環境に恵まれている。日本最古の大学、足利（アシカガ）学校に代表される学問の伝統や日本で1、2位を競ういちごなど農産物の開発やテクノポリスを構成する工業技術などアカデミズム・先端的科学技術の発信地となっている。



■コースの概要

① コースの特徴

本コースは、宇都宮大学留学生・国際交流センターが各学部の協力のもとにコーディネートして行う研修プログラムで、日本語・日本文化研修留学生は日本の文化や社会について研究テーマを設定し、そのテーマに相応しい指導教員およびプログラム担当教員の下に研究を行い、その成果を研修論文として作成、発表する。

本コースでは、自らの研究を通して専門的な知識と理解を深めることに加えて日本語能力のさらなる向上も期待される。

② 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

③ 受講希望者の資格、条件等

以下の（１）、（２）を二つとも満たすことが条件である。

（１）専攻分野

母国の大学において日本語・日本文化に関する分野を専攻としていること。

（２）日本語能力

中上級レベル（日本語能力試験N2合格程度）以上の日本語能力を持っていること。

④ 達成目標

本コース研修留学生は研修修了時に自らの調査・研究の成果を日本語でまとめた研修論文を作成、提出すること、またその成果を「日研生論文発表会」で口頭発表することを目標とする。

⑤ 研修期間

2015年10月 ～ 2016年9月

⑥ 研修科目の概要

- ・ 授業時間は各科目とも30時間 開講部局は基盤教育(全学共通の基礎科目)、国際学部、教育学部などである。
- ・ 各学期8科目(必須科目2科目+選択科目6科目)を受講することが必要である。



1) 必須科目(留学生・国際交流センター開講科目、各2単位)

「日本語・日本文化Ⅰ」 「日本語・文化Ⅱ」
「日研生特別研究Ⅰ」 「日研生特別研究Ⅱ」

2) 見学、地域交流等の参加型科目

- ・ 日本文化関連の見学は「日本語・日本文化Ⅰ」、「日本語日本文化Ⅱ」、「日本事情」の授業で実施する。この他にも大学には参加型授業科目があり、受講が可能である。

(例:「栃木の里山に学ぶ」春夏編・秋冬編)

また、留学生を対象としたさまざまな行事を実施している。

(⑦を参照)



3) その他の科目、選択科目等)

(留学生・国際交流センター・基盤教育・各学部の開講科目)

- ・ 選択科目は各学期6科目受講することが必要である。ここに挙げてあるのは受講を推薦する科目の例なので、日本語能力と研究テーマに応じて他の授業科目を選択できる。
- ・ 本学の授業科目の2014年度の時間割とシラバスは、本学ホームページ(後述)で確認することができる。

○ 選択科目Ⅰ: 上級レベル日本語科目の例(各1単位)

「日本語アカデミック・リーディングⅡ」
「日本語アカデミック・プレゼンテーション」
「科学技術系のための専門日本語」
「人文社会系のための専門日本語」

○ 選択科目Ⅱ: 日本文化関連科目の例(各2単位)

「日本事情」「日本語の表記」「日本語論」
「日本語史」「対照言語学」「日本文化論」
「多言語コミュニケーション学A」
「多言語コミュニケーション学B」
「異文化間コミュニケーション」
「日本文学史」「日本文学概説A」

⑦ 年間行事(他の留学生も参加する)

- | | |
|-----|----------------------|
| 10月 | 10月来日留学生歓迎パーティー |
| 11月 | 校外学習① |
| 2月 | スキー研修(1泊2日)
校外学習② |
| 3月 | 地域との交流会 |
| 6月 | 校外学習③ |
| 7月 | 七夕の集い(地域留学生対象) |
| 8月 | ホームステイ |
| 8月 | 留学生研修旅行(1泊2日) |



⑧ 指導体制

本コース研修留学生は本学留学生・国際交流センターに所属し、プログラム担当教員と指導教員の連携による指導を受ける。

○プログラム担当教員：

本コースのコーディネーターとして全学的な協力の下に研修留学生が充実した研修を行えるよう指導教員等と連携をとりながら指導・助言を行う。

- ・梅木 由美子（留学生・国際交流センター）
- ・吉田 一彦（留学生・国際交流センター）

○指導教員：

研修留学生の研修テーマに応じて専門分野の研究指導を行う。指導教員は、来学後に研テーマに基づいて全学の教員の中から決定される。

⑨ コースの修了要件

以下の（１）～（３）を全て満たすことを修了要件としコース修了者には修了証書を与える。

- （１）必須科目４科目を履修すること
- （２）選択科目を１２科目（各学期６科目）履修すること
- （３）研修論文を作成するとともに、研修論文の内容を「日研生研修論文発表会」で発表すること

■ 宿 舎

本学には、外国人留学生用の宿舎として国際交流会館があるが、全員が入居できない状況である。

そのため、国費留学生は民間アパートに入居する可能性が高い。

〈参考〉

○民間アパートに入居する場合、最初にかかる諸費用

- ・居室料（単身用・月額） 30,000円前後
- ・敷金（居室料の１ヶ月分）
- ・礼金（居室料の１ヶ月分）
- ・手数料（居室料の１ヶ月分）
- ・ガス開栓等の手数料 15,000円前後
- ・保険料 4,500円～9,000円 前後

合計 10万円 ～15万円前後

○設備等

- ・エアコンが設置されたアパートは比較的多い。
- ・その他は来日後、各自で購入等の必要がある。

■ 修了生へのフォローアップ

研修修了後も、希望者には進路や研究内容等について、メールなどにより、随時相談・助言等を行っている。

○過去の修了生の進路の例：

- ・本学大学院進学
- ・本学以外の日本の大学院進学
- ・母国での通訳
- ・母国での大学教員
- ・日系企業への就職



■ 問い合わせ先

（担当部署）

宇都宮大学学務部留学生・国際交流課

住所 〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

TEL +81-28-649-8166（直通）

FAX +81-28-649-5115

E-mail

ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

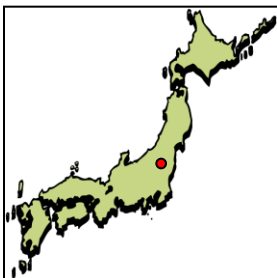
宇都宮大学ホームページ

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>

宇都宮大学留学生・国際交流センターホームページ

<http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/>





Utsunomiya University (Tochigi Pref.)



Close to Nikko as a World Heritage, the most advanced Technopolis, and natural beauty. Students of the program can study a variety of topics in this ideal environment.

■ University Overview

① Outline

Utsunomiya University is comprised of 4 faculties, 4 graduate schools and 12 Institutes for education and research.

The Faculty of International Studies, being the only faculty in all national universities in Japan, promotes comprehensive studies of international societies and cultures. The Faculty of Education has a long history of training educators and offers specialized programs that include practical skills training. The Faculty of Engineering conducts leading-edge research and serves as a core facility for the industrial center. The Faculty of Agriculture has a long tradition, but it is also producing remarkable results in new fields such as biotechnology and international cooperation.

② Number of Faculty and Students (as of October 1, 2014)

● Faculty	342
● Students	
• Undergraduates	4,123
• Graduates	764
<hr/>	
total 4,887	

③ The data of International Exchange

- Number of International students: 282 (from 30 countries)
- Number of International visiting scholars: 5 (from 4 countries)
- Number of Exchange Agreements with overseas universities: 56
- Number of Students in the Japanese Studies Program in past 3 years
 - 20127
 - 201311
 - 20149

④ Local Environment

Utsunomiya University is located in the City of Utsunomiya (population: about 500,000), about 100 km north of Tokyo (about 50 min by Shinkansen).

Utsunomiya is surrounded by natural beauty, with the Kinugawa River to the east, the Nasu Mountain Range to the north, and world-famous Nikko to the west. With a strong academic tradition, as suggested by its proximity to the Ashikaga School, Japan's earliest-known university, Utsunomiya University has become renowned for cutting-edge technologies such as those being developed at the Technopolis Center.

■ Outline of the Program

① Program Feature

This course is offered by the Center for International Exchange of the Utsunomiya University, aiming to help students to improve and develop their Japanese Language skills, and to deepen their specialized knowledge of Japanese language, culture and society.



② Quota

- 10 students
- University recommendation5
 - Embassy recommendation5

③ Requirements for Applicants

Followings are requirements for this program, and both should be satisfied by the applicants.

- Applicants should be majoring in a field related to Japanese language or culture at their home university.
- Applicants should have the intermediate or higher level of Japanese proficiency (higher than N2 level of JLPT) that will enable them to pursue the program and study with Japanese students.



④ Goal

- To improve and develop their Japanese language skills.
- To deepen their specialized knowledge of Japanese language, culture and society.
- To write an academic report and give an oral presentation on the research at the end of the program.

⑤ Course Duration

October 2015 to September 2016

⑥ Outline of Subjects

1) Required Subjects :

The following 4 subjects are those only for the Japanese Studies Course.
(30 hours for each subject)

- Japanese Language and Culture I ...2 credits
- Japanese Language and Culture II ...2 credits
- Special Seminar in Japanese Language and Culture I ...2 credits
- Special Seminar in Japanese Language and Culture II ...2 credits

2) Elective Subjects:

The following subjects are those given at the Center of Liberal and General Education Center, Faculty of International Studies and the Faculty of the Education, in which the students of the Japanese Studies course are supposed to take together with regular students.

Each student may take other subjects in accordance with their research topic, if necessary.

《 Subjects of Advanced Japanese Language 》

- Academic Japanese for Reading II1 credits
- Academic Japanese for Presentation1 credits
- Academic Japanese for Human Science and Social Science
.....1 credits
- Academic Japanese for Science and Technology1 credits

《 Model Subjects of Related to the Japanese studies 》

- Things Japanese2 credits
- The Japanese Writing System2 credits
- Japanese Linguistics2 credits
- History of the Japanese Language2 credits
- Japanese Culture2 credits
- Comparative Study of Cultures2 credits
- Multilingual Communication A2 credits
- Multilingual Communication B2 credits
- Cross-Cultural Communication2 credits
- Introductory Japanese Literature A2 credits
- History of Japanese Literature.....2 credits

3) Participation-based study and events

“Things Japanese” and some other subjects are those offering several study tours or field trips to study Japanese culture through experiences.

Besides these subjects, there are various extra-curricular activities for international students offered by the Utsunomiya University (see ⑦).



⑦ Extracurricular Activities

Students may participate in a wide range of extracurricular activities, including skiing lessons, sightseeing excursions, study trips and opportunities to interact with local residents.

⑧ Academic Guidance System

(1) Course Advisors and Coordinators

Yumiko Umeki (Center for International Exchange)
Kazuhiko Yoshida (Center for International Exchange)

Course advisors are responsible for organizing the Japanese Studies Course, and help each student to make their study plan and/or decide their research topic. They also coordinate the course at the whole university level.

(2) Research Supervisors

Research supervisors give students academic advice according to their research topic, and are decided after their arrival.

⑨ Course Requirements

Each student is required to take both required subjects (4 credits) and elective subjects (16 credits or more), and give an oral presentation on their academic report at the end of the course.



■ Housing

● Condition

There is an international student dormitory at Utsunomiya University. However, unfortunately it is always fully occupied, so all the MEXT scholarship students are advised to rent a room at their own expense.

● Room rent (on average)

1-bed room 30,000yen/month

● Other costs

You may have to pay triple the amount of money for cleaning deposit, reward and handling charge.

You may have to deposit 15,000yen to your gas company to use the gas.

Sign up for house insurance, which costs 4,500–9,000yen.

In total you need 100,000–150,000yen to settle down here.

● Room facilities

Many rooms are air-conditioned but you have to buy heaters, stoves, kitchenware, microwaves, washing machines etc at your own expense.

■ Follow-up for graduates

Opportunities will be offered to graduates to take advice about your going to higher school in Japan after completing.

■ For more information, please contact

International Student and Exchange Division, Student Affairs Department,
Utsunomiya University

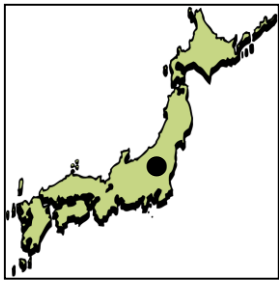
Address: 350 Mine-machi, Utsunomiya, Tochigi 321-8505 JAPAN

Tel: +81-28-649-8166

Fax: +81-28-649-5115

E-mail: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

Or visit our web site at: www.utsunomiya-u.ac.jp/



群馬大学 (群馬県)



教育学、人文社会科学、情報科学を学び、地域社会の視点から日本の文化を考察する。

◇大学紹介

① 大学の特色および概要

1) 特色と歴史

群馬大学は1949年に設立。東京から北西に約100kmに位置し、教育学部、社会情報学部、医学部、理工学部、生体調節研究所、附属図書館、医学部附属病院、国際教育・研究センター等の各部局で構成している。

教育学部は、グローバルに物事をとらえながら、未来社会を支える 人間を育成するために、人間の発達と成長を主な対象として教育の目的、方法内容などについて理論的・実践的な教育・研究を進めている。教育学部には、教員養成を主たる目的とする課程があり5系・13専攻に分かれながら、深い専門性と実践的な指導方法を身に付ける。

社会情報学部では、社会と人間を「情報」という視点から捉えた「社会情報学」を学ぶ。社会情報学の目標は、人間のコミュニケーションを取り巻いている社会のシステムを分析し、今後の課題を明らかにしていくことである。そこで、情報科学と人文・社会科学を融合し、学際的、国際的な教育・研究を進めている。学部には、情報行動学科及び情報社会科学の2学科から成り、他学科開設科目も履修できる。

国際教育・研究センターでは、留学生のための日本語・日本事情科目を開講し、学習相談を実施している。また日本研究のため「武道」「日本画」「邦楽」という実践科目も履修でき、総合的に日本理解ができるプログラムが用意されている。

2) 教員・学生数等

教員数：929人

学生数：学部5,154人、大学院1,347人

② 国際交流の実績(2014年5月1日現在)

留学生在籍数：231人(29カ国1地域)

海外の大学との交流協定：98校(29カ国1地域)

③ 過去3年間の日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

	受入れ実績
2012年度	3名(大使館推薦1名、大学推薦2名)
2013年度	6名(大使館推薦3名、大学推薦3名)
2014年度	6名(大使館推薦3名、大学推薦3名)

④ 前橋市の特色

関東平野の北に位置し、美しい山々に囲まれ、温泉も多く、1年を通じて四季折々の自然豊かな景色・産物が楽しめ、東京近郊から電車で約2時間ほどである。

一方、外国人が急増し、その多文化共生のため様々な活動を群馬大学が実施し重要な役割を果たしている

◇コースの概要

① コースの特色

本学では日本語・日本文化研修プログラムを通称「Jプログラム」と称して、日本語の能力や技能を高めながら、日本を研究対象とする諸研究を行うのに必要な知識を身につけることを目指す。プログラム期間中に行われる諸活動に参加することで、日本語や日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。

本人の希望する専門分野により、教育学部又は社会情報学部のいずれかの研究室に所属し、更なる日本語能力の向上と並行して、専門性をより高めることを目的としている。また、例年当キャンパスには多数の交換留学生在籍しており、

(2014年度は6協定校から13名)日本語能力1級レベルや大学院レベルの交換留学生もおり、短期留学生在籍が多様なレベルで存在している。

そのため、交換留学生のための日本の伝統文化を学ぶプログラムも用意されており、武道(剣道、柔道)、日本画、邦楽(琴、三味線)の実技を専門家から学ぶ機会もあり、日本文化をより深く学ぶことができる。

② 受入定員

5名(大使館推薦3名、大学推薦2名)

③ 受講希望者の資格、条件等

(1) 一般的な会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目の内容を理解する者。日本語能力試験2級以上に相当が望ましい。

(2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者、または他の専攻分野に在学しつつ日本語・日本文化に関する分野を学習している者。

④ 達成目標

修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになること。

⑤ コース期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日

⑥ コース形態

日本語及び日本事情の授業は国際教育・研究センターが中心となり提供し、専門科目については各所属研究室が指導する。

⑦ 授業科目の概要

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。日本語・日本事情・伝統文化実践科目、学部・教養科目から履修する。必修科目は以下のとおり、全体で510時間が必要となる。

1) 修了要件

授業の種類	第1期(10-3月)	第2期(4-9月)
日本語	4クラス(120時間)	4クラス(120時間)
学部・教養教育科目	6クラス(180時間)	
J特別講義*1	1クラス(30時間)	
課題研究(個別指導)*2	1クラス(30時間)	1クラス(30時間)

*1:「日本における研究」をテーマに、学内教員によるオムニバスの特別授業(協力教員14名/半期)

*2:課題研究は指導教員による論文指導です。第2期の終わりにプレゼンテーションをして、論文を提出しなければならない。

科目名	学期	時間数	授業内容
日本語A(口頭表現)	春・秋	60	聴解・会話、発表演習
日本語B(総合)	春	30	読解、作文、プレゼンテーション
日本語C(読解)	秋	30	論説・論文の読解・要約
日本語D(総合)	春	30	時事日本語
日本語E(作文)	春・秋	60	レポート・論文作成
日本語F(読解)	春・秋	60	小説、社会科学系論文
日本語G(読解)	春・秋	60	小説、社会科学系論文
日本語H(作文)	春	30	文章表現、レポート作成
日本語I(口頭表現)	春	30	聴解・会話、発表演習
日本事情A	春	30	日本文化論講座
日本事情B	秋	30	日本の政治・外交、国際関係
日本事情C	春	30	日本の科学技術
邦楽器演習	春・秋	各60	三絃・琴演習
日本美術演習	春・秋	各60	日本画演習

2) 選択科目

教育学部と社会情報学部で開設される専門科目の授業、教養科目授業から選択する。

3) 見学

年に1回、留学生実地研修旅行がある。8月にバスによる近隣県の研修旅行(1泊2日)を予定している。その他、日本美術の一環で、東京や千葉、県内の美術館等への日帰り見学を定期的に行う。

4) 地域交流

群馬県内の小学校や中学校から国際理解講座の授業への留学生派遣依頼があり、Jプログラムの学生は積極的に訪問するよう働きかけを行い、選択科目の「日本語B」と連携し、効果的なプレゼンテーションの実技指導を行っている。

また市の国際交流協会が実施するホスティングプログラムやイベントへの講師派遣にも積極的に参加している。

⑧指導体制

1) コーディネーター: 野田岳人 准教授

2) 指導体制:

学部の指導教員が研修生に対し、研究指導及び修了研究のための指導を行う。その他、国際教育・研究センター教員(生活相談を含む)及びチューターの日本人学生が支援する。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

コースの修了にあたっては、必修科目420時間、選択科目等60時間以上を受講し、日本語による論文発表会を行い、口頭試問の上、成績優秀な者については修了証書を発行する。成績判定にあたっては、学部指導教員と国際教育・研究センター教員による修了判定委員会で総合的に判断される。

⑩ 行事等

- 10月 新入学留学生受入式、オリエンテーション
留学生相談会
チューターオリエンテーション
- 11月 留学生特別健康診断
- 12月 各学部留学生懇談会
 - 1月 伝統文化実践科目邦楽演奏会
 - 3月 茶道、書道、華道の伝統文化体験
 - 4月 全学健康診断
 - 8月 Jプログラム研究報告会
 - 9月 Jプログラム研究論文提出。留学生
実地研修旅行

⑪ 単位認定、単位互換

必要があれば、各所属学部で成績証明書の発行可能。単位互換は、在籍大学の判断による。

◇宿 舎

キャンパスから4km離れたところに群馬大学国際交流会館（前橋）がある。単身室22室があるが、常に学部、大学院留学生等により満室状態である。

- ・過去3年間の日研究生の宿舎入居状況
（各年度10月現在） 0人

- ・民間アパートの費用

大学は、原則日研究生のために、キャンパスに近い民間アパートを準備する。おおよそ30,000円/月程。その他、公共料金（電気、ガス、水道、インターネット、携帯電話）が10,000～20,000円/月程必要となる。同時期に渡日する交換留学生用のアパートと同様の扱いを行う。

◇問い合わせ先

大学所在地 〒371-8510群馬県前橋市荒牧町4-2

担当部署 学務部国際交流課

連絡先 TEL +81-27-220-7637

FAX +81-27-220-7630

E-MAIL g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

担当教員 国際教育・研究センター

准教授 野田岳人

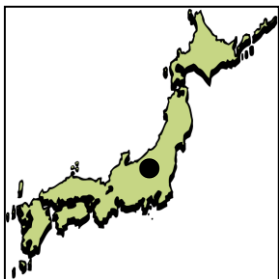
E-MAIL nodat@gunma-u.ac.jp

群馬大学のホームページ

<http://www.gunma-u.ac.jp>

群馬大学国際教育・研究センターのホームページ

<http://cier.aramaki.gunma-u.ac.jp/>



Gunma University



Deepen understanding of local society of Japan in learning of education and social and Information studies

◇ Overview of Gunma University

① Outline

1) Outline and History

Gunma University was established in 1945 and located roughly 100 km northwest of Tokyo. It is consisted by Faculty of Education, Faculty of Social and Information Studies, Faculty of Medicine, School of Science and Technology, Institute for Molecular and Cellular Regulation, University Library, University Hospitals, Center for International Education and Research and so on.

The Faculty of Education aims to educate students who can attain professional ability as school teachers with a wealth of knowledge, technique and humanity, and who will respond to the various social demands of schools. The Faculty of Education consists of five fields and thirteen majors.

The Faculty of Social and Information Studies: The new interdisciplinary field of social and information studies, combining humanities and social sciences with information sciences has been developed in an effort to respond to the diverse demands of the advanced information society.

Through the study and the research that seeks ways to preserve humanity in the advanced information age and creates a society in which people can pursue rich and fulfilled lives, we aim to equip students with the international outlook and essentials of social scientific thinking that will enable them to pursue careers in public, business, and both at local and international sectors.

2) Number of faculties and students

Faculty members 929

Undergraduate students 5,154

Graduate students 1,347

② International Exchange Date (as of May 1, 2014)

International students: 231

(29 countries and 1 region)

Academic Exchange agreements: 98

(29 countries and 1 region)

③ The number of students attended this program

Recommended from [Japanese legation / Gunma Univ.]

2012 yr. 3 students [1 / 2]

2013 yr. 6 students [3 / 3]

2014 yr. 6 students [3 / 3]

④ Feature of Maebashi city

Surrounded on three sides by majestic mountain ranges, Maebashi city is located in the northeast corner of the Kanto Plain. With the beautiful landscape, there are a lot of hot springs and varied products through four seasons. It takes two hours by train from Tokyo.

Population of foreign residents has been rapidly increasing in ten years and Gunma university makes important role in maintaining the activities for the multi cultural societies.

◇ Contents of the “J program”

① Outline

Gunma University provides “J program” for this Japanese studies students. In the J Program, Students are assigned in the Faculty of Education or the Faculty of Social and Information Studies depends on their interests and majors. The students have a opportunity to deepening their understanding of their research while promoting their Japanese ability.

There are diversity of exchange students, for example 13 students from six sister universities in 2014. Some students have the first level of JLPT while some are Graduate school level. So Gunma University provides practical classes such as martial arts (Kendo & Judo),

Japanese painting, and Japanese traditional music (Koto & Shamisen) conducted by specialists.

② Enrollment quota: 5 students

(3 students from Japanese legation,
2 from Gunma Univ.)

③ Qualifications and Conditions of Applicants

(1) Students are expected to have the Japanese language ability to understand lectures and read materials. They are expected to have passed the Japanese Language Proficiency Test at Level 2 (Intermediate) or Level 1 (Advanced).

(2) Students are expected to have majors related to Japanese Language and/or Japanese Culture.

④ Purpose of the achievement

At the final stage, students make a research report in Japanese and make a preentation and debate regarding to their own research.

⑤ Period

October 1, 2015—September 30, 2016

⑥ In-campus Network

Center for International Education and Research (CIER)coordinates the Japanese curriculum while each supervisor in the faculty guides their major subjects.

⑦ Outline of Classes

1) Required Classes

Title	1 st term (October–March)	2 nd term (April–September)
Japanese	4 credits (120 hours)	4 credits (120 hours)
General Education and Undergraduate Faculty	6 credits (180 hours)	
Speial Lecture Japanology*1	2 credits (30 hours)	
Research Work *2 (Individual guidance)	2 credits (30hours)	2 credits (30hours)

*1: Fourteen professors have a special lecture in the point of the view of their major and Japanese Studies.

*2: Students have to present their research and submit a final paper at the end of the second semester.

Title	Term	Number of hours	Outline
Japanese A	spring	60	Listening, Communication, Presentation Pratctice
Japanese B	spring	30	Reading, Writing
Japanese C	fall	30	Reading
Japanese D	spring	30	Current Japanese
Japanese E	spring / fall	60	Academic Writing
Japanese F	spring / fall	60	Reading of novel,
Japanese G	spring/fall	60	Academic Presentation
Japanese H	spring	30	Academic Writing
Japanese I	spring	30	Listening, Communication, Presentation Practice
Japanology A	spring / fall	60	Japanese Culture and Society
Japanology B	fall	30	Japanese Politics and diplomacy
Japanology C	fall	30	Japanese Science and Technology
Practical Study	spring / fall	60	Traditional Japanese instrumentals
Practical Study	spring / fall	60	Japanese Painting

2) Selective Classes

Students must attend 2 classes at least from their majors' subjects in Faculty of Education and/or Faculty of Social and Information Studies.

3) Visits

- August Excursion nearby Gunma
- Day visit to museum in Tokyo, Chiba and within Gunma

4) Exchange with citizens

- Lectures in a school. In the class of "Japanese B", students learns the method of effective presentation.
- Hosting program and international events by the city

⑧ Instruction System

1) Coordinator: Mr. NODA, Takehito

2) Supervisor: Students offer academic advice and individual guidance on the student's own research through seminar and lecture. Cooperated with related faculties, students organize a plan of their own research work.

In addition, teaching staff of the Faculty, Teaching staff of the Japanese language and Japanese Studies, and tutors cooperate the program and assist the students.

⑨ Annual events

October	Opening ceremony, Orientation Coffee hours (Advising time), Tutor orientation
November	Special health check for international students
December	Exchange party for international students
January	Japanese traditional music's concert
February	Closing ceremony of Japanese program,
March	Japanese traditional Culture's Experience "Study of Japan" of tea ceremony, Calligraphy, Flower arrangement,
April	Health check
July	Exhibition of Japanese paintings
August	Presentation and closing ceremony of J Program
September	Excursion for International students.

⑩ Requirement of Completing the Course

Certificate is issued after completing the 420 hours required classed, selected classes more than 60 hours, and then making excellent presentation and perfect record.

Meeting of CIER totally judges the students' completion of the course.

⑪ Credits

The students receive a academic certificate describing the subject's evaluation and credit when the Faculty approves their class attendance and examination's score meets the requirement. The students can submit the certificate to home institute for their credit transfer.

◇ Accommodation

The university makes reservation of a single room of International House of Gunma University, which locates in 4km far from the campus. The rooms are full of undergraduate and graduate students. So a reasonable private apartment near campus will be provided same as other new exchange students. Single room costs 30,000 yen per month. Plus the students additionally consider the 10,000-20,000 yen for public charge such as electricity, gas, water, internet, and cell phone.

◇ Inquiries

International Exchange Office, Gunma University

Address: 4-2 Aramaki-machi, Maebashi,
Gunma, 371-8510, JAPAN

TEL: +81-(0)27-220-7637

FAX: +81-(0)27-220-7630

E-MAIL: g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

Academic Coordinator:

Mr. NODA, Takehito, Associate Professor

Center for International Education and Research
(CIER)

E-MAIL: nodat@gunma-u.ac.jp

Gunma Univ's website: <http://www.gunma-u.ac.jp>

Gunma Univ. CIER's website

<http://cier.aramaki.gunma-u.ac.jp/>



埼玉大学 (埼玉県)



「多様な日本語・日本文化科目を提供します。」

■大学紹介

① 大学の特色および概要

埼玉大学は、東京圏に位置した総合大学としての使命を果たしている。本学は、旧制の浦和高等学校、埼玉師範学校ほかを母体として1949年に創設されてから60余年が経過し、教育・研究の場の整備を着実に進めており、地域の学術交流の拠点に成長しつつある。昨年度の留学生数は530人を超え、一段と国際交流が活発化している。

また、海外からの研究者の受入れや本学教員の国際的研究活動も増加している。本大学は5つの学部とさらに高度な教育・研究を推進するための4つの大学院研究科を設置しており、修士課程(博士前期課程)、博士課程(博士後期課程)が設置され、充実した大学院教育・研究が行える。特に大学院理工学研究科では独立行政法人理化学研究所と協力して博士後期課程を組織し、他大学に先駆けた新しい形の大学院教育を展開している。

日本語教育センターは埼玉大学の外国人留学生に教育・指導・助言を行うことを目的として、全学における国際的教育・研究交流の支援にあたっている。また、多様な文化背景をもつ留学生に日本語、日本文化を学習する機会を提供している。

教養学部は、人文と社会にわたる多様な専門分野を含み、それぞれの専門の研究を基盤としながら、同時に各分野を有機的に関連づける総合的研究並びに各分野間の境界領域を探索する学際的研究を特に重視しているのが特色である。専門性と総合・学際性の調和を図ることで、現代に相応しい教養、柔軟に思考力、総合的判断力を備えた人材を養成することが教養学部の基本方針である。

教育学部は、グローバルに物事を捉えながら、次世代の社会を生み出す教育を担う人材の育成をめざしている。学校教員及び生涯学習指導者として優れた教育実践を行うための専門的な教養・理論・技術を修得する。「教育による解決」これは一見遠回りのようにであるが、最も確実な生産的方法である。教育に携わることは、日本が、また世界が直面している課題と向かい合うことでもある。

経済学部は、社会科学を複眼的思考で学べるよう、経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策という4つのメジャーを設置し、またグローバル展開力を身につけるため英語による専門科目や「日本研究」も開設している。少人数教育を重視し、同時に社会人や留学生、高校生という多様なメンバーも参加する「開かれた場」としての学習環境を提供することで、既成の概念にとらわれず、自ら問題を発見、分析、解決することができる人材の育成を目指している。



② 国際交流の実績

2014年5月1日現在、55件の大学間学術交流協定と36件の部局間学術交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：	留学生数	532人、
	日本語・日本文化研修留学生	6人
2013年：	留学生数	539人、
	日本語・日本文化研修留学生	6人
2012年：	留学生数	533人、
	日本語・日本文化研修留学生	3人

④ 地域の特色

埼玉県は、関東平野の中央に位置する内陸県で人口はおよそ723万人、東京に隣接し、電車で約1時間の位置にある。東日本の交通の要衝であり、首都機能の一翼を担う県として大きく躍進している。埼玉大学があるさいたま市は、東京から北方へ20km、人口123万人を擁する県都、江戸時代からの伝統を受け継ぐ、文教・文化都市として発展しており、また、住みやすい住宅都市とも言われる程交通機関がよく整備され、緑豊かな環境とあいまってスポーツの振興も盛んに行われている。



■コースの概要

① コースの特色

10月～3月(第1期)は日本語を中心に学び、4月～9月(第2期)は、日本語学習を継続しながら、学生の専門領域に当たる日本文化の知識を高め、日本と母国の架け橋になる国際人を育成するためのプログラムである。

② 受入定員

9名(大使館推薦6名、大学推薦3名)

③ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、次の1)及び2)を満たす者とする。

1) 日本語能力を有する者

一般的な事柄について会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目を聞き取りながら、内容を理解する能力を有する者。
(財)日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験N2級以上に合格していることが望ましい。

2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者又は、他の専攻分野に在学しつつ日本語・日本文化等に関する分野を学習している者。

④ 達成目標

1) 日本語と日本文化に関する技能や教養、自らの専門分野の知識を高めながら、日本語で情報収集ができ、日本語による高度な口頭発表や文章作成が行えるようになること。

2) 将来、母国における日本関係のエキスパートになるための基盤を養うこと。

3) 首都圏にある都市「さいたま」の文化や特色を学ぶこと。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日

修了証授与は9月を予定(2015年は9月)

⑥ 研修科目の概要

・学生自身の日本語能力や研究領域、関心等に合わせた内容の科目が受講できる。

・埼玉大学の各学部、日本語教育センター、全学教育・学生支援機構等で開講している科目の内、年間12科目以上を自由に履修できる。

・学生の専門領域に当たる各学部専任教員が、指導教員として指導を行う。

1) 必須科目

学生の日本語能力や興味等にに合わせて科目を履修するので、必須科目は設けない。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

年に1回、日本語・日本文化研修留学生のために日本文化を学ぶ見学会等を実施する。これまでの実施例として、岩槻での人形作り体験、沖縄伝統芸能鑑賞会、日本映画鑑賞会等がある。

3) その他の講義、選択科目等

埼玉大学日本語・日本文化研修留学生の多くが受講している科目等を以下に例示する。

a 受講できる受講科目

i) 日本語科目

- ・集中日本語コース
(初級Aクラス～上級Eクラス)
- ・学部「日本語」科目
(読解・作文・聴解・文章作成)

ii) 基盤科目として開設される

人文・社会系科目

- (例) ・日本史・日本語学・日本文学
・文化と教育・経済学入門

iii) 教養学部、教育学部、経済学部、日本語教育センターにて開設される日本語・日本文化等に関する授業科目

上記 i、ii、iiiの中から12科目以上受講する。

b 時間数

前期30時間、後期30時間(通年の場合 計60時間)

※1コマ90分で2時間

c 指導の概要

日本語・日本文化研修留学生は、プレースメントテストを受験し、その結果に基づいて指導を受ける。また、指導教員の助言により、埼玉大学に開設された科目を履修する。

⑦ 年間行事

- 1) 埼玉大学祭「むつめ祭」 (11月)
- 2) 日本文化に関する見学会 (2月頃)
- 3) 埼玉大学附属中学校等で留学生講師として自国文化を紹介 (5月頃)
- 4) ホストファミリー制度
(ホームステイ・ホームビジット)
(時期は年度によって異なる)
- 5) 全学留学生会 (ISSSU) に加入した学生は各種イベントに参加できる。



⑧ 指導体制

- 1) 責任教員：所属学部指導教員
- 2) 協力教員：留学生担当教員、日本語教育センター教員、開設科目担当教員
- 3) 担当事務：所属学部事務室・国際本部国際室

⑨ コースの修了要件

受講した科目については、出席数・試験等規定を満たした場合単位を与える。

上記⑥3) a 受講できる授業科目 i)、ii)、iii)の中から12科目以上の修得を修了要件とし、修了者には修了証書を交付する。

■宿 舎

埼玉大学国際交流会館には、単身室98室、夫婦室55室、家族室19室が用意されており、約170名を収容できる。
日本語・日本文化研修留学生は優先的に入居することができる。

(参考) 埼玉大学国際交流会館使用料
(2014年4月1日現在)

単身室 使用料月額：5,900円、
共用経費月額：6,440円、
管理費月額：1,500円、
保証金：12,000円×5か月、
退去時清掃費：25,000～30,000円
寝具レンタル月額：3,600円



■修了生へのフォローアップ

埼玉大学では、2010年から卒業生の同窓会組織が立ち上がった。

日本語・日本文化研修留学生プログラム修了生についても帰国後のフォローアップを整備していく。

また、facebookを活用した情報提供も行っている。

■問合せ先

(担当部署)

埼玉大学国際室

住所 〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

TEL: +81-48-858-3028 (直通)

FAX: +81-48-858-9675

E-mail: ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp

埼玉大学ホームページ

<http://www.saitama-u.ac.jp>



Saitama University (Saitama Prefecture)



“We offer a wide variety of subjects to choose from.”

■ University Overview

1. Summary

Located in the Tokyo metropolitan area, Saitama University fulfills its mission as a medium-sized national university. The current academic term marks the 65th year since the university's founding in 1949 as a mother school for Urawa High School, Saitama Teachers College and other affiliated institutions under Japan's former educational system. The university is steadily expanding its facilities for education and research, as it continues to grow at the heart of the scientific exchange in the region. As host to over 530 international students during the prior fiscal year, the university also helps further stimulate international exchange. The number of researchers from other countries, as well as participation by the university's instructors in international research activities are also increasing. In addition to five faculties, Saitama University has established four master's programs to further promote advanced education and research, including master's programs and courses leading to a Ph.D., where candidates for advanced degrees can engage in advanced graduate school education and research. The university has also organized a post-doctorate program, through cooperation between the Graduate School of Science and Engineering and RIKEN, an Incorporated Administrative Agency, and is leading the way for other universities in developing new forms of graduate school education.

The Center for Japanese Language Education provides support to education, guidance and advice for international students and also gives opportunities with diverse cultural backgrounds to study Japanese, Japanese culture and heighten their understanding of Japan.

The Faculty of Liberal Arts, which includes diverse specialized fields in the humanities and social sciences, is characterized by an emphasis on interdisciplinary studies that probe and expand the boundaries between various fields of knowledge while simultaneously encouraging integrated research that is organically related to each field and providing the foundations for research in each respective field. The fundamental policy of the Faculty of Liberal Arts is to educate individuals who will be prepared with the education, flexible thinking and integrated decision-making capabilities suited to today's world, by balancing special expertise with a comprehensive, interdisciplinary outlook.

The Faculty of Education aims at fostering the individuals who will be responsible for the education leading to the next-generation society while being able to understand global developments. Students can learn the specialized education, theory and techniques needed to utilize superior educational practices as school educators and life-long learning instructors. Although “solving problems through education” may seem to be a roundabout method, it is the most certain, productive approach. Being involved in education is also one way to address the myriad issues confronting Japan and the world.



The Faculty of Economics offers 4 major courses (Economic Analysis, Global Business and Social Development, Business Innovation, and Law and Public Policy), each of which teaches some core subjects in English, as well as a study focus of 'Japanese Studies' within Social Science.

Our degrees are designed to equip students with the skills to identify, analyse and solve problems, in a unique learning environment with student diversity and low student-to-teacher ratio.

2. International exchange program

Saitama University has international exchange agreements with 55 universities and 36 departments.

3. Number of International students and Japanese Language and Culture Studies students accepted for the past 3 fiscal years

2014: International students: 532
Japanese Language and Culture Studies: 6
2013: International students: 539
Japanese Language and Culture Studies: 6
2012: International students: 533
Japanese Language and Culture Studies: 3

4. Characteristics of Saitama Prefecture and Saitama City

With a population of about 7.23 million, Saitama Prefecture is an inland prefecture located at the center of the Kanto Plain bordering Tokyo, which can be reached in one hour by Train. As a strategic transportation hub of eastern Japan, Saitama has experienced expansive progress as a prefecture supplying many of the key functions for Japan's capital.

The prefecture capital is Saitama City, located 20km north of Tokyo. With a population of about 1.23 million, Saitama has developed as a city of education and culture of inheriting the tradition from the Edo era and is frequently noted as an urban residential center offering convenient, comfortable living, with a well maintained transportation system, a lush green environment and active promotion of sports activities.

■ Outline of the Course

1. Characteristics of the Course

This course seeks to study mostly Japanese language between October and March as the first semester. And the students continue to study Japanese between April and September as the second semester, and expand knowledge of Japanese culture which is their specialized field. The course emphasizes fostering advanced specialists such as internationally-minded people who become a bridge between Japan and their home countries.

2. Number of students to be accepted: 9
(Embassy recommendation 6,
University recommendation 3)

3. Applicant qualifications and conditions

Applicants who wish to attend courses must fulfill the following requirements (1) and (2).

(1) Japanese language proficiency

Applicants must be able to discuss, read and write about general topics, and must be able to comprehend the content of the courses in which they will major while listening to class subject material in Japanese.

Applicants preferably will have passed at least the N2 level of Japanese Language Proficiency Test conducted by the Japan Educational Exchanges and Services.

(2) Individuals who will major in Japanese Studies, or individuals who will study in fields related to Japanese Studies while pursuing a major in another field.

4. Course aims

Students expand their specialized knowledge and skills related to Japanese language and culture. Moreover, they will be able to gather information in Japanese and get more advanced writing and presentation skills in Japanese.

Students seek to lay a strong foundation as a Japan-related expert in their home countries in the future.

Students learn a local character and culture of the town of SAITAMA.

5. Course term

- Fall Semester: October 2015 to March 2016–
–Spring Semester: April 2016 to September 2016–
We issue diplomas on September 2016.

6. Outline of Course subjects

(1) Students are able to take subjects which match their Japanese language skills, specialized fields and interests.

(2) Students are to take more than 12 subjects offered by each faculties, Japanese Education Center, Education and Student Services Bureau in a year.

(3) A supervisor who belongs to a faculty related to student's specialized field or academic interests will give advice for your registration and course selections.

○ Required subjects

There are no particular required subjects because students can freely take subjects that match their Japanese level and interests.

○ The subjects containing educational field trips in the region

Students are given an opportunity of a field trip to study Japanese culture for Japanese language and culture studies program students once a year. For instance, making a Japanese doll in Iwatsuki, Okinawa traditional arts viewing, Japanese movie viewing etc.

○ Another subjects

The followings are the subjects which most Japanese Language and Culture Studies Students take as an example.

a) Course subjects students can attend

① Intensive Japanese Course

Japanese Education Center provides comprehensive courses on the Japanese language. Level of your proficiency will be determined based on the result of the placement test which you take during the orientation period.

② Humanities, and Social Science Subjects as General Education

(Examples) Japanese History; Japanese Language; Japanese Literature; Culture and Education; Introduction to Modern Economics

③ Subjects related to Japanese/Japanese culture offered by the Faculty of Liberal Arts, Faculty of Education, Faculty of Economics and Center for Japanese Language Education

Students must attend at least 12 subjects mainly from the courses in ①, ② and ③.

b) Total course hours

Thirty hours during each semester
(Total 60 hours for one year)

※ Each class 90 minutes, two consecutive class.

c) Guidance

Japanese Language and Culture Studies Students will be required to take a placement test administered by the university, and be advised based on that results.

The students will complete courses offered at Saitama University under the guidance of their supervisors.

7. The annual events

・Saitama University Festival “Mutsume sai” in November

・Field trip related to Japanese culture in February

・Student introduces their home country and culture as a lecturer at Saitama university junior high school

・Home stay and Home visit
(the time depends on the academic year)

・Student can attend any exchange events offered by International Student Society of Saitama University (ISSSU) after enrollment.

.

8. Faculty advisor system and concerned professors

・Responsible professor: Supervisor

・Cooperating professors: Professors in charge of international students in the faculties, professors in the Japanese Education Center, and professors in charge of subjects offered.

・Administration: Office of each Faculty and the Office of International Affairs.

.

9. Course completion requirements, issue of Certificate of Completion and course credits

・ Saitama University will award course credits for subjects attended when students have satisfied all course requirements, including number of classes attended and examination results.

・ The university will also confer a Certificate of Completion to students who complete 12 or more subjects.

■ Accommodations

Saitama University's International House includes 98 rooms for single students, 55 rooms for married couples and 19 rooms for families, and can accommodate about 170 individuals.

Japanese Studies Students are given priority to live at International House.

■ A follow-up to the students who completed the program

The Alumni association of Saitama University was organized in 2010.

The university will adjust a follow-up as well as Japanese Language and Culture Studies Program students who completed and returned their home countries.

Inquiries

Office: Office of International Affairs

Saitama University

Address: 255 Shimo-Okubo, Sakura-ku,

Saitama City, Saitama

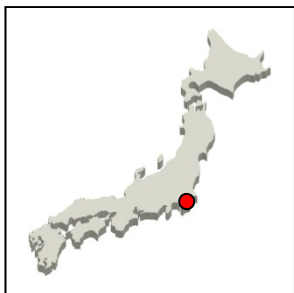
338-8570, Japan

Tel: +81-48-858-3028 (Direct)

Fax: +81-48-858-9675

E-mail: ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp

University URL: <http://www.saitama-u.ac.jp>



千葉大学 (千葉県)



日本人学生との協働学習、地域における実践的な体験、修了レポートの作成を通して、日本語、日本文化、日本社会に対する多様な見方・考え方を身につけることを目指しています。

■大学紹介

① 大学の特色と概要

1) 千葉大学は、1949年に発足した総合大学で、規模、内容とも国立大学法人の上位にあります。文学、教育、法政経、理学、医学、薬学、看護、工学、園芸の9つの学部に加え、大学院として人文社会科学、教育学、理学、看護学、工学、園芸学、融合科学の各研究科および医学薬学府、専門法務研究科が置かれています。

- ・学部学生定員：9,994名
- ・大学院学生定員：2,891名
- ・教授、准教授、講師、助教、助手：1,171名

2) 全学部の学部生を対象にした普遍教育が充実していることや、小・中学校の教員、医師、薬剤師、司法試験の合格率が日本でトップレベルにあることも大きな特色です。

3) 800名以上留学生が学んでおり、留学生教育の拠点としての役割を果たす国際教育センター、留学生や外国人研究者の日本での生活をサポートするインターナショナル・サポートデスクが設置されています。
<http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/index.html>

② 国際交流の実績

千葉大学は32カ国124校と大学間交流協定を結び、活発に交流を行っています。2014年11月現在、協定校からの留学生は151名在籍しています。

③ 過去3年間に受入れた留学生数及び日本語・日本文化研修留学生数 ※ () 内は、大使館推薦日研生の人数

	留学生数	日本語・日本文化研修留学生
2014年	866人	10人(7人)
2013年	922人	8人(6人)
2012年	983人	8人(6人)

④ 千葉県・千葉市の特色

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパス（千葉市）は、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにあります。人口約96万人を有する千葉市は、気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。また、千葉県は水と緑の豊かな自然に恵まれています。地域の環境については千葉県のホームページも参照してください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

■コースの概要

① コースの特色

1) プログラムの位置づけ

日本語・日本文化を専攻し、将来にわたって日本研究を続ける意思のある学部留学生のためのプログラムです。アカデミックな日本語能力を養いながら、日本に関する専門的な知識を習得し、研究能力を高めることを目的としています。また、実地見学や日本人との交流を通して日本理解を深めることにも力を入れています。

2) 日本語学習

各自の日本語能力のレベルに応じた日本語コースに参加し、総合的に日本語能力の向上を図ることができます。

3) 日本文化・日本社会に関する学習

日本事情や日本語に関する様々な授業が履修できます。ほとんどが日本人学生との合同授業のため、異なる視点や認識が交わる中で理解を深めることができます。授業の中には、フィールドワークやインターンシップの活動が組み込まれたものもあります。

また、こうした学習と並行して、各自のテーマについて約10カ月かけて調査・研究を行う修了レポートが全員に課されます。

② 受入れ定員

大使館推薦6～7名、大学推薦3名

③ 受講希望者の資格、条件など

1) 資格

大学において最低2年間の日本語教育を受けており、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。

2) 条件

日本語能力試験N2合格程度以上の日本語力があり、以下のような運用能力を有することが条件です。

- ・日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義や演習を理解することができる。
- ・自分が興味のある一般的な話題で会話を続けることができる。
- ・漢字1000字以上を習得し、一般的な日本語の文章を、辞書を使いながら読むことができる。
- ・一般的な話題で1000字程度の説明文、意見文を書くことができる。

日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を継続する意思のある学生、日本に留学した経験のない学生を積極的に受入れます。

④ 達成目標

授業と実地体験を通して日本語、日本文化に対する多様なものの見方・考え方を身に付けること、基礎的な学術日本語の運用力を習得することが目標です。

⑤ 研修期間

2015年10月1日～2016年8月31日（11ヶ月）

- ・秋学期：2015年10月1日～2016年2月中旬
- ・春学期：2016年4月上旬～2016年8月上旬

⑥ 研修科目の概要

下記の研修科目を中心に、12科目（かつ18単位）以上履修しなければなりません。各学期15週の授業があります。科目名の後の〔 〕内の数字は、授業時間数です。授業科目名にⅠ・Ⅱまたは1・2とある場合、それらは異なる学期に開講されます。

1) 必須科目

特別研究（文系）Ⅰ・Ⅱ〔各30〕：各自の研究テーマで修了レポート（6000字以上）を作成していくための授業で、演習形式で行われます。5名の授業担当教員から指導を受けることができます。7月にはレポートの公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行します。

これまでのレポートのテーマの一例

- ・お笑いのツボ：日本のお笑い芸人が使う、人を笑わせるテクニック
- ・現代のメディアにおける織田信長のイメージ
- ・現代日本語の謝罪表現の使い分けについて
- ・J-POPの作詞方法：表記のバリエーションとその効果



隣人を知る〔30〕：あなたの「隣人」（学生や地域の人々）はどのような文化的背景を持っているのか。千葉の文化・歴史を「多文化・多言語」という観点から捉え直す。教室内外の活動および討論が中心となる。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

特別研究Ⅲ・Ⅳ〔各30〕：日本の歴史や民俗文化が表象されている博物館を、海外から訪問した人たちがどのような見方や考え方で観賞するとよいかについて考察する。その考察に基づいて展示案内（ワークシート）を企画し、それを母語で作成する。

言語文化交流演習〔30〕：言語教育センターで開講される語学授業に母語話者として参加する。自分の言語、文化への理解を深めることができる。

3) その他の講義、選択科目等

以下の1)日本語科目、2)日本を学ぶ（人文科学系）、3)日本を学ぶ（社会科学系）を中心に、各自の日本語能力や専攻に合わせて履修科目を選択します。

(1) 日本語科目

中級以上の5つのレベルのうち、以下の4つのレベルのいずれかに入り、各学期3科目以上受講します。通常、2学期目には一つ上のレベルに進みます。

日本語 500 中級	総合〔90〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文章表現〔30〕・文法〔30〕・漢字〔30〕
日本語 600 中級後半	読解1〔30〕・読解2〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文章表現〔30〕・文法〔30〕・漢字〔30〕
日本語 700 上級前半	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・文法詳解〔30〕・発表資料作成〔30〕・漢字〔30〕
	読解〔30〕・聴解〔30〕・口頭表現〔30〕・レポートの書き方〔30〕・文法詳解〔30〕・漢字〔30〕
日本語 800 上級	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・レポートの書き方〔30〕・文法詳解〔30〕
	口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・レポートの書き方〔30〕・発表資料作成〔30〕

※日本語500、600は各学期同じクラスが開講されます。日本語700、800は上段が1学期目、下段が2学期目のクラスです。

(2) 日本を学ぶ（人文科学系）

日本人の精神・伝統文化（＝日本事情1）

〔30〕：日本の文化・社会・宗教などを題材にした講義。その題材に基づく、教員、学生とのディスカッションも行う。

現代日本人の生活様式（＝日本事情2）

〔30〕：日本社会において見かける（あるいは経験する）であろう社会生活上の慣習を概説し、日本人の精神的な部分を考えるきっかけをつかむ。

戦後日本の食生活Ⅰ・Ⅱ（＝日本事情5・6）

〔各30〕：戦後登場した食材あるいは料理を題材に、日本の食文化を概説する。身近な食から日本における文化的・社会的背景を考察する。

日本イメージの交錯（＝日本事情9）

〔30〕：留学生と日本人学生が、「日本」をめぐるイメージについて様々な素材・角度によって議論を行う中で、物事を相対的に考える視座を身につける。また、日本人のもつ外国へのイメージなどの検討も加味する。

日本アジア文化交流史（＝日本事情10）

〔30〕：日本とアジア諸地域との文化交流を歴史的に振り返る中で、その意義・役割を検討し、今後の関係性を模索するための素材とする。

日本語の文法〔30〕

：日本語の品詞における語形変化や文法的カテゴリーについて学習し、受講生の様々な疑問に答える。

日本語の諸相〔30〕

：日本語を、空間的な広がり、時間的な奥行きなどから多角的に認識し、さらには近隣諸言語との関わりを考察する。

(3) 日本を学ぶ（社会科学系）

時事から日本を考えるⅠ・Ⅱ（＝日本事情7・8）

〔各30〕：新聞や週刊誌などに載った記事を取り上げ、記事の内容が日常生活にどう関わっているかを講義する。その後、その題材をもとに日本人学生と留学生が混ざったグループで、自由に意見交換を行う。

※以下の学部専門科目は、日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れています。*を付した一般学生用の科目以外は、留学生向けまたは留学生に配慮した日本人学生との合同授業です。

文学部専門科目
日本研究入門c〔30〕

教育学部専門科目
国際理解教育演習Ⅰ・Ⅱ〔各30〕、日本の教育事情Ⅰ・Ⅱ〔各30〕、教育記事を読むⅠ・Ⅱ〔各30〕、国際社会の中の情報教育〔30〕、異文化とコミュニケーション〔30〕、日本の政治*〔30〕

工学部専門科目
日本建築史*〔30〕

(2)、(3)の科目はウェブページで詳しい情報を見ることができます。
<http://www.chiba-u.ac.jp/student/syllabus/>

⑦ 年間行事

10月	ウェルカム・パーティー
11月～1月	日本文化紹介プログラム：浴衣を着る、婚礼衣装の紹介、折り紙、茶道体験、書道体験
11月	見学旅行〔房総のむら・佐原・成田山〕
12月	文楽鑑賞教室 ホーム・ビジット
1月	ホーム・ステイ（1泊2日）
6月	歌舞伎鑑賞教室
8月	修了式



※このほかにも、大学主催の「ユニバーサル・フェスティバル」（留学生による文化紹介の催し）や、小学校などで行われる国際交流活動に参加して、自分の言語や文化を捉えなおす機会が多くあります。
※サークル活動や所属学部で独自に行われる留学生のための行事などにも参加することができます。

⑧ 指導体制

(1) 日本語・日本文化研修プログラム実施担当教員
国際教育センターに所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行います。
吉野 文（専門：日本語教育学、応用言語学）
西住 奏子（専門：日本語教育、語用論）

(2) 学部の指導教員

日本語・日本文化研修生は、文学部、教育学部、法政経学部のいずれかに所属して、その学部の教員1名が指導教員となります。応募者がすでに千葉大学における具体的な研究テーマを決めている場合は、専門科目の履修や個人研究の指導を指導教員から直接受けられるよう、できる限り配慮します。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

研修科目の概要に掲げた授業科目を中心に12科目かつ18単位以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与します。学習時間は概ね480時間以上になります。

受講科目を登録し、一定の成績を修めた科目については、単位修得証明書を発行します。参加者への送付は、2016年10月中旬になります。

■宿 舎

千葉大学国際交流会館（単身用）に優先的に入居できます。過去3年間日研生は全員が入居しています。寄宿料・共益費（インターネット接続料金込）は月額19,000円（光熱水料等は除く）です。このほかに、入館の際に15,000円必要です。国際交流会館のある稲毛から西千葉キャンパスまでは電車（一駅）です。徒歩または自転車でも通学できます。

■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了者に対しては、個別に進路相談などに対応しています。

修了生の中には国の大学を卒業後、日本の大学院に進学する人が少なくありません。以下の例のように、国の大学で日本語を教えたり、翻訳・通訳に従事したりして活躍している修了生も大勢います。

◇ 2009年度研修生Aさん（ロシア）

国の大学を卒業後、ロシア国立研究大学高等経済学院の東洋学科で日本語を教えています。中世文学の研究を続けるかたわら、国際協定の責任者としても活躍しています。

■問い合わせ先

担当部署 千葉大学学務部留学生課

住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

Tel：+81-43-290-2193

Fax：+81-43-290-2198

E-mail：mext-scholarship@chiba-u.jp

<https://www.facebook.com/cu.ryuugakuseika>

千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

千葉大学国際教育センターホームページ

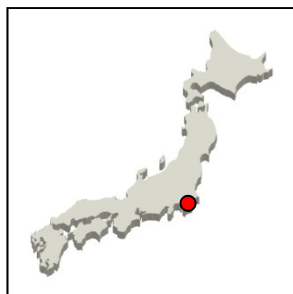
<http://www.international.chiba-u.ac.jp/>

<http://cire-chiba-u.jp/index-e.html>

コース内容に関する照会先

吉野 文 国際教育センター准教授

E-mail：ayoshino@faculty.chiba-u.jp



Chiba University



Japanese Studies Program aims to broaden your view of Japan through studying with Japanese students and visiting local museums and schools as well as other forms of cultural exchange, and to acquire basic research skills through work towards your final essay.

■ University introduction

1. Outline and characteristics of Chiba University

- Chiba University, one of the largest and most vibrant national universities in Japan, was founded in 1949.
- At present, Chiba University comprises nine faculties and schools (the Faculties of Letters, Education, Law, Politics and Economics, Science, Engineering, Pharmaceutical Science, and Horticulture, and the Schools of Medicine and Nursing), and eight graduate schools (Humanities and Social Sciences, Education, Science, Engineering, Horticulture, Advanced Integration Science, Nursing, Medical and Pharmaceutical Sciences). Other facilities include the Center for International Research and Education (CIRE), University Library, Safety and Health Organization and University Hospital. There are 9,994 students in the undergraduate program, 2,891 students in Master and Doctoral Programs, and 1,171 faculty members. Chiba University boasts an excellent general education program for undergraduate students, and a high rate of success in qualification examinations to become teachers, doctors, pharmacists and attorneys.
- Center for International Research and Education is a hub for internationalization and intercultural activities while International support Desk takes care of more than 900 international students studying at Chiba University as their primary, and helps them adapt to life in Japan on and outside the university campus. Further details can be found on the following website:
<http://www.chibau.ac.jp/international/isd/english/index.html>

2. International student exchange

- Chiba University has university level student exchange agreements with 124 universities in 32 countries and host 151 students from our partner institutions abroad (as of November, 2014).

3. Number of international students

	International Students	Students in the Japanese Studies Program
2014	866	10 (7)*
2013	922	8 (6)*
2012	983	8 (6)*

*The number of embassy-recommended students is shown in parentheses.

4. Characteristics of the area

Classes in the Japanese Studies Program are offered on the main campus at Nishi Chiba in Chiba City, and can be reached by train in less than an hour from either Narita International Airport or Tokyo. The campus very green with many trees including beautiful cherry blossoms in early spring.

Chiba City with its population of about 960,000 is the largest city and the capital of Chiba Prefecture and lies on Tokyo Bay. Its closeness to the ocean results in a mild climate throughout the year. Further details on Chiba Prefecture and its environment can be found on the following website:

<http://www.pref.chiba.lg.jp/english/index.html>

■ Course summary

1. Features of the course

(1) Aims

To attain a high level of competence in Japanese, particularly for academic purposes; to acquire specialized knowledge about Japan; to master basic research skills in order to pursue future studies; and to deepen understanding of Japan through field trips and activities with Japanese students and the local community.

(2) Japanese language courses

An array of Japanese language courses commensurate with the student's level of proficiency are offered.

(3) Japanese culture and society courses

A variety of classes in Japanese culture and society designed to promote interaction between Japanese and international students and creating a unique international study environment are offered. Some of the courses provide an opportunity of fieldwork and internship.

While studying Japanese students also pursue their research projects in their specialized fields. They are required to submit an essay in Japanese language at the end of semester.

2. Number of students to be accepted

6-7 students by embassy recommendation,

3 students under the interuniversity exchange agreement(s)

3. Qualifications and requirements

At the time of application and arrival in Japan, applicants must be enrolled as undergraduate students in faculties or schools which offer majors in Japanese language or Japanese culture.

At least two years of study of the Japanese is essential as a prerequisite: applicants should have language proficiency equivalent to at least N2 or of the Japanese Language Proficiency Test and must:

- understand basic lectures and seminars in Japanese which are designed for international students,
- be able to speak on general topics of their interest,
- know approximately 1000 kanji
- be able to read texts of general interest with dictionaries,

– be able to write a short composition (explanatory text or opinion on general topics) of about 1000 characters.

Note: Priority will be given to students whose academic interest is in the field of Japanese Studies, who have the intention to continue their research after returning to their home country, and who have not studied in Japan before.

4. Achievement

The expected achievement is to learn and understand Japanese language and culture from various perspectives and to gain the practical use of academic Japanese.

5. Course Period

From October 1, 2015 to August 31, 2016
 • Fall semester: October 1, 2015 – mid-February, 2016
 • Spring semester: early April 2016 – early August, 2016

6. Overview of courses

Students should select from the courses listed below and complete more than twelve courses (eighteen credits). There are 15 teaching weeks in each semester. Numbers in square brackets [] show the total number of tuition hours per course. Courses that are numbered I/II or 1/2 are offered in different semesters.

(1) Compulsory subjects

Research Work (Humanities) I/II [30/30]

Students are required to write a research paper (at least 6,000 characters) as their final report. They will receive advice and instruction from the instructors in the Center for International Research and Education. In July there is a session at which students present their research papers, which are later collected and published.

Examples of previous research paper topics:

- Sense of humor: Japanese comedian's techniques which make people laugh
- Image of *Oda Nobunaga* in the modern media
- Usage of an expression of apologizing in modern Japanese
- How J-pop lyrics are written: orthographical variation and its effect

Seminar on Cultural Diversity in Japan [30]

We will consider how we interact with other members of our community, who come from a variety of cultural backgrounds. Discussion and activities in and out of class will lead to the re-examination of the culture and history of Chiba as a multicultural and multilingual community.

(2) Participatory subjects

Research work III/IV [30/30]

This course will focus on how to gain the most when visiting Japanese history and folklore museums. In their coursework students will design a museum exhibition guide in the Japanese Language, which they will later translate into their own languages.

Language and culture exchange [30]

Students will participate in foreign language courses provided by the Center for Language Education as native speakers. This course aims to deepen their understanding and awareness of their own language, culture and language education.

(3) Elective and other subjects

Students should select courses from categories 1) to 3) listed below on the basis of their major field of study and Japanese language proficiency level.

1) Japanese courses

Students in the Japanese Studies Program will be assigned to one of the following levels. They need to take more than two courses in each semester at their level.

Japanese 500 Intermediate	Integrated Course [90] , Oral Expression 1 [30] , Oral Expression 2 [30] , Grammar [30], Composition [30], Kanji [30]
Japanese 600 Upper Intermediate	Reading Comprehension 1 [30] , Reading Comprehension 2 [30], Oral Expression 1 [30], Oral Expression 2 [30], Grammar [30], Composition [30], Kanji [30]
Japanese 700 Pre-Advanced	Reading Comprehension [30], Oral Expression [30], Preparing presentation handouts [30], Grammar [30], Kanji [30]
	Reading Comprehension [30], Listening Comprehension [30], Oral Expression [30], Grammar [30], Report Writing [30], Kanji [30]
Japanese 800 Advanced	Reading Comprehension [30], Oral Expression [30], Report Writing [30], Grammar [30]
	Oral Expression 1 [30], Oral Expression 2 [30], Report Writing [30], Preparing presentation handouts [30]

*Courses in the upper rows of Japanese 700 and 800 are provided in the fall semester and courses in the lower columns in the spring semester.

2) Japanese Studies: Humanities

Japanese Traditional Culture: The Spirit of Japan [30]

The focus is on Japanese culture, society and religion, with frequent discussions.

Contemporary Japanese Lifestyles [30]

The focus is on customs observed in Japanese society, which will serve as a basis for understanding the psychology of the Japanese people.

Postwar Japanese Diet I/II [30/30]

The food culture of Japan will be surveyed with the focus on foods and cuisines that have appeared in the post-war era, and the cultural and social background behind everyday foods will be investigated.

Images of Japan [30]

Images of Japan held by both Japanese and international students will be discussed based on a variety of subjects and points of view in order to achieve a more objective perspective. Images that the Japanese have of other countries will also be considered in order to broaden the perspective and deepen cross-cultural understanding.

Introduction to Japanese Culture [30]

The relationship between Japan and Asian countries and with their historical background and their future implications for cultural links and exchange will be discussed.

Japanese Grammar [30]

The focus of the course is on grammatical categories and word inflection in Japanese.

The Japanese Language in Its Diversity [30]

The Japanese language will be viewed from different angles in its geographical diversity, historical background and its relationship to the neighboring Asian languages.

3) Japanese Studies: Social Sciences

Japan Seen through Current Events I/II [30/ 30]

Every week an article from a newspaper or weekly magazine and its relevance to daily life will be discussed.

※The following specialized courses at the Faculties of Letters, education and Engineering have been specially designed with international students in mind. The courses marked with * are primarily intended for regular degree students, but welcome international students, too.

- Faculty of Letters:
Introduction to Japan Studies c [30]
- Faculty of Education:
Seminar on International Education I/II [30/ 30],
Education Affairs in Japan I/II [30/ 30], Reading Articles on Education I/II [30/ 30], Information Education in Japan [30], Cross-cultural Communication [30], Japanese Politics* [30]
- Faculty of Engineering:
History of Japanese Architecture* [30]

Details of the courses in 2) and 3) may be found at the following web page:

<http://www.chiba-u.ac.jp/student/syllabus/>

7. Year in Japan

Oct. Welcome Party

Nov. – Jan.

Programs of Introduction to Japanese Culture (wearing a *yukata*, explanation of wedding costume, *origami*, tea ceremony, calligraphy)

Nov. Field trip (*Bôsdô* village, *Sawara*, *Naritasan*)

Dec. Home visits,

Bunraku demonstration and performance

Jan. Home stay (overnight)

Jun. *Kabuki* demonstration and performance

Aug. Completion Ceremony



International students will also be given an opportunity introduce their own countries and cultures at the Chiba University Universal Festival, and to meet Japanese children at elementary schools to learn about each other's culture.

8. Academic and Personal Advice

The following teachers at the Center for International Research and Education are program coordinators and will provide both academic and personal advice. They will also conduct guidance and homeroom regularly.

Aya YOSHINO (Japanese language education, Applied linguistics)

Kanako NISHIZUMI (Japanese language education, Pragmatics)

All students will be allocated to faculties (Letters, Education, Law, Politics and Economics) and they will be given an academic supervisor who will give them academic advice in cooperation with the program coordinators. In case that they already have their major field of specialization and specific research topic, they will be able to receive individual supervision from a professor whose specialty is relevant to their field.

9. Certificate of Completion

Chiba University issues Certificates of Completion to those who successfully complete more than twelve courses (eighteen credits) and write a research essay. Total tuition time exceeds 480 contact hours on the average. Students will be given a certificate showing their acquisition of credits for classes in which they have enrolled, subject to their satisfactory performance. Certificates of Completion will be mailed to the students in mid-October 2016.



Accommodation

Single rooms at Chiba University International House will be provided for the students in this course. The dormitory fee is ¥19,000 per month, inclusive of common expenses and the Internet access fees, but excluding electricity, heating, water and sewage charges. Additionally, a one-time payment of ¥15,000 is required when moving in. The International House is located in Inage, one train station from the Nishi Chiba campus, or a short distance on foot or by bicycle.

Follow-up after completion of the course

We provide individual counseling to students who have completed this course about their future educational and career choices.

Many course participants continue their study and research at graduate school, teach Japanese at universities or work as translators or interpreters, as in the following example:

Ms. A from the Japanese Studies Program 2009 (Russia)

After graduating from university in Russia, she now teaches Japanese at the department of East Asian Studies at National Research University 'Higher School of Economics'. She continues her research on medieval literature and is in charge of negotiating agreements with overseas universities.

Chiba University address

Office:

International Student Division, Department of Student Affairs, Chiba University

Address: 1-33 Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522 Japan

Tel: 81-43-290-2193 Fax: 81-43-290-2198

E-mail: next-scholarship@chiba-u.jp

<https://www.facebook.com/cu.ryuugakuseika>

Chiba University: <http://www.chiba-u.ac.jp/>

Center for International Research and Education:

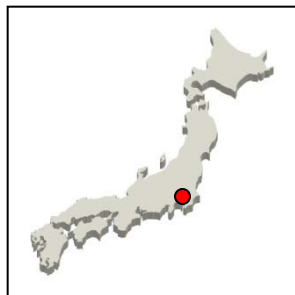
<http://www.international.chiba-u.ac.jp/>

<http://cire-chiba-u.jp/index-e.html>

You may contact the following contact person about the contents of the course.

YOSHINO, Aya (Center for International Research and Education): ayoshino@faculty.chiba-u.jp





横浜国立大学 (神奈川県) YNU

緑と国際性豊かなキャンパスで日本語と日本学を学ぶ。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

横浜国立大学 (YNU) は、横浜師範学校 (1876年設置)、神奈川県立実業補習学校教員養成所 (1920年設置)、横浜高等商業学校 (1923年設置) 及び横浜高等工業学校 (1920年設置) を前身として1949年に誕生しました。

YNUは、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、21世紀における世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねています。



学部 (4) : 教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部

大学院 (5) : 教育学研究科、国際社会科学府、工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府

学生数 (2014年5月1日現在) : 学部生7,458名、大学院生2,467名

常勤教職員数 (2014年5月1日現在) : 教員602名 職員289名

②国際交流の実績

交流協定締結校数 (2014年5月1日現在) : 42カ国・地域122大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

過去3年間の留学生数 (5月1日現在) は以下のとおりです :

2014年 : 留学生数 843 人

2013年 : 留学生数 873 人

2012年 : 留学生数 861 人

本学の全学生のうち、留学生が占める割合は約8.5%と大変高い比率となっています。

※2014年より日本語・日本文化研修留学生の受入れを開始しました。

④ 神奈川県・横浜市の特徴

横浜国立大学の学部・大学院はすべて横浜市にある常盤台キャンパスに集約されています。

横浜は東京から電車で30分のところに位置し、人口370万人を誇る日本第二の都市です。200年以上にわたる江戸幕府の鎖国政策が終わり、世界に開かれた港が作られたのが横浜でした。したがって日本の近代化・国際化は横浜から始まったと言えます。現在は異国情緒のあるオシャレな街として、若者を中心に人気の観光スポットになっています。また、日本初の幕府があった古都鎌倉からも近く、非常に魅力的な立地です。

■コースの概要

① コースの特色

充実した日本語プログラムで日本語力を高め、世界各国から集まる留学生及び日本人学生とともに日本学関連科目を学び、少人数のゼミで自分の研究テーマを深めることができます。

② 受入定員

5名 (大使館推薦4名、大学推薦1名)

③ 受講希望者の資格、条件等

以下の全ての要件を満たしている者を対象とします。

- 外国の大学において日本語・日本文化関連のテーマを専攻している者。
- 「日本語能力試験」N2以上または同等の日本語能力を有する者。
- 在籍大学における学業成績が上位の者。

④ 達成目標

達成目標は以下のとおりです。

- 研究分野において、質の高い成果を発信できる知見と日本語力を得ること。
- 日本人学生及び地域コミュニティとの交流を通じて日本の理解を深めること。

⑤ 研修期間
2015年10月～ 2016年8月

⑥ 研修科目の概要
必修科目は、レベルに応じた日本語科目、論文作成を中心とする「日本学プロジェクト」、及び日本人学生との多言語交流イベントを中心とする「多言語コミュニケーション」から成っています。

- 1) 必須科目
①日本語科目
「日本語上級」科目には、
アカデミック・ライティング
新書を1冊読む
討論・ディベート
待遇表現・日本語話者の意識調査
ビジネス日本語
メディア・リテラシー
震災・復興学
日本文学
自分史を書く

などをテーマとした科目があります。

- ②日本学プロジェクト
③多言語コミュニケーション



2) 見学、地域交流等の参加型科目
小学校ESL（近隣の小学校、特別支援学校等を訪問して英語教育・国際理解教育に携わる）
ホームレスネス（寿町におけるホームレス支援実習）

- 3) 選択科目等（予定）
日本の就職事情
グローバル横浜学
国際交流史
日本語をめぐる国際交流史
日本の社会と文化
日本型生産管理
世界と日本の音楽
Japanese Socio-economic Context
Social, Economic, and Political Encounters with the World
Community Studies

研究テーマ及び日本語レベルによっては学部の授業及びゼミに参加できる場合があります。



- ⑦ 年間行事 （2014年の場合）
4 月 春学期開講、オリエンテーション
6 月 ホームステイ
8 月 駿河湾クルーズ見学旅行 春学期修了
9 月 筑波・千葉見学旅行



- 1 0 月 秋学期開講、オリエンテーション、観月の会
1 1 月 浅草・池袋防災体験旅行、ホームステイ
1 月 大相撲観戦見学旅行
2 月 秋学期修了



⑧ 指導体制

日本語担当教員

小川 菅子美（国際戦略推進機構教授）

日本学担当教員

長谷川 健治（国際戦略推進機構准教授）

その他サポート

●留学生オリエンテーション

学期のはじめに新入生に対してオリエンテーションを行っています。留学生生活に必要なこと、日本語学習に関すること、留学生向けの事務手続き等について説明します。

●チューター制度

必要に応じて日本人学生（場合によっては先輩留学生）がチューターとして留学生の手助けをします。日本語や専門の勉強に関する手伝いの他、生活上の相談にも乗ります。

●ホームステイの案内

留学生センターでは、例年6月と11月に1泊2日のホームステイプログラムを実施しています。

⑨ コースの修了要件

毎学期必須科目を含む12単位以上取得

■宿 舎

国費外国人留学生は、250名の日本人学生と留学生が混住する大岡インターナショナルレジデンス（2010年設置）に優先的に入居することができます。

大岡インターナショナルレジデンス	所要経費	¥41,000(月額)
設備	ベッド、机、椅子、クローゼット、洗面台、トイレ、エアコン、本棚、冷蔵庫 (シャワー、台所は室外共用)	
所在地	横浜市営地下鉄 弘明寺駅から徒歩3分	



<http://www.int-residence.jp/>

宿舎のある地区は、アーケード商店街に恵まれた古い町です。弘明寺駅からキャンパス至近の三ツ沢上町駅までの所要時間は18分です。

※通学定期の学割は適用されません。

■修了生へのフォローアップ

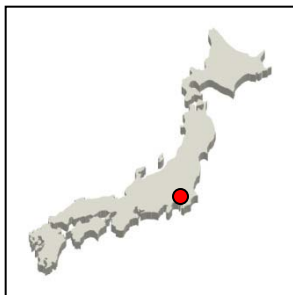
YNUでは約150名の国費外国人留学生を受け入れています。修了生が、派遣元大学卒業後に本学への正規留学（国費外国人留学生（研究留学生）を含む）を希望する場合には相談に応じます。

■問合せ先

（担当部署）
横浜国立大学学務・国際部国際課
住所 〒240-8501
神奈川県横浜市常盤台79-1
TEL +81-45-339-3182
FAX +81-45-339-3039
E-mail international@ynu.ac.jp

横浜国立大学国際教育センターホームページ
<http://www.isc.ynu.ac.jp/>
横浜国立大学ホームページ
<http://www.ynu.ac.jp/>





YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY YNU

(Kanagawa Prefecture)

Hone your Japanese skills and deepen your knowledge on Japan at our dynamic and verdant campus.

■ University Overview

① Characteristics and history

Yokohama National University (YNU) was established in 1949, merged from Yokohama Normal School, Kanagawa Prefectural Training Institution for Teachers of Supplementary Vocational Education, Yokohama High School of Commerce and Yokohama Higher School of Technology.

A highly internationalized university located on a verdant campus overlooking the port of Yokohama, YNU is an ideal setting to undertake Japanese studies.



Undergraduate Colleges: Education and Human Sciences, Economics, Business Administration, and Engineering Science

Graduate Schools: Education, International Social Sciences, Engineering, Environment and Information Sciences, and Urban Innovation

Number of Students (as of May 1, 2014):

Undergraduate Students: 7,458 Graduate Students: 2,467

Number of full-time Faculty and Administrative Staff

(as of May 1, 2014):

Faculty: 602 Administrative Staff: 289

② International Exchange

Number of Academic Exchange Agreement Concluded:

122 Universities/Institutions from 42 countries/regions

③ Number of International Students Enrolled in the past 3 years (as of May 1)

2014 : 843 2013 : 873 2012 : 861

YNU has taken Japanese Studies Students since 2014.

④ Characteristics of Yokohama and Kanagawa

All colleges and graduate schools of YNU locate in Tokiwadai campus in Yokohama.

Located only 30 minutes away from Tokyo, Yokohama is the second largest city in Japan with the population of 3.7 million. Yokohama has been Japan's gateway to the world since its port was opened in the modern period. Today, Yokohama is recognized as a fashionable city with an exotic mood and attracts many visitors. It is also easily accessible to Kamakura, the ancient samurai capital.

■ Outline of the Program

① Characteristics of the program

In this program you will be able to develop your Japanese language skills in a solid language program, study Japanese studies with a diverse group of students, and develop your research projects in a small seminar style class.

② Number of Japanese Studies Students accepted

5 students (Embassy recommendation: 4,
University recommendation: 1)

③ Application Requirements

Applicants must meet the following requirements:

- Majoring in Japanese or Japanese studies related topic at an overseas university.
- Level N2 of the Japanese Language Proficiency Test or equivalent.
- Be in good academic standing.

④ Goals and Objectives

- To acquire the knowledge and language skills needed to complete high-level research projects in the student's field.
- To deepen the student's understanding of Japan through joint activities with Japanese students and local communities.

⑤ Program Period

October 2015 - August 2016

⑥ Subjects

Compulsory subjects include Japanese language courses, the writing seminar “Project in Japanese Studies,” and “Multilingual Communication,” centered around a weekly multilingual event with Japanese students.

1) Compulsory Subjects

① Japanese Language

Advanced level Japanese courses include:

- Japanese Literature
- Writing Self Histories
- Academic Writing
- Disaster and Reconstruction
- Formal Expressions in Japanese
- Academic Writing
- Reading a Shinsho
- Media Literacy

② Project in Japanese Studies

③ Multilingual Communication



2) Participatory subjects such as field trips and regional exchanges

Primary School ESL (Teach English and assist in international education activities at local primary and special education schools)
Homelessness (Participate in homeless assistance activities in Kotobukicho)

3) Other Classes, Optional Subjects, etc (Tentative)

- Urban Dynamism of Yokohama
- History of International Exchange
- International History of the Japanese Language
- Job-hunting and the Workplace in Japan
- Japanese Society and Culture
- Japanese Production Management
- Music of the World and Japan
- Japanese Socio-economic Context
- Social, Economic, and Political Encounters with the World
- Community Studies

Depending on their research interests and Japanese level, students may also join in classes and seminars in one of the undergraduate colleges.



⑦ Annual Events (in case of 2014 FY)

- April Start of Spring semester
- June Homestay program
- August Suruga-bay Cruise Trip
- September Trip to Tsukuba-Chiba



- October Start of Fall semester, Moonviewing Party
- November Asakusa-Ikebukuro Study Trip
- Homestay program
- January Grand Sumo Study Trip
- February End of Fall semester



⑧ Supporting System

Yoshimi Ogawa (Professor, Japanese Language)

Kenji Hasegawa (Associate Professor, Japanese Studies)

Other Supports

Orientation for International Students

An orientation is held in April and October for new international students. Various matters such as everyday living for international students, Japanese language education, and precautions when completing official procedures will be explained.

Tutoring System

A Japanese student (or a senior international student) will help the international student as a tutor. The tutor offers consultation on aspects of everyday living as well as assistance for the studies of the Japanese language and specialized subjects.

Home-stay Information

The International Student Center conducts overnight home-stay programs in June and November.

⑨ Evaluation of Completion

Students need to complete a minimum of 12 credits including required classes.

■ Accommodation

Japanese Government (Monbukagakusho) Scholarship Students are entitled to stay at YNU Ooka International Residence (est. 2010)

Ooka International Residence	Rent etc.	¥41,000/month
Equipment	Bed, Desk, Swivel Chair, Closet, Sink, Toilet, bookshelf Air-conditioner, refrigerator (common kitchen and shower)	
Address	3minutes on foot from Gumyoji Subway Station	



Accommodation is located in the old commercial town of Gumyoji. An 18 minute subway ride takes you through Yokohama to Mitsuzawa-Kamicho station, the nearest station to YNU.

■ Student Follow-up

Some 150 Japanese Government (Monbukagakusho) Scholarship Students are enrolled at YNU. The university encourages Japanese Studies Students to return to YNU for graduate studies.

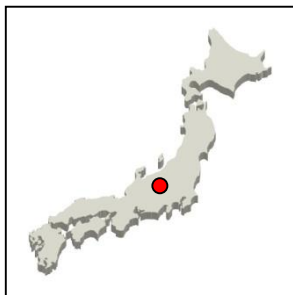
■ Contact

International Office
Yokohama National University
79-1 Tokiwadai, Hodogaya-ku
Yokohama 240-8501, Japan
Tel: +81-45-339-3182
Fax: +81-45-339-3039
Email: international@ynu.ac.jp

Yokohama National University Website
<http://www.ynu.ac.jp/english/>

YNU International Student Center Website
<http://www.isc.ynu.ac.jp/english/>





信州大学 (長野県)



きめ細やかな指導体制、充実した地域とのふれあい行事。実践に則した日本語の習得が可能です。

■大学紹介

①大学の特色および概要

信州大学は1949年に設立された総合大学で、松本・長野・上田・南箕輪の4つの地域に8学部（人文、教育、経済、理、医、工、農、繊維）、8大学院研究科（人文科学、教育学、経済・社会政策科学、理工学系、農学、医学系、総合工学系、法曹法務）があり、学部学生9,199名、大学院生1,827名が学んでいます。その他に国際交流センター、山岳科学研究所、カーボン科学研究所などの教育・研究施設があり、教員数は1,171名となります。

本学は「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しているため、その美しい自然と清冽なイメージに惹かれて全国から学生が集まっている大学です。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。信州大学は、それぞれの地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな働きをしており、日本の大学ランキングの「地域貢献度」では2012年・2013年連続日本一になりました。各キャンパスはネットワークシステムによって結ばれ、大学の一体化と研究情報の効果的な活用が図られています。



上高地 (Kamikouchi)

②国際交流の実績 (2014年5月1日現在)

海外の大学との学術交流協定
大学間協定：70大学 (22か国)

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数 307人、日本語・日本文化研修留学生 2人
2013年：留学生数 308人、日本語・日本文化研修留学生 2人
2012年：留学生数 337人、日本語・日本文化研修留学生 3人



国宝松本城と留学生たち

④地域の特徴

長野県は日本国内でも有数の観光地で、日本のほぼ中央に位置します。日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）が学習する松本キャンパスから東京までは電車で2時間半、名古屋までは2時間、京都までは2時間40分と大都市への移動も簡単です。また、アルプスの山々と高原に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。そのため、国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しむことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。また、1998年に冬季オリンピックが開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。ぜひ信州に来て登山やスキー、スノーボードなどを楽しんだり、歴史のある街の散策を満喫してください。

■コースの概要

①コースの特色

信州大学では日本語や専門について丁寧な指導をするだけでなく、日本社会、日本文化についても学習指導を行っています。特に日本人と一緒に参加するイベントが多くあり、体験を通じて日本文化への理解を深める方針です。また、日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、多文化に関するディスカッション等お互いに刺激あっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生は再び信州に戻るなど好影響が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。

②受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

③受験希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

④達成目標

- ・自分の専門分野について日本語でのスピーチができること
- ・日本語で論文執筆ができること

⑤研修期間

2015年9月18日～2016年8月中旬

⑥研修科目の概要

日本語能力が十分であれば、専門の授業を受けられます。また、一般の留学生と同様に日本語や日本事情の授業も受けられます。さらに、日研生専用の授業もあります。

以下は、日本語関連科目の説明です。

1) 必須科目

- ・ 作文（日本語）（16週32時間）： 専門に関する日本語論文執筆支援のための授業。論文専門の語彙、表現や日本語の論文構成などを指導。
- ・ 2学期目に教養科目、専門科目（日本人学生と一緒に受ける授業）の中から3科目以上受講。

2) 見学、地域交流等の参加型科目（16週32時間）

- ・ 日本社会と日本人： 日本の企業の紹介など
- ・ 武道伝統文化実習： 茶道、琴、剣道、空手など

3) その他の講義・選択科目等

- ・ 日本語・日本事情科目
- ・ 日本語が中上級または上級レベルの学生を対象としたコース。中上級～上級レベルの日本語学習の他、日本のビジネス社会などについて学びます。

・ 授業科目例（16週32時間）

- ・ 読解、聴解、会話、日本語表現・文型、
- ・ ビジネスジャパニーズ、科学技術日本語他

・ スピーチ及び論文指導

- ・ 日研生は帰国前に、自分の専門分野について多くの日本人の前でスピーチをする修了発表会を行います。このスピーチは、構想段階から丁寧に指導され、ハイレベルの発表会が行われています。

国際交流センターが開講する授業については以下ホームページから詳しく調べることが可能です。

http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/edu/14course_all.pdf

⑦年間行事

- 2月 後期修了発表会
- 2月 信州でのスキー・ツアー
- 4月 松本市内見学のバス・ツアー
- 6月 国際交流と多文化共生の祭り
- 6月 全学国際交流旅行（1泊）
- 8月 前期修了発表会
- 11月 国際交流同窓会



着物体験の様子

⑧指導体制

・ 指導教員

日研生は国際交流センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について 個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・ 協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・ チューター

日本人学生をチューターとして用意しています。チューターは、来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、週末と一緒に旅行するなど日研生を幅広くサポートします。

⑨コースの修了要件

通年で12科目14単位以上を取得し、2学期目の修了時に修了発表をすることが修了要件です。修了者には成績証明書を発行し、単位認定をします。



国際交流と多文化共生の祭り

■宿 舎

①宿舎状況

大学が管理するアパートを用意しており、キャンパスまで徒歩10分程度のところにあります。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。

②宿舎費

32,000円/月（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約30,000円/年（共益費他）
＊費用は変更の可能性があります。

③設備

家具・家電製品・ガスコンロ等がついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。

■修了生へのフォローアップ

信州大学の日研生プログラム修了生とは、国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。また、メールやニュースレターで情報のやり取りをし、世界各地で開催されている国際同窓会に招待しています。将来的には同窓会を東南アジアや欧州などでも実施することを検討しています。

修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する欧州の大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現するなどの成果があがっています。

■問い合わせ先

○コース内容について

国際交流センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

○宿舎等その他について

信州大学国際交流課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-2198

FAX +81-263-37-2181

E-mail: suic@shinshu-u.ac.jp

国際交流センターホームページ

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

信州大学ホームページ

<http://www.shinshu-u.ac.jp/>

※ホームページからの問い合わせも可



安曇野での日本人との交流会



Shinshu University (Nagano Prefecture)



Shinshu University provides individualized academic instruction for everyone, and also rich opportunities to participate in cultural events. Students can acquire practical Japanese.

■ University Overview

① Outline of Shinshu University

Shinshu University was founded in 1949 as a national university. We have 5 campuses in 4 cities in Nagano Prefecture. The University consists of 8 faculties (Arts, Education, Economics, Science, Medicine, Engineering, Agriculture, Textile Science and Technology) and 8 graduate schools, as well as many educational and research institutes, including the International Center, the Institute of Mountain Science, the Institute of Carbon Science and Technology. There are 9,119 undergraduate students, 1,827 graduate students, and 1,171 teaching staff.

Shinshu is known as one of the best mountain resorts in Japan, and Shinshu University attracts many students for its favorable campus environment. Each campus shows unique advancement in beautiful nature and long-established educational environment, and contributes to regional development. The University was ranked first in its regional contribution level out of nationwide universities in 2012 and 2013. Campuses are connected by a network system which facilitates effective communication and use of research information in the university as a whole.

② International Exchanges (as of May 1, 2014)
Partnership Agreement Between Universities 70 universities in 22 countries.



Kamikouchi

③ Number of International Students and Program Participants for the past 3 years

[2014] International Students 307 : Program Participants 2

[2013] International Students 308 : Program Participants 2

[2012] International Students 337 : Program Participants 3



Matsumoto Castle, a national treasure

④ Nagano Prefecture (our Location)

Nagano Prefecture is one of the most well-known tourist resorts in Japan. Matsumoto Campus, where program participants study, is located in the center of Japan and is easily accessible to major cities such as Tokyo (by train 2h 30min.), Nagoya (by train 2 hours), and Kyoto (by train 2h 40min.). Nagano is blessed with four distinct seasons, beautiful natural scenery, high mountains which are part of the famous Japanese Alps, carious plateaus, and hot springs which attract many visitors. Furthermore, one can easily sense the culture and history of this area by being able to see many small old castles, shrines and temples. Nagano Prefecture is also famous for winter sports. In fact, the Winter Olympic Games were held here in 1998. We believe students can enjoy climbing mountains, winter sports, field trips etc.

■ Outline of the Program

① Features of the Program

We provide not only high quality Japanese education, but also a wide variety of opportunities to learn about Japanese Society and Culture.

Participants study with Japanese students to gain a better understanding of Japanese culture through experiences of various events. It is motivational for both Japanese students and the participants. Many students keep in touch with each other afterwards. Some participants come back to Shinshu, and some Japanese students study abroad in the participants' home country.

② Program Quota

4: 2 (Embassy recommendation)

2 (Shinshu University recommendation)

③ Requirements for Applicants

- Being able to understand lectures in Japanese with Japanese students.
- Being able to read handouts in Japanese with the help of a dictionary.
- Being able to describe their own major in Japanese.
- Being willing to communicate with Japanese people.
- Being willing to introduce their own countries and cultures.

④ Goals and Objectives

- To be able to make a speech about their own majors in Japanese.
- To be able to write a thesis in Japanese.

⑤ Duration of the Program

From September 15, 2015, to mid -August, 2016

⑥ Outline of Classes

Students with advanced Japanese language skills are allowed to take their own major subjects and provided research advice. Participants will attend both the classes for all international students and the ones only for this programs participants.

Japanese related subjects

1)Required Subjects

- Japanese Writing (16 weeks, 32 hrs): To prepare for writing a thesis related to their specialized theme.
- During the second semester, participants must take at least 3 subjects from general education subjects or education subjects or major subjects.

2)Participatory Classes(16 weeks, 32 hrs)

- Japanese Society and People: Introduce Japanese companies, factories, etc.
- Japanese Martial Arts and Traditional Culture: Tea Ceremony, Harp, Kendo, Karate, etc.

3)Japanese Language and Japan Studies Classes for advanced level.

Classes for upper-intermediate or advanced level Japanese learners. Students study not only Japanese but also the business society in Japan.

•Example of Classes(16 weeks, 32 hrs)

Japanese Reading, Japanese Listening, Japanese Conversation, Japanese Expression and Grammatical Structure, Business

Japanese, Scientific and Technical Japanese, etc.

•Speech and Thesis writing

Participants must make a speech about their specialized field at the end of the course. Detailed instructions are given from a planning stage, which leads to high-level performance.

○For more details, check the syllabi on the website.

http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/edu/13course_all.pdf

⑦Annual Events

Feb: Presentation for Fall semester

Feb: Ski Tour in Nagano prefecture

Apr: Sightseeing bus tour in Matsumoto city

Jun: Multi-cultural Festival

Jun: Field trip (two-day and one-night)

Aug: Presentation for Spring semester

Nov: Alumni reunion for international students



Kimono-clad students

⑧Instruction System

•Academic Advisors

Each student will have an academic advisor who is to give advice on the student's academic and daily life matters.

Dedicated teaching staff: Prof. SATO Tomonori

•Teaching and Supporting Staff

Other university staff, for example, the Faculty of Literature, also support the students depending on their needs.

•Tutor

Tutors will help the students with complicated public procedures, study, and daily life.

⑨Requirements of Course Completion and Transcript

Participants must to take at least 12 subjects and gain at least 14 credits a year, and also give a speech at the end of the second semester. The International Center issues certificate and an official transcript of credits earned with grades.



Multi-cultural Festival

■Housing

①Types of housing

Shinshu University has a University Apartment for participants. It is located within 10 minutes walk from the Matsumoto campus. A room fitted air-conditioner and wired LAN internet connection.

②Accommodation Fee

32,000yen/month (including internet fee, excluding utility charges)

Initial costs is about 30,000yen/year (common fees, room cleaning expenses and neighborhood association fee, etc.)

*Fees are subject to change.

③Furnishing

All rooms are furnished with basic electric appliances, cooking stoves and furniture so that participants can start a new life in Japan with minimum carry-in luggage.

■Follow-up for Graduates

We keep in touch with each other via internet. The International center send s "News Letter" on a regular basis. We invite students who have completed this course to an alumni party held in various parts of the world. We are considering to hold it in Europe and South-East Asia in the future.

One of the students who completed this program became a teaching staff in a university in her own country. We have made a partnership agreement between Shinshu University and her university in Europe.

■Contact

○About contents of program

SATO Tomonori(International Center)

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

○About housing and others

Division of International Exchange

Address: 3-1-1 Asahi, Matsumoto, Nagano, Japan,
390-8621

TEL +81-263-37-2198 / FAX +81-263-37-2181

E-mail: suic@shinshu-u.ac.jp

Shinshu University International Center

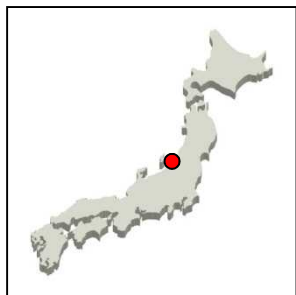
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

Shinshu Univeristy

<http://www.shinshu-u.ac.jp/>



Azumino



新潟大学 (新潟県)



日本語のプロになろう！ 本当の日本文化を知ろう！

■大学紹介

① 大学の特色および概要

新潟大学は1949年に設立され、9学部、7大学院研究科、医歯学総合病院を有し、約12,500人の学生と約2,500人の教職員を擁しています。日本海に面している県にある大学としては、最大規模の大学です。新潟市にふたつのキャンパスがあります。市の中心部に位置する旭町キャンパスには、医学部、歯学部および教育学部附属新潟小学校、中学校、特別支援学校があり、市の西部にある五十嵐キャンパスには、7学部があります。



② 国際交流の実績

- ・大学間交流協定：16カ国・地域 35件
- ・学部間交流協定：28カ国・地域202件

③ 過去3年間の受入れ留学生数（11月現在）及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数 471人、日本語・日本文化研修留学生 7人
2013年：留学生数 500人、日本語・日本文化研修留学生 7人
2012年：留学生数 457人、日本語・日本文化研修留学生 5人

④ 地域の特色

新潟県は質の良いお米と日本酒の産地であり、また、豪雪地帯として有名です。新潟大学の所在地である新潟市は、あまり雪は降りませんし、東京と比べて物価が安く生活費が多くかかりません。ですから日本語と日本人の生活を学びたい学生にとっては、ちょうど良いところです。夏は大学の近くにある海で海水浴、また、冬はスキーやスノーボードといった雪国らしい楽しみ方もできます。

■コースの概要

① コースの特色

本学の「日本語・日本文化研修生」コースの大きな特徴は「日本語集中コース」と「日本文化コース」からなることです。海外で日本語を学ぶ学生は非常に多いのですが、集中的に日本語を学ぶ機会が少ないようです。本学の「日本語集中コース」プログラムでは、日本語のプロになるために最低限必要な授業として、毎日3時間の日本語の集中授業を提供しています。またただ単に日本語だけを教えるのではなく、その根底にある日本の文化も合わせて履修できるようなプログラムを用意してあります。

「日本文化コース」は、日本の文化すなわち歴史や宗教などを中心に学びますが、併せて現代日本の文化、具体的にはアニメ文化や若者文化についても学ぶことも可能です。さらに新潟という地域文化も学ぶことになります。新潟は日本でも有数の米どころであり、酒どころでもあります。また雪国でもあるので、雪に関連する文化事象なども履修することも可能です。

いずれのコースでも、学習成果発表会や実地見学旅行、ホームステイなどに参加可能です。これらに積極的に参加することによって日本文化を肌で感じることを目的としています。

② 受入定員

10名（大使館推薦8名、大学推薦2名）

③ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムに参加を希望する学生は、新潟に来る前に日本語能力試験N1に合格しているか、あるいは講義内容を理解するに必要な日本語能力を有していなければなりません。また学業に専念してもらうために原則として家族と一緒に来日することはできません。

④ 達成目標

「日本語集中コース」は、日本語能力のさらなるレベルアップを目標とする。具体的には読む、書く、話すことがバランスよくできるようになることです。また「日本文化コース」では、日本語で日本文化を紹介できることを目標とします。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年8月31日

⑥ 研修科目の概要

「日本語集中コース」においては、毎日3時間の日本語集中授業の実施。さらに「日本文化コース」では、日本の歴史や宗教などを中心にして学びます。双方とも学習成果発表会を実施し、論文の提出を義務づけています。

●基本科目

科目名	単位数	日本語集中コース	日本文化コース
集中日本語	10	必修科目	必修科目
課題研究Ⅰ／Ⅱ	各2		
日本語教育Ⅰ-A／B	各2	選択必修科目 (6単位以上)	選択科目
日本語教育Ⅱ-A／B	各2		
日本語A～J	各1	選択科目	選択必修科目 (6単位以上)
日本事情人文系A	2		
日本事情人文系B	2		
日本事情人文系C	2		
日本事情社会系A	2		
日本事情社会系B	2		
日本事情自然系A	2		
日本事情自然系B	2		

●その他の選択科目（一部抜粋）

（日本語集中コース・日本文化コース共通）

科目名	単位数
コメ産業論	2
新潟から考える雪の科学と分野	2
日本近代文学C	2
地域から文化を考える	2
新潟学-地域編-	2

本コースのコーディネーターの指導のもと、各自自由に選択して受講します。

⑦ 年間行事

- 1月 もちつき大会
- 2月 地域住民との交流会
- 4月 ウェルカムパーティー / 花見
- 6月 地域の運動会 / ホームステイ
- 7月 学習成果発表会 / ホームステイ
- 8月 地域の祭り
- 10月 入講式 / ウェルカムパーティー
- 11月 一日研修旅行 / ホームステイ
- 12月 学習成果発表会



⑧ 指導体制

本プログラムは「日本語集中コース」と「日本文化コース」の二つに分かれています。毎週指導教員による個人指導を受けます。「日本語集中コース」の指導教員は2名（男女各1）で、日本語教育の専門家です。また「日本文化紹介コース」の教員も2名です（学部教員1、国際センター教員1）。これら指導教員のもとで学業指導及び生活指導を受けることになります。

⑨ コースの修了要件

・ プログラムを修了すると、修了証書がもらえます。修了要件は以下の通りです。

・ 各コースにおける必修科目（14単位）と選択必修科目（6単位以上）を取得した上で、計24単位以上を取得しなければなりません。また、学習成果をレポートとしてまとめて提出することも必要です。



■宿 舎

・ 新潟大学国際交流会館

設備：バス、トイレユニット、キッチンユニット、給湯設備、冷暖房用空調設備

備品：ベッド、机、椅子、書棚、洋服タンス、食器棚（テーブル付）、食卓イス、ガスコンロ、冷蔵庫、電気スタンド、消火器

外国人研究者および留学生のための宿舎としてキャンパス内に国際交流会館があります。

また、大学近くのアパートを借り上げ、「外国人留学生借上宿舎」として、国際交流会館に準じた条件で留学生に提供しています。



■問合せ先

（担当部署）

新潟大学国際センター / 国際課

住所 〒950-2181 新潟県新潟市西区
五十嵐2の町8050番地

TEL +81-25-262-6246（直通）

FAX +81-25-262-7519

E-mail intl-scholarship@adm.niigata-u.ac.jp

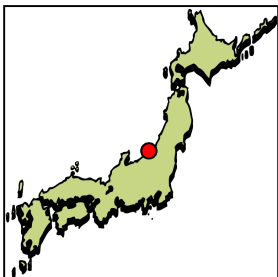
新潟大学ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/index.html>

新潟大学国際課ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/intl/>





Niigata University



Let's be a professional of Japanese! Let's look real Japanese culture!

■ Overview of Niigata University

① About Niigata University

Niigata University was established in 1949 in Niigata City as the center for higher education and research in the areas along the Sea of Japan. The University has nine faculties – medicine, dentistry, law, agriculture, literature, economics, school education, natural sciences, engineering – six graduate schools and Medical and Dental Hospitals, where about 12,500 students receive undergraduate and graduate education and about 2,500 research staff and officers work.

② About International Exchange

- Overseas Partner Institutions:
35 institutions (16 countries / districts)
- Agreements on the faculty level:
202 cases (28 countries/ districts)

③ Number of International Students

Y2014: 471
(7 student from this program)
Y2013: 500
(7 student from this program)
Y2012: 457
(5 student from this program)

④ About Niigata

Niigata prefecture is usually known as a place for good rice and heavy snow. Niigata city itself does not have heavy snow. In addition, the cost of living is much cheaper than that in Tokyo. The size of Niigata city (where our university is) is just right for foreign students who wish to study Japanese and people's life in Japan. You can enjoy winter sports such as skiing and snowboarding at nearby mountains and summer sports on beaches.

■ Course Summary

① Specialties:

We have 2 courses, the Intensive Japanese Learning Course and Japanese Culture Course.

In the Intensive Japanese Learning Course, students will take Japanese lessons 3 hours a day.

In the Japanese Culture Course, students will study Japanese culture, history and religion. They can also study sub-cultures like animation and the culture of young people. In addition, they can study the local culture of Niigata. Niigata is well known for producing rice and sake as well as the local snow culture. Niigata is the “snow country” after all.

We wish you to feel and study real Japanese culture by taking part in various study trips, home stay programs, and so on.

② The number of students in the program will be:
maximum of 10

③ Course Requirement:

All the students applying for this program must have passed Japanese Proficiency Test N1 or have Japanese ability to understand lectures enough before coming to Niigata. In order to concentrate on their study, students are not encouraged to bring their families.

④ Goal:

For the Intensive Japanese Learning Course, the goal is to improve Japanese, reading, writing and speaking.

For the Japanese Culture Course, the goal is to be able to introduce Japanese culture in Japanese.

⑤ Period of the program:
October 1, 2015 – August 31, 2016.

⑥ Out line of the Program

In the Intensive Japanese Learning Course, students will take Japanese lessons 3 hours a day.

In the Japanese Culture Course, students will study Japanese culture, history and religion.

● Basic subjects

Subject	Credit	Intensive Japanese Learning Course	Japanese Culture Course
Intensive Japanese course	10	Compulsory Subjects	Compulsory Subjects
Individual Research and Essay Writing I / II	2 each		
Teaching Japanese I – A / B	2 each	Compulsory elective subjects (minimum 6 credits)	Elective subjects
Teaching Japanese II – A / B	2 each		
Japanese A ~ J	1 each		
Cross Cultural Communication A	2	Elective subjects	Compulsory elective subjects (minimum 6 credits)
Cross Cultural Communication B	2		
Cross Cultural Communication C	2		
Culture and Society in Japan A	2		
Culture and Society in Japan B	2		
Science and Technology in Japan A	2		
Science and Technology in Japan B	2		

● Special subjects(selection)

Subject	Credit
Rice Industry	2
Studies on Science and Culture of Snow in Niigata	2
Modern Japanese Literature C	2
Studies of Culture on Niigata	2
Niigata study	2

Students can choose from the above classes and others after consulting with the coordinator of this program.

⑦ Annual Events

- January Rice-cake making event
- February Party with local people
- April Welcome party, Hanami
- June local sports festival, home stay program
- July Japanese recital, home stay program
- August local festival
- October enrollment ceremony, welcome party
- November One day study trip / home stay program
- December Japanese recital



⑧ Organization of the program

All the students will have private session with their supervisors here at Niigata every week. Japanese intensive course students will have 2 supervisors(ISC experienced Japanese instructors;1 male 1 female). Those instructors are also managers of all the Japanese learning programs at Niigata University. Japanese culture course students will also have 2 supervisors(1 faculty staff, 1 ISC staff).

⑨ Course requirement and Certificate of the program

Students should earn more than 24 credits including compulsory subjects (14 credits) and compulsory elective subjects (minimum 6 credits) in each course.

The end of course, students are required to write short papers as final reports.

A certificate to prove their fulfillment of all the required course work will be given to the students at the end of the program.

■ Accommodation

Niigata University International House (*Niigata-Daigaku Kokusai Koryu Kaikan*).

Facilities: Bath and toilet unit, kitchen unit, hot water facilities, air-conditioning and heating equipment.

Equipment: Bed, desk, chair, bookshelf, wardrobe, cupboard with table, gas cooking unit, refrigerator, desk lamp, and fire extinguisher.

It is located in campus. Also, university has three apartments for international students outside of campus with almost the same condition of International House.



■ Contact

Niigata University
International Student Center (ISC),
International Affairs Division

ADDRESS 8050Ikarashi Ninocho Nishi-ward
Niigata City, 950-2181 Japan

TEL +81-25-262-6246

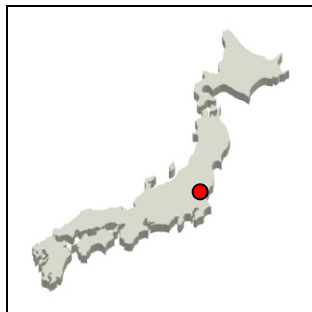
FAX +81-25-262-7519

E-mail intl-scholarship@adm.niigata-u.ac.jp

Niigata University HP
http://www.niigata-u.ac.jp/index_e.html



筑波大学 (茨城県)



◇コースの特色

(1) コースのねらい

日本語の運用能力を高める。それに加えて日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。

(2) コースの形態

①日本語・日本文化研修留学生向けの多くの授業科目を設けている。

その他の科目でも、研修留学生の興味に応じた授業を履修することができる。

②日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。

③修了論文の執筆を課している。

(修了論文は、毎年、日本語・日本文化研修留学生修了論文集『異文化との出会い』として刊行している。)

④複数の指導教員と研修留学生ごとのチューターによる、親身できめ細かい指導を行なう。

◇大学紹介

(1) 特色と歴史

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、そのよき伝統と特色を生かしながら、今日の大学に対する内外からのいろいろな要請にこたえるため、わが国ではじめて抜本的な改革を行ない、昭和48年10月に総合大学として発足しました。本学の特色である「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」「開かれた大学」は、各方面の注目を集め、大学改革の先導的役割を果たしています。

(2) 学生数等 (2014年5月1日現在)

学部名: 人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

教員数: 教授、准教授、講師、助教、助手

計 1,889名

学生数: 学群生9,798名、大学院生 6,656名

計 16,454名



(3) 国際交流の実績

留学生在籍数: 1,889名/106か国 (2014年5月1日現在)

研究者等受入数: 1,204名 (2013年度受入)

(4) 日本語・日本文化研修留学生数 (最近10年間)

年 度	留学生数	年 度	留学生数
2005年	13人	2010年	11人
2006年	13人	2011年	10人
2007年	10人	2012年	13人
2008年	8人	2013年	14人
2009年	12人	2014年	14人

(5) その他つくば市の特色

つくば市は、東京の北東60km、新東京国際空港のある成田の北西40km、北に筑波山(標高876m)を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境豊かな地域に位置している。この中に筑波研究学園都市がある。東京とその周辺からこの地域に移転、または新たに建設された国の試験研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等を加え、国の施策により総合的・組織的な研究学園都市として作られている。また、筑波研究学園都市と東京都心は、つくばエクスプレスで結ばれ、最短45分で行き来できる。

◇コースの概要

受入定員: 14人

(大使館推薦: 12人 大学推薦: 2人)

コース実施期間・授業期間:

2015年10月1日～2016年9月30日 (1年間)

① 指導体制

i) 責任教員のなかで担任教員と副担任教員が決められ、親切に指導する。

ii) 各研修留学生に日本語・日本文化学類学生が1人ずつチューターとして学業面と生活面を手助けする。

iii) 修了論文を執筆する時期には、各研修留学生に、担任教員とは別に専門に応じた指導教員とチューター(大学院生)が指導をする。



日本語・日本文化実験実習のひとつ

iv) 全学的な組織として筑波大学日本語・日本文化研修留学生委員会があり、日本語・日本文化学類の指導体制を援助している。この委員会の委員長は日本語・日本文化学類長であり、委員は筑波大学留学生センター長ほか関係学群長・学類長の4名である。

v) 責任教員

氏 名	所 属	職 名	専 攻
竹沢幸一	日本語・日本文化学類	教授 学類長	言語学
宮本エジソン	日本語・日本文化学類	准教授	心理言語学
澤田浩子	日本語・日本文化学類	講 師	日本語学
清登典子	日本語・日本文化学類	教授	日本文学
御園生涼子	日本語・日本文化学類	准教授	映画研究 映画理論

② 授業科目の概要

(a)～(c)は日本語・日本文化研修留学生カリキュラムで、本プログラムのために特別に開設されている科目である。(a)・(b)は日本語・日本文化学類教員が担当し、聴講の学生は研修留学生だけである。(c)は留学生センターのコースに参加する。

(a) 必修科目

- ・「日本語・日本文化特別研究」Ⅰ、Ⅱ：研修留学生の専門テーマを決定し、年間を通して研究を進め、修了論文を提出する。
- ・「日本語・日本文化実験実習」：1泊2日の野外実習を通して、日本文化に身近に接する。
- ・「日本語・日本文化自由研究」：日本語・日本文化実験実習に向けて、その事前調査をし、実習後には報告書を提出する。

(b) 専門科目

年度によって開講しない科目もあるが、開講されるものは原則として履修すること。

- ・「日本の地理」：現地の見学を行い、景観から日本の地理的特徴を考える。
- ・「日本の歴史」：日本現代史(敗戦直後から90年代までを中心に)を取り上げる。
- ・「日本の慣習」：日本の生活文化と慣習について、民俗学の立場から講義する。
- ・「日本の政治と社会」：日本の近現代の政治と社会について日本人学生と討議する。
- ・「日本の文学」：日本の詩歌について、自然との関わりや季節感の表現などを中心に味わうことで理解を深める。
- ・「日本語による文化伝達Ⅰ」：日本の文化が感じられる言葉や表現を通して、言語から文化を考察する。
- ・「日本語による文化伝達Ⅱ」：日本の現代の社会問題について調べたりビデオを見て、討論を行う。
- ・「日本語による文化伝達Ⅲ」：日本人学生とともに、日本語・日本文化にかかわるテーマについて討論・対話・共同研究を進める。

・「日本人の言語生活」：日本語慣用句の実例を見ながら、話し言葉・書き言葉における慣用句の機能・効果を考える。

(c) 「日本語」(中級～上級)

研修留学生の能力に応じ、日本語の読む、聞く、書く能力を高める。アカデミック日本語等の上級レベル日本語の授業も含む。プレースメントテストの結果に基づいて、日本語能力別のクラス分けをする。



(d) 選択科目

研修留学生はⅠ～Ⅲの科目以外に、日本語・日本文化学類や他学類の開講する科目を、担当教員の許可を得た上で聴講することができる。ただし、日本語で授業されるもののみがコースの修了要件に含まれる。

③ コースの修了要件、修了証書の発行

(a)～(d)から合計300時間以上履修し、修了論文を提出した者には修了証明書を授与する。

【授業科目及び授業時間数】

	授 業 科 目	時間数 (秋学期)	時間数 (春学期)	計
(a)	日本語・日本文化特別研究Ⅰ	15		15
	日本語・日本文化特別研究Ⅱ		90	90
	日本語・日本文化実験実習	15		15
	日本語・日本文化自由研究	15		15
(b) **	日本の地理	15		15
	日本の歴史		15	15
	日本の慣習	15		15
	日本の政治と社会		15	15
	日本の文学	15		15
	日本語による文化伝達Ⅰ	15		15
	日本語による文化伝達Ⅱ		15	15
(c)	日本語による文化伝達Ⅲ	15		15
	日本人の言語生活	15		15
	日本語(中級～上級)			*
(d)	選択科目			*

* 選択した科目によって時間数が異なる。

** 年度によって開講しない科目もある。

④ 実地見学、行事等

i) 行事

- ・日本語・日本文化研修留学生オリエンテーション
学類主催 (10月)
- ・国費留学生全体オリエンテーション
留学生センター主催 (10月)
- ・学長主催留学生パーティ (10月)
- ・日本語・日本文化研修留学生歓迎会 (11月)
- ・修了論文テーマ発表会 (12月)
- ・修了論文中間発表会 (4月)
- ・修了論文発表会 (7月)
- ・修了式 (9月)

ii) 実地見学

「日本の地理」地域見学実習
(筑波山・土浦市11月)

⑤ 単位認定、単位互換

正規の単位は与えられないが、履修した科目名、時間数、評価及び評価基準が記載された、履修証明書を発行する。単位の互換については、帰国後、在籍大学の基準により判断される。



チューターと共に



日研生研修室の和室でのお茶会

⑥ 受講希望者の資格及び条件

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

i) 資格

来日時点で外国(日本以外)の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者。ただし、1年生は対象外とする。

ii) 日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行なう能力のある者。日本語能力試験2級以上が望ましい。

◇宿舎の状況

全員が筑波大学の単身用宿舎に入ることができる。宿舎費は1か月約15,000円である。希望すれば、大学周辺の民間アパートを借りることもできる。

◇修了生へのフォローアップ

- ・日研生からの近況報告や、教員からのメッセージを載せた『日研生 E-だより』を年1回発行し、これまでの日研生全員にメール送付している。
- ・日本語・日本文化学類ホームページやSNSを利用し、情報発信や交流を図っている。

◆ 筑波大学の日本語・日本文化研修留学生については、下記のHPも参考にして下さい。

<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/nikkensei.html>

◇ 問い合わせ先

筑波大学日本語・日本文化学類長 竹沢 幸一
住所 〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel : +81-(0)29-853-6608
Fax : +81-(0)29-853-6839
E-mail : sawada.hiroko.gb@u.tsukuba.ac.jp
(担当教員 澤田浩子)

筑波大学グローバル・コモンズ機構課長
(交流・事業担当) 橋野 正美
住所 〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel : +81-(0)29-853-6090
Fax : +81-(0)29-853-6204
E-mail : isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

* プログラム内容については日本語・日本文化学類、事務連絡についてはグローバル・コモンズ機構へ



University of Tsukuba (Ibaraki)



◇ Program features

(1) Program aims

The aim of this program is to help students improve their Japanese language ability.

In addition, this program provides students with the opportunity to deepen their understanding of Japan through the study of a broad range of subjects related to Japanese language and culture.

(2) Program structure

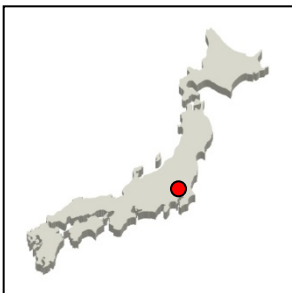
① This program offers many courses designed specifically for the international students in the Japanese Studies Program. Students may also take other courses, according to their individual interests.

② This program places special emphasis on learning about Japanese language and culture through practical experience, both inside and outside the classroom.

③ Students are required to write and submit a final thesis.

(Theses are published annually in the collection *Ibunka to no Deai* ("Intercultural Encounters"))

④ Students receive personal attention and individual guidance from several advisors and tutors.



◇ Overview of the University of Tsukuba

(1) History and distinctive characteristics

The University of Tsukuba was established in October of 1973, maintaining the distinctive character and traditions of its predecessor, the Tokyo University of Education, while at the same time carrying out extensive reforms—the first of their kind in Japan—in response to a variety of internal and external demands on modern Japanese universities. The distinctive characteristics of this university—"new systems for education and research," "new autonomy," "an open university"—have attracted widespread attention and contributed to the leading role this university has played in the reform of higher education in Japan.

(2) Academic community (as of May 1, 2014)

– **Undergraduate colleges:** School of Humanities and Culture, School of Social and International Studies, School of Human Sciences, School of Life and Environmental Sciences, School of Science and Engineering, School of Informatics, School of Medicine and Medical Sciences, School of Health and Physical Education, School of Art and Design

– Number of faculty members:

Professors, Associate Professors, Assistant Professors, Research Associates Total: 1,889

– Number of students:

undergraduate (9,798), graduate (6,656) Total: 16,454

(3) International exchange

– **Number of international students:** 1,889 from 106 countries (as of May 1, 2014)

– **Number of visiting scholars:** 1,204 (FY2013)

(4) Number of international students in the Japanese Studies Program (past 10 years)

Year	No. of students	Year	No. of students
2005	13	2010	11
2006	13	2011	10
2007	10	2012	13
2008	8	2013	14
2009	12	2014	14

(5) Other information about Tsukuba City

Tsukuba is located 60 km northeast of Tokyo and 40 km northwest of the New Tokyo International Airport (Narita). With Mount Tsukuba (876 m) to the north and Lake Kasumigaura to the east, the surrounding area is rich in natural beauty.

Tsukuba Science City was established (in Tsukuba) by the national government in the early 1970's, in order to create a structured hub for research and education outside the Tokyo metropolitan area. At that time, many national research institutes and institutes of higher learning were relocated to or newly constructed in Tsukuba. A number of private research and educational institutions followed as well.

The Tsukuba Express train connects Tsukuba Science City to central Tokyo in 45 minutes.



Program participants and their tutors



◇ Program content

- (1)Enrollment quota: 14 participants (12 consulate recommendations and 2 university recommendations)
(2) Length of program/period of instruction:
October 1, 2015 to September 30, 2016 (1 year)
(3) Courses

① The curriculum for the Japanese Studies Program includes the courses in (a), (b) and (c).
Courses in (a) and (b) are offered by the College of Japanese Language and Culture specifically for the Japanese Studies Program. Participation in these courses is limited to international students in the program.
The Japanese language courses in (c) are offered by the International Student Center.

(a) Compulsory courses
-Special Studies in Japanese Language and Culture I, II: Students choose a topic in their area of interest, research it over the course of the year, and submit a final thesis.
-Experimental Fieldwork in Japanese Language and Culture: Students experience Japanese culture firsthand during an overnight field trip.
-Independent Study in Japanese Language and Culture: Students do preliminary research to prepare for the Experimental Fieldwork course described above. They must also submit a report after completing the fieldwork.

(b) Specialized subjects (taught by the faculty of the College of Japanese Language and Culture)
Some of the following courses are not offered every year. As a general rule, program participants are expected to take those courses that are offered during their stay.
-Japanese Geography: Students carry out field investigations and consider the geographical characteristics of Japan from the perspective of landscape.
-Japanese History: This course covers modern Japanese history with emphasis on the post-war period up to the 1990s.
-Japanese Customs: This is a lecture course on Japanese customs and lifestyle from the point of view of folklore.
-Japanese Politics and Society: Students discuss modern Japanese politics and society with Japanese students.
-Japanese Literature: Students will deepen their understanding of Japanese poetry by considering its relationship with nature, expressions that show a sense of the seasons, etc.

- Intercultural Communication in Japanese I: This course explores culture through language by focusing on words and expressions closely linked to Japanese culture.
 - Intercultural Communication in Japanese II: Students will research and discuss contemporary Japanese social issues. Video materials will also be used as a basis for discussion.
 - Intercultural Communication in Japanese III: Students work with Japanese students to discuss, debate, and research topics related to Japanese language and culture.
 - Language Lifestyle of the Japanese: This course explores the function and effects of Japanese idioms in spoken and written language.
- (c) Japanese (Intermediate-Advanced)
The aim of these courses is to help students improve their Japanese reading, listening, and writing ability. These include advanced classes such as academic Japanese. Students will be assigned to classes based on their level of proficiency according to the results of a placement test.
- (d) Electives
Students may, with the permission of the individual instructor, take other courses offered by the College of Japanese Language and Culture as well as other colleges on campus. However, only classes offered in Japanese will count towards the program-completion requirements.
- ② Program-completion requirements and certificates
A certificate of completion will be given to students who have satisfied the following two criteria.
- taken a total of 300 or more credit hours from the courses in (a), (b), (c) and (d),
 - submitted a final thesis.



Number of credit hours				
	Course	No. of hours (Fall)	No. of hours (Spring)	TOTAL
(a)	Special Studies in Japanese Language and Culture I	15		15
	Special Studies in Japanese Language and Culture II		90	90
	Experimental Fieldwork in Japanese Language and Culture	15		15
	Independent Study in Japanese Language and Culture	15		15
(b) **	Japanese Geography	15		15
	Japanese History		15	15
	Japanese Customs	15		15
	Japanese Politics and Society		15	15
	Japanese Literature	15		15
	Intercultural Communication in Japanese I	15		15
	Intercultural Communication in Japanese II		15	15
	Intercultural Communication in Japanese III	15		15
	Language Lifestyle of the Japanese	15		15
(c)	Japanese (Intermediate-Advanced)			*
(d)	Electives			*

* Number of credit hours will depend on the courses chosen by each program participant.
** Some of these courses are not offered every year.

(4) Advisor system

① Faculty advisors

Name	Affiliation	Position	Area of specialisation
TAKEZAWA Koichi	Japanese Language and Culture	Professor Dean of the College	Linguistics
MIYAMOTO Edson T.	Japanese Language and Culture	Associate Professor	Psycholinguistics
SAWADA Hiroko	Japanese Language and Culture	Lecturer	Japanese Linguistics
KIYOTO Noriko	Japanese Language and Culture	Professor	Japanese Literature
MISONOU Ryoko	Japanese Language and Culture	Associate Professor	Film studies, film theory

- ② A faculty advisor and an associate faculty advisor will be assigned to each student from the above list, to provide him/her with personalized guidance.
- ③ An undergraduate student from the College of Japanese Language and Culture will be assigned to each international student as a tutor, to assist with his/her studies and lifestyle needs.
- ④ For the final thesis, each student will be assigned an academic advisor (in addition to the faculty advisors described above), as well as a thesis tutor (a graduate student). Assignments will be based on the student's topic of interest.
- ⑤ The University of Tsukuba Committee for the Japanese Studies Program for International Students provides support, at the university level, for the advisor system in the College of Japanese Language and Culture. The Dean of the College of Japanese Language and Culture is the Chair of this Committee. There are four other committee members, including the Director of the International Student Center and the deans/provosts of other related colleges/college clusters.

(5) Field trips, special events, etc.

① Special events

- orientation for Japanese Studies international students (October)
- orientation for government-sponsored international students (October)
- party for international students, hosted by the university president (October)
- welcome party for Japanese Studies international students (November)
- final thesis topic presentations (December)
- final thesis mid-term presentations (April)
- final thesis presentations (July)
- Closing Ceremony (September)

② Field trips

Field trip/fieldwork for the course Japanese Geography (Mt.Tsukuba/Tsuchiura city; November)

(6) Credits and credit transfer

Official credits will not be granted. However, a certificate listing the courses completed, number of credit hours, final grade, and standard for evaluation will be issued. Decisions regarding the transfer of credits will be made according to the criteria of the student's home university after his/her return.



(7) Qualifications and conditions for applicants
Applicants to the Japan Studies Program must satisfy the following conditions.

① Qualifications

Applicants must, at the time of arrival in Japan, be enrolled in an overseas (non-Japanese) university in a faculty or department that offers studies related to Japanese language and culture. First-year students are not eligible to apply.

② Japanese language proficiency

Applicants must be able to understand lectures, read reference materials, write papers, and make oral presentations in Japanese. Applicants should have a level of Japanese proficiency equivalent to or higher than Level 2 of the Japanese Language Proficiency Test.

◆ Housing

All applicants are eligible to live in the student residence hall for single type rooms at the University of Tsukuba. Rent is approximately 15,000 yen per month. Alternatively, students can rent privately-owned apartments off campus.

◆ Follow-up for the students who have completed the course

We publish the "Nikkensei E-Newsletter" annually and email it to all of the students who have completed the program. We also keep in contact with them via our website and Facebook account.

◆ Contact Information

For information on program content, contact the College of Japanese Language and Culture. For information on applications, contact the Global Commons.

• TAKEZAWA Koichi,
Dean of the College of Japanese Language and Culture
Address: University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki
JAPAN 305-8572
Phone:+81-(0)29-853-6608 Fax:+81-(0)29-853-6839
E-mail(Faculty advisor): hiroko.sawada.gb@u.tsukuba.ac.jp
<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>
<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/nikkensei.html>

• HASHINO Masami,
Head, International Relations, Global Commons
Address: University of Tsukuba
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki
JAPAN 305-8577
Phone:+81-(0)29-853-6090 Fax:+81-(0)29-853-6204
E-mail: isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

③ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とします。

a) 資格：来日時時点で外国（日本以外）の大学の日本語・日本文化に関する教育を行なう学部・学科に在籍する者。ただし、1年生は対象外とする。

b) 日本語能力：日本語能力試験N2、J-test実用日本語検定準B級を有する者

日本語による授業を理解し、参考文献を読み、レポートを書き、口頭発表を行う能力のある者。

④ 達成目標

受入教員と日本語教員の指導のもとで進め一年間の研究成果を発表し、修了レポートの提出。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日
修了式は9月を予定（2016年は9月）

⑥ 研修科目の概要

- ・特別聴講学生として、以下の科目を一般学生とともに受講し、単位を取得することができます。
- ・入学後、以下の科目以外に希望する科目があれば、追加して受講することができます。
- ・受講科目については、受入教員との相談のもとで決定します。

世界を語ろう
オーストラリアと
クリスマス



1) 必須科目：

前期・後期各期15週開講する。すべて日本語での授業である。

学校教育学部開設科目：

多文化比較研究A/多文化比較研究B/日本語・日本文化研究セミナーA/日本語・日本文化研究セミナーB/日本語・日本事情Ⅰ/日本語・日本事情Ⅱ/国際交流セミナー

日本語補講科目：

日本語レポート作成A/日本語レポート作成B/日本語研究発表A/日本語研究発表B/日本語文献購読A/日本語文献購読B

2) 見学、地域交流等の参加型科目

日本語・日本文化研究セミナー

受入教員と日本語教員の指導のもとに、各自日本に関する研究課題を設定して、修了レポートを書き、発表する。
学校参観 本学の附属小学校・附属中学校を始めとして参観を実施しています。

3) その他の講義、選択科目等

前期・後期各期15週開講する。すべて日本語での授業である。

学校教育学部開設科目

日本事情：日本国憲法/人権・同和教育/人権と教育行政

日本文化：書の文化と表現/書写書道Ⅰ/書写書道Ⅱ

国際理解：国際交流体験演習

日本の文学：国文学講読B/国文学演習B

日本の地理・歴史：日本史研究A

日本の教育：国語学講読C/比較教育学/こどもの教育・保育概論/教科別開設科目

学校運営等：教育本質論/学校教育相談(理論)

日本語補講科目：

基礎日本語（読解）A/基礎日本語（読解）B/基礎日本語（作文）A/基礎日本語（作文）B/基礎日本語（会話）A/基礎日本語（会話）B



地域との交流
伝統芸能
「春駒」

⑦ 年間行事

- 4月 4月入学留学生オリエンテーション
留学生の花見
- 5月 語学教室
- 6月 留学生交通安全教室
上越地域散策
- 8月 留学生の日本文化・歴史体験及び地域交流に関する研修（1泊7日）
短期外国人留学生成果発表会
- 9月 短期外国人留学生修了証書授与式
- 10月 10月入学留学生オリエンテーション
大学祭参加
- 11月 学長と入学留学生との懇談会
世界を語ろう
J. TEST実用日本語検定受験
留学生との意見交換会
- 2月 短期外国人留学生の附属学校授業参観
留学生スキーツー
- 3月 国際交流のつどい

留学生
の花見



⑧ 指導体制

- 担当教員 … 留学生一人ひとりに、受入教員が
研究指導・履修指導に当たります。
- 日本語指導 … 本学教員及び外部講師による日本語
指導により、言語能力から生じる不
安を取り除きます。
- 担当事務 … 研究連携室国際交流チームの職員が、
日本での生活全般の相談に応じます。
1名が個別に日常生活から専門領域
の研修に関しサポートを行います。

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には、修了証書を授与します。

- 1) 学部開講科目の中から半期12科目以上受講し、単位を取得すること
- 2) 受入教員と日本語教員の指導のもとで進めた一年間の研究成果を発表し、修了レポートを提出すること

短期留学生 成果発表会



■宿 舎

キャンパス内の緑に囲まれた一面に、留学生及び外国人研究者と日本人学生との混住方式による国際学生宿舎があります。

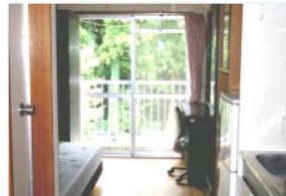
留学生用は単身用居室15室、夫婦用居室3室となっています。

設備

- ・単身用：ミニキッチン、ユニットトイレ、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット、片袖机、回転椅子、書棚、洋服ダンス、吊り書棚、食器棚、冷蔵庫、電気スタンド
- ・夫婦室：キッチン、ユニットバス、給湯設備、冷暖房用空調設備、シングルベット2、片袖机、回転椅子、書棚、応接テーブル、応接イス、食卓テーブル、食卓イス、食器棚、整理ダンス、玄関収納庫、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、電気スタンド、クローク



〔国際学生宿舎 外観〕



〔国際学生宿舎 室内〕

■修了生へのフォローアップ

○修了生へ、本学が毎月配信している「国際交流ひろば」や「留学生ネットワーク」をとおして情報提供を配信している。

雪国 スキー体験



■問い合わせ先

担当部署：上越教育大学研究連携室
国際交流チーム

住所：〒943-8512

新潟県上越市山屋敷町1番地

TEL：+81-25-521-3299

FAX：+81-25-521-3621

E-Mail：ryugaku@juen.ac.jp

上越教育大学ホームページ

<http://www.juen.ac.jp/>

日研生コースガイド

<http://www.juen.ac.jp/050about/030internat/040recep/index.html>



Joetsu University of Education (Niigata)



To provide overseas students with necessary training in Japanese language and culture, in accordance with each student's interests.

■ Overview of the University and Joetsu City

① Outline and Overview of Joetsu University of Education

1) Characteristics and History

In order to meet contemporary needs, Joetsu University of Education was established in 1978 as a national university which aims to promote the theoretical and practical studies of school education. It consists of the Graduate School of Education, which mainly intends to provide advanced studies in school education for in-service teachers, and the College of Education, which offers undergraduate courses in teacher training.

In 2008, in accordance with the development of the Teaching Profession Graduate School System, the Professional Degree Program (Graduate School of Professional Teaching) was established in the Graduate School of Education.

2) Number of Teachers and Students (as for May 2014)

Teachers: 153

Students: Undergraduates: 683

Graduate: 632



[Myoko, Hiuchi, and Nanba Mountains viewed from the Sekikawa River during the winter season]

② Number of international exchange (as for October 2014)

Foreign students: 33 (9 countries)

Exchange agreements with overseas universities: 9 (5 countries)

③ Number of students in the Japanese Studies Program

year	total	Students in the Japanese Studies Program
2014	33	2
2013	27	3
2012	32	1

④ Features of Joetsu city

Joetsu city has numerous historical and cultural assets. Also, it is surrounded by impressive nature and is famous as one of Japan's snowy cities. Joetsu City is located on the west coast, 2 hours by train from Tokyo.

The Hokuriku shinkansen (bullet train) service has opened in March of 2015.

■ Course Outline

① The Aim of the Program:

To provide overseas students with necessary training in Japanese language and culture, in accordance with each student's interests.

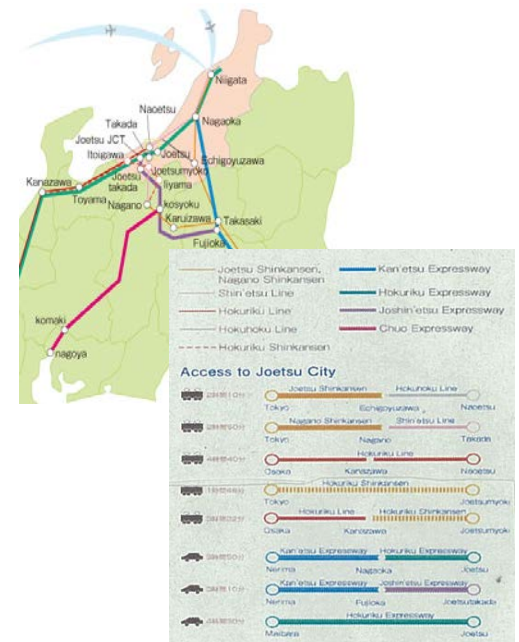
To provide curriculums with a cooperation of an academic advisor, considering each student's interests.

② Number of students to be accepted: 4

(students with embassy recommendation 2
students with university recommendation 2)



[The Front View of Joetsu University of Education]



③ **Qualifications and conditions for applicants**

a) **Qualifications** : Applicants must, at the time of arrival in Japan, be enrolled in a faculty or department offering studies in the Japanese language and Japanese culture.

First-year students at your university are not eligible to apply for this program.

b) **Japanese language proficiency** : Applicants must be able to understand lectures, read reference materials, write papers, and make oral presentations.

The Japanese Language Proficiency Test N2

④ **Goals and objectives**: To research with under the academic advisors and Japanese language teachers, present an academic research achievements and submit an academic report.

⑤ **Period of study**: from October 1, 2015 through September 30, 2016
Ceremony is scheduled for September(September 2016)

⑥ **Contents of the Course**

- Overseas students, registered as special auditors, can attend the following classes and acquire course credits after fulfilling certain requirements.
- After enrollment, students can also take other lectures not listed below, with the professor's permission.

Let's talk about the world
Christmas in Australia



1) **Required Programs**:

Semesters of 15 weeks each year to be offered. Classes are all in Japanese.

Subjects of College of Education:

Multicultural comparative study A・B/Japanese and Japanese cultural studies Seminar A・B/Japanese and Japanese Society 1・2/Seminar in Basic Intercultural Communication

Japanese language Classes :

Report Writing in Japanese A・B /Japanese Research Announcement A・B/Japanese Literature Subscription A・B/

2) **Visit, subjects such as participatory local exchange**

Academic Research of Japanese and Japanese Culture, Multicultural comparative study.

To set one's own research theme about Japanese language and culture

under the guidance of research advisors and JSL advisors through the One-Year Japanese Studies Program. Students are required to write a thesis/report on their research studies and make a presentation. School visit Visiting the University Attached Elementary School and Attached Junior High School, and other local schools.

3) **Other courses, electives, etc.**

Semesters of 15 weeks each year to be offered. Classes are all in Japanese.

Subjects of College of Education: Japanese Society : The Constitution of Japan/Dowa education rights/Human Rights Education Japanese Culture : Culture and Expressions of Calligraphy/transcribed calligraphy1・2

Intercultural Communication : Practical Seminar in Intercultural Communication

Japanese Literature :Japanese Literature Reading

Japanese Geography and History :Study of Japanese History A Education in Japan :Comparative Educational Studies/Introduction to Child Education/School Subjects School Organization in Japan : Essential Theory of Education.

Japanese language Course:

Basic Japanese (reading comprehension) A・B/Basic Japanese (writing) A・B/Basic Japanese(conversation) A・B.

⑦ **Annual Events**

April

Orientation for foreign students enrolled in April.
Blossom viewing.

May

Foreign language lessons by foreign students.

June

Traffic safety lessons for foreign students.
Taking a walk in Joetsu.

August

Achievement presentation for short-term international students
Field trip for Japanese culture and history experience, cultural exchange (one-night tour)

September

Short-term foreign students Diploma Ceremony

October

Orientation for foreign students enrolled in October.
University Festival

November

Lunch meeting with the President
Let's talk about "WORLD"
Taking the practical Japanese test:J.TEST
Exchanging views and ideas with foreign students.

February

Classroom visitations in the University attached Schools for short-term international students.
Ski experience.

March

International Gathering



⑧ Guidance

• Academic advisor:

Each international student has his/her own academic advisor who gives guidance on course selection and research instructions.

• Japanese language instructors:

Japanese language instructors will help your difficulty in language learning and improve your Japanese.

• Advisors: The staff of the international exchange office will assist you in leading a comfortable learning and on-campus & off-campus life during your stay in Joetsu.

⑨ Completion of the Program

A student who completes the below completion requirements will be issued a completion certificate.

- 1) Students who complete more than 12 classes including required classes and electives will be issued with a certificate.
- 2) Present an academic research achievements and submit an academic report.

Student achievement
short presentation



■ Accommodation

The university has an international dormitory for foreign students, foreign researchers and Japanese students.

Fifteen one-bedroom rooms and three rooms for families are available for foreign students.

Equipment For Single :

kitchenette, toilet units, hot water, for heating and cooling air conditioning, single bed, desk sleeve, swivel chair, bookcase, wardrobe, bookshelf hanging cupboard, refrigerator, and desk lamp.



[International Dormitory outside]

[Single room inside]

■ Follow-up for graduates

We provide information to all students after completion, through a foreign student network and a monthly news letter.

Ski experience in Myoko Kogen



■ Contact

International Student Section,
Joetsu University of Education
1, Yamayashiki-Machi, Joetsu-City, Niigata, Japan,
943-8512.

Phone: +81-25-521-3299

FAX: +81-25-521-3621

E-mail: ryugaku@juen.ac.jp

Joetsu University of Education Home page:

<http://www.juen.ac.jp/>

Japanese Students Course guide :

<http://www.juen.ac.jp/050about/030internat/040recep/files/2014-0129-1500.pdf>



お茶の水女子大学 (東京都)



小規模大学の特性を生かし、教員 1 人当たりの学生数が少ない環境できめ細かな学習指導や支援を受け、日本語及び日本文化を学ぶことができます。授業以外の日本人学生との交流プログラムも充実しています。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

お茶の水女子大学は、1875年、国によって設立された日本最初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」を前身としています。

すべての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すまに自己自身の学びを進化させることを支援することを使命としています。

日本における女性教育の先達であるお茶の水女子大学は、国際状況の中で、政治、経済、学術、文化をはじめ各界のオピニオンリーダーとなりうる女性を育成するプログラムを世界に示しています。

本学では、小規模大学の特性を生かし、教員一人あたりの学生数が少ない環境で、きめ細やかな学習指導や支援を受けることができます。

2) 学生数等 (2014年5月1日現在)

学 部：文教育学部、理学部、生活科学部

大学院：人間文化創成科学研究科

教員数：190名

学生数：学部生 2,060名 (86名)

大学院生 895名 (154名)

(注) カッコ内は留学生数で内数

② 国際交流の実績 (2014年5月1日現在)

26か国から240名の学部生、大学院生、研究生等が在籍し、勉学に励んでいます。

大学間交流協定校数：61校

③留学生の受入数及び日本語・日本文化研修留学生 (以下、日研生) の受入れ実績

2014年度：240名 (9名)

2013年度：214名 (13名)

2012年度：212名 (9名)

(注) 過去3年間、5月1日現在 () 内は日研生で内数

④東京都 (文京区) の特色

文京区は、東京23区のほぼ中央に位置し、史跡や名所の多い歴史的な町であり、伝統的な大学や多くの学校のある町として知られています。一方、みどり豊かで落ちついた住環境は、都内でも屈指のものとされています。

■コースの概要

①コースの特色

母国で基本的な日本語能力を習得した学生を対象とし、将来大学院で学ぶことも視野に入れて、アカデミックな日本語力の強化を行います。日研生のみを対象としたオリエンテーション、週1回の特別クラス、及び指導教員による定期的な面談など、きめ細かい指導が特色です。また、他の学生との交流を促進するために、日本語・日本文化研修留学生だけのクラス編成を行わず、本学の外国人留学生を対象として開講する「外国人留学生特別科目」や日本人学生向けの科目も受講します。

②受け入れ定員

大使館推薦 6名

大学推薦 6名

(有資格の応募者多数の場合には、この限りではない。)

③受講希望者の資格・条件等

成績優秀で、原則として日本語能力試験N2以上を保持している者。

④達成目標

(1) 修了レポート完成

週1回の特別クラスで、1年かけて自身が興味を持つテーマについて学び、修了レポートを作成します。アカデミックな日本語力を伸ばしながら、専門知識、論文の書き方などを学びます。

(2) 日本人学生と一緒に授業の履修

「日本語」「日本文化」いずれのコース希望も受け入れますが、専門的な「日本文化」については、日本人学生向けの科目で学ぶことになります。(外国人留学生特別科目では、日本文化の基礎的な内容のみとなります。) 留学生受入機関であるグローバル教育センターにおいて、留学生としての指導を受けながら、1年間の留学期間中に、日本人学生と共に学べるようになるのが目標です。留学生と日本人学生の両方を対象にした科目も開講されています。

また、日研究生を受け入れる指導教員全員が、大学院日本語教育コースを担当する教員でもあり、文教育学部の専門科目も担当しています。将来、日本語教育分野での活躍を目指す学生にとっては、当該分野の専門的な指導を、指導教員から受けることも可能です。

⑤研修期間

2015年10月1日 ~ 2016年9月30日

※原則として9月上旬に行われる修了式以降に帰国する。

⑥**研修科目の概要**：前期(10月～3月) 後期(4月～9月) それぞれ8科目相当の履修を義務づけています。

1) 必修科目

週に一度日研究生を対象としたクラスがあり、基本的なアカデミック・スタディ・スキルを学び、修了レポートの作成を目指します。

2) 見学・交流などの参加型科目

留学生向けの企画として、留学生と日本人学生との交流合宿、国際交流研修旅行、国際交流のタベ、歌舞伎鑑賞教室、茶道教室、生け花教室、着付け教室などが実施されます。



国際交流のタベ



国際交流研修旅行

3) その他の講義、選択科目

・外国人留学生特別科目

日本語 I A/B～VA/B：(各学期5科目)

1科目(2単位) 当たり30時間

総合的な日本語力を養います。

日本事情 I A/B ～VA/B (各学期5科目)

1科目(2単位) 当たり30時間

日本の歴史・社会・文化について学びます。

上記とは別に、特設日本語科目も開講されています。

・日本人学生対象の一般科目

前期(10月～3月)は、外国人留学生特別科目を中心に受講し、後期(4月～9月)は、各自の専門に応じて一般科目も受講することを基本とします。

⑦年間行事

<2015年度>

10月 授業開始

日研究生オリエンテーション

留学生オリエンテーション

11月 大学祭

12月 ～～冬休み～～

<2016年度>

1月 日研究生修了レポート中間発表会(全員参加)

2月 後期授業終了(試験・レポート)

中間レポート提出

～～春休み～～

4月 授業開始・留学生オリエンテーション

6月 日研究生修了レポート報告会(全員参加)

7月 日研究生修了レポート提出

前期授業終了(試験・レポート)

8月 ～～夏休み～～

9月 日研究生修了式(必ず出席してください)

帰国

⑧指導体制

大学院人間文化創成科学研究科所属でグローバル教育センター員の下記教員3名が指導教員として指導に当たります。日研究生の受け入れ指導教員全員が、大学院日本語教育コースを担当する教員でもあり、文教育学部の専門科目も担当しています。将来、日本語教育分野での活躍を目指す学生にとっては、当該分野の専門的な指導を、指導教員から受けることも可能です。

森山 新 教授

(日本語教育学)

西川 朋美 助教

(第二言語習得、バイリンガリズム)

※加納 なおみ 助教

(リテラシー教育、バイリンガル教育)

※印が責任教員、()内は教員の専門分野

⑨コースの修了要件

1) 毎週の日研究生クラスへの出席

2) 前期・後期それぞれにおける科目履修

3) 修了レポートの提出

研修終了時に修了レポートを提出します。そのために指導教員による個別指導も行われます。

■宿 舎

①概要

名 称：国際学生宿舎

所 在 地：東京都板橋区仲町

構 造：鉄筋コンクリート5階(個室)

給 食：なし

一ヶ月寮費：4,700円

修繕積立金：1,000円

その他光熱水料等：約8,000円

対 象 学生：学部新生、学部在学学生、
外国人留学生で単身者



国際学生宿舎

②日研生の入居状況

2014年度：9名（全員入居）

2013年度：13名（全員入居）

2012年度：9名（全員入居）

（注）宿舎は単身用です。家族と共に住みたい場合は、自身で民間アパート等を探していただきます。

■修了生へのフォローアップ

本学での日研生プログラム修了後、本学大学院（日本語教育、ジェンダー研究など）で学ぶために再来日する学生がほぼ毎年います。本学でさらに専門的な勉強をしようと、再来日を目指す修了生には帰国後も相談に乗るなど、積極的に支援しています。

■問い合わせ先

担当部署：お茶の水女子大学国際課

住所：112-8610東京都文京区大塚2-1-1

TEL：+81-3-5978-5143

FAX：+81-3-5978-5951

E-mail：ryugai@cc.ocha.ac.jp

WEBサイト

・大学：

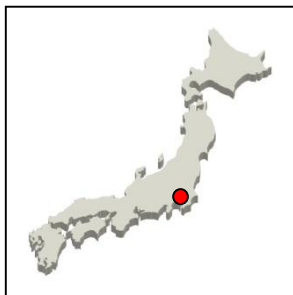
<http://www.ocha.ac.jp/>

・国際本部：

<http://www.ocha.ac.jp/intl/index.html>

・グローバル教育センター：

<http://www.ocha.ac.jp/intl/center.html>



OCHANOMIZU UNIVERSITY (TOKYO)



Welcome! Our program offers a variety of small-sized, intimate classes where international students can effectively learn the Japanese language and culture. We also have various extracurricular activities in which foreign students have the opportunity to interact with Japanese students.

■ Introduction

① Outlines

1) Characteristics and History

Since its founding in 1875, Ochanomizu University has been embracing the dual commitments of fulfilling its function as an advanced educational institution and improving the intellectual foundations of Japan.

Ochanomizu University supports all women, regardless of age or nationality, in protecting their individual dignity and rights, freely developing their unique qualities and capabilities, and pursuing personal learning so as to satisfy their intellectual appetites.

As a pioneer of women's education in Japan, Ochanomizu University offers programs that develops women capable of being opinion leaders in politics, economics, academia, culture, and other fields on the international stage.

One notable attribute of our program is small-sized intimate classes where international students can effectively learn the Japanese language and culture.

2) Number of Students and Others

(as of May 1, 2014)

- Faculties: Faculty of Letters and Education
Faculty of Science
Faculty of Human Life and Environmental Sciences
- Graduate Course: Graduate School of Humanities and Sciences
- Number of Faculty Members: 190
- Number of Students:
Undergraduate: 2,060 (*86)
Postgraduate: 895 (*154)
*Included number of international students

3) Number of Japanese Studies Program students:

FY2014: 9
FY2013: 13
FY2012: 9

4) The Bunkyo Ward is

- where Ochanomizu University is located. It is also geographically recognized as the heart of all 23 wards in Tokyo.
- well known for its historical sites, places of interest, universities with long-established traditions and many schools.
- a district that offers one of Tokyo's most peaceful environments with the beauty of nature.

② Actual Achievements for International Exchange

As of May 1, 2014, 240 international students are studying at Ochanomizu University. 13 of them are enrolled as Japanese Studies Students.

Number of partner universities: 61

■ Outline of the program

1. Name of the Program

Japanese Studies Program

2. Distinguishing Characteristics of the Program

Since Ochanomizu University is a small-sized university, we are able to provide foreign students with a friendly atmosphere that is suitable for studying the Japanese language and culture. In addition, foreign students will also have the opportunity to interact with Japanese students outside the classroom as well.

3. About the Program

① Number of students to be accepted

Students nominated by a Japanese Embassy: 6

Students nominated by Ochanomizu University: 6

*Depending on the situation, we might accept a few more students.

② Language Requirement

Japanese Language Proficiency Test (JLPT) N2 or above.

③ Period of the Program

From October 1, 2015 to September 30, 2016*

*Students are expected to attend a closing ceremony held in early September.

④ The Contents of the Program

Our program is primarily catered for students who have already mastered the basics of the Japanese language. The program begins with an orientation session and offers a weekly class, both of which are exclusive to the “Japanese Studies Students” (aka *Nikkensei*). The weekly class is called the *Nikkensei* class. Meetings with academic advisers are also offered on a regular basis, all of which are designed to help *Nikkensei* students achieve their specific learning goals within a given period. For other classes, *Nikkensei* and other foreign students together will take classes offered for the international students, which aims at providing opportunities to make new friends. Moreover, *Nikkensei* students at Ochanomizu University are, if they wish, allowed to attend regular lectures offered to Japanese students.

In the weekly *Nikkensei* classes, all *Nikkensei* students will explore a topic of their own interest and will have the chance to enhance their academic Japanese skills. They will develop a better understanding of their topic of choice by writing their final papers.

Our program offers students a chance to choose between the Japanese language and Japanese culture as their main subjects. However, since our program offers only the basics of these subjects, students who are willing to learn more in-depth about Japanese culture will be allowed to take regular classes with Japanese students as well.

The Global Education Center will assist *Nikkensei* students with their special needs and also encourage them to study with Japanese students. Some courses are cross-listed for international and Japanese students. Upon completing the program, *Nikkensei* students are expected to have some experiences in studying with Japanese students in the same classroom.

All of the academic advisers in our *Nikkensei* program also teach classes at the graduate program, “Teaching Japanese as a Second Language (*Nihongo Kyoiku*)”, and offer courses in the undergraduate program as well. Students who are interested in this area of expertise can receive guidance from the specialists.

⑤ Course requirements

1) Special Subjects for International Students

• Japanese Language: IA/B – VA/B

(5 courses per semester, 1 course/30 hours)

Students will develop their overall Japanese language proficiency.

• Japanese Culture: IA/B – VA/B

(5 courses per semester, 1 course/30 hours)

Students will learn the history, society and culture of Japan.

In addition, international students will also have the chance to take “Tokusetsu” or supplementary Japanese Language Courses.

As stated earlier, the weekly *Nikkensei* classes are offered to develop basic academic skills in Japanese. This class is mandatory, as it is specifically designed to help students write their final papers.

2) Regular Classes for Japanese Students

As a general rule, *Nikkensei* students are required to take subjects made exclusively for international students in the first semester (from October to March), and will be allowed to start taking classes of their own majors with Japanese students in the second semester (from April to September).

3) The Final Paper

Nikkensei students are required to submit a final paper at the end of the second semester to demonstrate their mastery of the program. Academic advisers will individually supervise each student.

⑥ Academic Advisers

Faculty members in the Graduate School of Humanities and Sciences/Global Education Center will individually guide the students through the program.

Professor, Shin MORIYAMA

(Teaching Japanese as a Second Language)

Assistant Professor, Tomomi NISHIKAWA

(Second Language Acquisition, Bilingualism)

*Assistant Professor, Naomi KANO

(Academic writing and literacy education, Bilingual Education)

*Program Coordinator. The parentheses denote areas of specialization of each faculty member.

⑦ Trips and Events for International Students

We offer a variety of programs, such as International Night, International Exchange Study Trip, KABUKI (A traditional form of Japanese theater), SADO class (Traditional Tea Ceremony), Ikebana class (Traditional Flower Arrangement), KITSUKE class (How to wear Kimono).



International Night



International Exchange Study Trip

⑧ Certification

Nikkensei students are required to submit their final papers and attend at least 8 classes per semester to complete this year-long program. They will receive a certificate upon completion of the program.

⑨ Credit Certification

Classes taken in this program can be certified as credits based on the evaluations of exams (including essays, theses, etc.)

■ Housing:

The Ochanomizu University International House in Itabashi-ku, Tokyo.

Construction: reinforced concrete, five stories (private rooms)

Meals: not provided

Rent fee: 4,700 yen a month

Public utility charges: approx 8,000 yen

Japanese undergraduate students and international students will stay here.



International Student House

• Number of Japanese Studies Program students:

FY2014: 9

FY2013: 13

FY2012: 9

(Note) Rooms are for single use. Students who wish to live with their families should find accommodations by themselves.

■ *Nikkensei* Experiences and Beyond

Several *Nikkensei* students have been accepted by Ochanomizu University as graduate students after completing the *Nikkensei* Program at our university. Through private consultation, the faculty and program staff will continue to support former *Nikkensei* students who wish to pursue their academic interest as graduate students at Ochanomizu University.

■ Contact:

International Affairs Division

Ochanomizu University

Address: 2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo

112-8610 Japan

Phone: +81-3-5978-5143

Fax: +81-3-5978-5951

E-mail: ryugai@cc.ocha.ac.jp

websites

• University:

<http://www.ocha.ac.jp/>

• International Affairs:

<http://www.ocha.ac.jp/intl/index.html>

• Global Education Center:

<http://www.ocha.ac.jp/intl/center.html>



東京外国語大学 (東京都)



多言語・多文化キャンパスと充実した日本語教育

■大学紹介

①大学の特色および概要

1) 特色と歴史：東京外国語大学は、世界諸地域の言語・文化・社会及び国際関係を専門とする大学として、日本の多くの大学の中で独自の地位を確立している。

外国語学部、言語文化学部、国際社会学部、大学院総合国際学研究所（博士前期・後期課程）、留学生日本語教育センター、アジア・アフリカ言語文化研究所において、世界のほぼすべての地域にわたる言語学、語学、文学、歴史学、哲学・思想、文化人類学、社会学、政治学、経済学と幅広い分野の教育・研究が行われている。日本および日本語も、対象となる地域・言語の一つである。

本学の直接の前身である東京外国語学校（明治32年(1899)創立）もまた、海外に活躍する多くの人材を養成し、異文化の受容と外国語教育の向上・普及に大きく貢献してきた。その源は安政年間の「蕃書調所」まで遡ることができる。

戦後「東京外国語大学」として新たに発足して以来、本学は「世界の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して世界の諸地域に関する理解を深めることを目的とする。」の理念のもとに、国際社会の第一線で活躍する多数の有能な卒業生を社会に送り出している。

2) 教員・学生数等（2014年5月1日現在）

学生数 外国語学部 1,450名
言語文化学部 1,188名
国際社会学部 1,174名
大学院博士前期課程 301名
大学院博士後期課程 229名
教員数 258名

②国際交流の実績

本学の学生を世界に送り出すとともに、世界諸地域からの留学生を積極的に受け入れている。

・交流協定締結状況（2014年10月1日現在）

55か国・1地域／142機関

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

1980年に日本で最初に日研究生を受け入れた実績を持つ。

2013年：留学生数 524人、日本語・日本文化研修留学生 23人

2012年：留学生数 517人、日本語・日本文化研修留学生 22人

2011年：留学生数 487人、日本語・日本文化研修留学生 24人

④地域の特徴

東京の西部の緑豊かな環境にありながら、新宿・渋谷へも電車で40分程度で行ける。

■コースの概要

①コースの特色

「多言語・多文化環境における学び」および「日本語・専門科目の充実」を特色とする。各自の専門と日本語のレベルに合わせて、コース内容が組み立てられる。「日本語」と「日本文化」の両コースを提供する。「日本語」では現代日本語意味論、日本語生成文法、対照言語学、第二言語習得研究等の科目を、「日本文化」ではマンガ文化論、現代日本社会文化論、異文化コミュニケーションから日本を考える等の科目を履修出来る。

②受入定員

24名（大使館推薦17名、大学推薦7名）

③受講希望者の資格、条件等

日本での1年間の勉学・研修に支障のない日本語運用力を持つこと。

日本語・日本文化にかかわる興味のあるテーマを定め、1年間の研修修了時にオリジナリティの高いレポートを執筆する意欲を持つこと。

④達成目標

入学時にプレイスされた日本語レベルより1段上のレベルを修了し、質の高い修了レポートを執筆する。

⑤研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年9月30日

修了式は9月を予定（2016年は9月）

⑥研修科目の概要

授業は、前期・後期各15週開講される。10月からを秋学期、4月からを春学期と称する。日本語レベルに応じて「全学日本語プログラム」（全8レベル）で日本語を履修する。また、日研究生プログラム独自の開講科目である「専門科目」を履修し、日本語・日本文化の研修に努める。修了要件は、各自の専門に応じて、1年間の研修の成果をレポートにまとめ、研究発表会にて口頭発表を行うこと。

1) 必修科目

・日本語：400～700レベルは総合日本語（日本語レベルにより週当たりの授業数が2～5と異なる）、および文章表現30時間。

・専門科目：

1. 日本語・日本文化研究Ⅰ、Ⅱ各30時間を、秋学期、春学期に継続履修
2. 日本語学・言語学(概論)、日本語・日本語教育(概論)、日本語・日本文化(概論)、日本文化(概論)各30時間 全8科目から3科目を、各自の専門に応じて秋学期に選択履修
3. 日本語・日本文化(特論)各30時間全10科目から春学期・秋学期ともに2科目以上履修

2) 見学・地域交流等の参加型科目

博物館見学、公立小学校・中学校訪問等の校外実習を随時実施する。

3) その他の講義、選択科目等

・日本語：技能別日本語(次項参照)
・専門科目：上記1)～2)の春学期開講科目
・日本語力が高い(全学日本語プログラム600レベル以上)日研究生は学部開講の授業科目も受講可能

授業科目				時間数		
				秋学期	春学期	計
全学日本語プログラム	日本語中級 400	中級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章	30	30	60
			口頭	30	30	60
	日本語中上級 500	中上級総合日本語		150	150	300
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解	30	30	60
			文章	30	30	60
			口頭	30	30	60
	日本語上級1 600	上級1総合日本語		90	90	180
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解・時事	30	30	60
			文章	30	30	60
			口頭	30	30	60
	日本語上級2 700	上級2総合日本語		60	60	120
		技能別日本語	文法	30	30	60
			読解	30	30	60
			聴解・時事	30	30	60
			文章	30	30	60
			口頭	30	30	60
	日本語超級 800	技能別日本語	ドラマ	30	30	60
			時事	30	30	60
			ビジネス	30	30	60

⑦年間行事

12月 日本文化交流会（囲碁・将棋、生け花、着物、茶道等の体験）
 2月 校外実地研修（過去の例：池坊お茶の水学院で生け花実習、ジブリ美術館、国立博物館・国立科学博物館・下町風俗資料館ツアー、等）
 7月 研究発表会

⑧指導体制

1) プログラム実施委員： 菅長理恵（准教授）、鈴木美加（准教授）、宮城徹（教授）

2) 指導体制： 日研究生は外国語学部所属。指導教員（コースアドバイザー）および修了レポートのテーマ別指導教員による個別指導を実施、チューター制度あり。

⑨コースの修了要件

所定の科目を履修した上で、修了レポート・エッセイを提出し、口頭発表を行うこと。修了要件を満たしたものに修了証書を授与する。単位取得可能。成績証明書に基づく単位互換については出身大学の判断による。

■宿 舎

本学敷地内に国際交流会館を設置しているが、必ずしも入居できるとは限らない。

・過去3年間の日研究生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

2014年度 本学国際交流会館24名

2013年度 本学国際交流会館23名

2012年度 本学国際交流会館21名、民間アパート1名

■修了生へのフォローアップ

修了生データベースを現在構築中である。修了生は卒業後、就職・大学院進学が主である。大学院進学のために再来日する日研究生も多い。

■問合せ先

(担当部署)

東京外国語大学留学生課

住所 〒183-8534
東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学留学生課

Tel : +81-42-330-5184(直通)
Fax : +81-42-330-5189
E-mail : ryugakuseika@tufs.ac.jp

留学生日本語教育センターのホームページアドレス
<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc>

東京外国語大学のホームページアドレス
<http://www.tufs.ac.jp>

日研究生



京都・奈良見学旅行の様子

スキー講習会の様子





Tokyo University of Foreign Studies (Tokyo)



Multi-lingual and Multi-cultural Campus & Japanese Language Education

■ University Introduction

① Features and Overview

1) History and Identity

As an established institution specializing in international relations, world languages, culture, and society, Tokyo University of Foreign Studies is unique among many universities in Japan.

The Faculty of Foreign Studies, the School of Language and Culture Studies, the School of International and Area Studies, the Graduate School of Global Studies (Master's and Doctoral Programs), the Japanese Language Center for International Students, and the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA) work hand in hand to realize a vast area of research specialization in a variety of fields including linguistics, languages, literature, history, philosophy, cultural anthropology, sociology, politics, and economics covering most parts of the world.

Tokyo School of Foreign Studies (established in 1899) is the University's direct predecessor. As a school of excellence, it had contributed in the training of many professionals who played an active role abroad and at the same time were the key players in the development of cross-cultural exchange and foreign language education in Japan. The university can even trace its roots back to the Ansei Era (1854-59)'s "Bansho-Shirabesho" or the branch of the government during the Edo Period, which dealt with Western learning and translation of diplomatic documents.

Undergoing new developments after World War II, the university's main goal has been to deepen understanding of foreign cultures, to offer a high level of training for international activities, and to teach both theory and practical research based on specialized knowledge of foreign languages and cultures.

Living up to its main educational philosophy, Tokyo University of Foreign Studies continues to produce highly qualified graduates with the abilities and skills necessary to be at the frontline of activities of the global community.

2) Number of Faculty Members and Students (as of May 1, 2014):

- Students	
Faculty of Foreign Studies	1,450
School of Language and Culture Studies	1,188
School of International and Area Studies	1,174
Master's Program	301
Doctoral Program	229
- Faculty Members	258

② International Exchange Accomplishments

TUFS sends its students to universities and institutions located all over the world, and also actively receives international students.

On-going exchange programs (as of Oct 1, 2014) counts 142 universities and institutions from 55 countries and 1 regions.

③ Number of Admission to Japanese Studies Students Program and In-bound International Students in Past Three Years

In 1980, TUFS became the first university in Japan to admit students to Japanese Studies Students Program.

-AY2013: 23 admitted to the program among 524 in-bound int'l students
-AY2012: 22 admitted to the program among 517 in-bound int'l students
-AY2011: 24 admitted to the program among 487 in-bound int'l students

④ Location

TUFS is located in the green western part of Tokyo and has 40-minute access to Shibuya or Shinjuku by train.

■ Program Outline

① Characteristics

The program is characterized by intensive learning of the Japanese language and culture as well as by the multilingual and multicultural environment in which students learn. Students take courses based on their specialization and level of proficiency in Japanese. Both the Japanese Language Course and the Japanese Culture Course are offered. For the Japanese Language Course, students may take Modern Japanese Semantics, Japanese Generative Grammar, Contrastive Linguistics, Second Language Acquisition, etc. For the Japanese Culture Course, they may take Manga Culture Theory, Socio-Cultural Studies of Contemporary Japan, Selected Topics on Japan and Intercultural Communication, etc.

② Max Number of Acceptable Students: 24

(17 by the Japanese embassy recommendation and 7 by the university recommendation)

③ Qualifications & Conditions for the Participants:

Applicants must have sufficient proficiency in the Japanese language to study and do research. They are also required to have the ability and desire to write an original paper on Japanese language or culture.

④ The Final Objective: Students are required to complete and pass the Japanese language course that is one rank above the originally placed level and write an original paper/essay.

⑤ Course period: October 2015 – September 2016

The program completion ceremony for AY2016 is scheduled in September.

⑥Course Outline: Classes will be given for 15 weeks in each semester. Fall Semester will start in October and Spring Semester will start in April. “The Japanese Language Program of TUFS” offers up to 8 courses of Japanese language classes to international students according to their level. Students will take “Major Subjects” which are specially prepared for Japanese Studies Students. They are going to learn Japanese language and Japanese culture. Students are required to write a research paper on their major and make a presentation to complete the course.

1)Mandatory Subjects

– Japanese Language:

Students with Japanese level 400 to 700 will take “Integrated Japanese*” and 30hrs of “Japanese Writing”.

*Number of classes per week ranges from 2 to 5 depending on their language ability.

– Major Subjects:

1. “Research on Japanese Language and Culture” I and II (30 hrs. each in both semesters)
- 2.“Introduction to Japanese linguistics”, “Introduction to Japanese–Language Education”, “Introduction to Japanese Language and Culture”, and “Introduction to Japanese Culture” (30hrs each. Student must take 3 subjects out of 8 subjects on their major in Fall semester).
- 3.“Special Lecture on Japanese Language and Culture” (30hrs each). Student must take more than 2 subjects out of 10 subjects in each semester.

2)Participatory Learning

Off campus learning program such as a field trip to a museum and/or visiting local elementary and middle schools will be scheduled as needed.

3)Lectures, Optional Subjects, etc.

- Japanese Language: “Skill-Specific Japanese” (see the table on right)
- Major Subject: Subjects of Spring Semester (see above 1) –2.)
- Students who have decent Japanese language skills (level 600 or above) are able to attend classes for undergraduate students.

⑦Events:

December: Japan Culture Exchange Event

(Igo/Shogi, Ikebana, Kimono, Tea ceremony, etc.)

February: Field trip (Past trips: Ikebana at Ikenobo Ochanomizu Institute, Ghibli Museum and national museums in Ueno)

July: Oral presentation

⑧Steering committee

- 1) Program Committee Members: Suganaga Rie (Associate Professor), Suzuki Mika (Associate Professor), and Miyagi Tsutomu (Professor)

2) Advisory System

Japanese Studies Students are affiliated to the Faculty of Foreign Studies. They will receive individual supervising from their Course Advisors and Subject Advisors for the course-completion report. Tutoring is also available.

【Actual number of class subjects and class hours】 JLP conducted in 2014

Class Subjects				hours		
				Fall Semester	Spring Semester	Total
Japanese Language Program	Intermediate Japanese 400	Intermediate Comprehensive Japanese		150	150	300
		Skill-specific Japanese	Grammar	30	30	60
			Reading	30	30	60
			Listening	30	30	60
			Writing	30	30	60
			Oral	30	30	60
	Upper Intermediate Japanese 500	Upper Intermediate Comprehensive Japanese		150	150	300
		Skill-specific Japanese	Grammar	30	30	60
			Reading	30	30	60
			Listening	30	30	60
			Writing	30	30	60
			Oral	30	30	60
	Advanced 1 Japanese 600	Advanced 1 Comprehensive Japanese		90	90	180
		Skill-specific Japanese	Grammar	30	30	60
			Reading	30	30	60
			Listening/Current events	30	30	60
			Writing	30	30	60
			Oral	30	30	60
	Advanced 2 Japanese 700	Advanced 2 Comprehensive Japanese		60	60	120
		Skill-specific Japanese	Grammar	30	30	60
			Reading	30	30	60
			Listening/Current events	30	30	60
			Writing	30	30	60
			Oral	30	30	60
	Highly Advanced Japanese 800	Skill-specific Japanese	Drama	30	30	60
			Current events	30	30	60
			Business	30	30	60

⑨Requirement for course completion and issuance of completion certificate:

In addition to completing all their course requirements, students must write a course-completion research paper or essay, and make an oral presentation of its content. Students who have completed all of these requirements will receive a course completion certificate. Unit certification and transfers are determined by the university in which the students are enrolled in their home countries.

■ Dormitories

Although the university has International Residence for international students on campus, not everyone may be housed there.

• Japanese Studies Student resident numbers in the past three years (as of every October):

AY2014: 24 on-campus residents

AY2013: 23 on-campus residents

AY2012: 21 on-campus residents and 1 private apartment resident

■ Post-Program Follow-up

A database for the alumni is now being compiled. Many students who completed the program at TUFS come back to Japan to study at the graduate school.

■ Inquiries contact:

Student Exchange Division
Tokyo University of Foreign Studies
3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo JAPAN
Postal code: 183-8534
Tel: +81-42-330-5184
Fax: +81-42-330-5189
E-mail: ryugakuseika@tufs.ac.jp

Japanese Language Center for International Students web:
<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc>

TUFS web: <http://www.tufs.ac.jp>

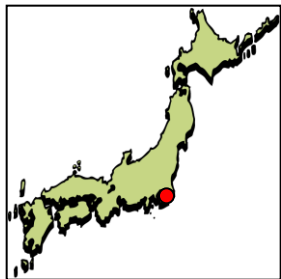
2014 Japanese Studies students



Presentation



Japanese cultural experience



東京学芸大学 (東京都)



留学生対象の授業のほか、教育学、人文・社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの科目が受講でき、附属学校との交流授業、伝統芸能のワークショップなどを通して、日本の社会や文化を学ぶことができます。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

東京学芸大学は、新宿から電車で30分ほどの東京都小金井市に位置しています。東京でありながら、緑豊かで静かな環境です。

東京学芸大学は1949年に4つの師範学校を統合して誕生し、全国の教育界に多くの人材を送り出してきました。

1988年、教員養成課程に加えて、新たに教養課程を設置し、教育以外の分野でも社会に貢献する幅広い人材の育成に努めています。

1996年、教科教育学を中心とする教育研究者養成を目的とした大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置しました。

1998年、留学生に対する予備教育を含めた日本語・日本理解教育、修学上・生活上の指導・助言、日本語・日本文化研修留学生や教員研修留学生の研修プログラムなどの業務を行うため、留学生センターを設置しました。

② 国際交流の実績

(2014年10月1日現在)

海外の大学との協定： 55校

留学生数： 299名

(うち、日本語・日本文化研修留学生21名)

海外の協定校で学んでいる本学学生数：46名

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生数299人、日本語・日本文化研修留学生21人

2013年：留学生数315人、日本語・日本文化研修留学生21人

2012年：留学生数326人、日本語・日本文化研修留学生19人

④ 地域の特徴

小金井市は1958年10月に、東京都で10番目の市として誕生しました。都心から25Kmという位置にあり、人口10万あまりの緑ゆたかで快適な生活のできる町です。



国立劇場にて

■コースの概要

① コースの特色

(1) 日本語

日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めます。

(2) 日本理解

日本研究科目等を受講し、日本の文化・社会に対する理解を深めます。

(3) 専門研究

研修生の希望、個人研究テーマ、日本語能力等を考慮して指導教員が認めた専門科目（一般学生対象授業）を受講します。

(4) 文化交流

本学の学生や地域住民との交流を深め、地域の文化活動など交流の場に積極的に参加します。たとえば、附属小学校との交流、伝統芸能のワークショップなどを行っています。

(5) 個人研究

指導教員のもとで自分の研究テーマについて研究し、その成果を、研修修了時までレポートにまとめます。

② 受入定員

25名（大使館推薦15名、大学推薦10名）

③ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験N2相当以上の能力があることが望ましいです。

④ 達成目標

日本語を使用して、専門分野の資料を読んだり、レポートを書いたり、発表をしたりすることができるようになることが達成目標です。また、日本の文化について広く理解することも目標としています。

⑤ 研修期間

2015年10月1日 ～ 2016年8月31日

第1学期 10月1日～3月31日

第2学期 4月1日～8月31日

修了式は8月を予定

⑥ 研修科目の概要

1) 必須科目

日研生特別演習Ⅰ（必修）・・・15週 30時間
日研生特別演習Ⅱ（必修）・・・15週 30時間

2) 見学、地域交流等の参加型科目

日研生特別演習Ⅰ（必修）・・・15週 30時間

3) その他の講義、選択科目等

・日本語科目・・・各科目15週 30時間
日本語（会話・講読・作文・文法・漢字・発音など）
日本語特別演習（マンガで学ぶ日本語・時事日本語・ビジネス日本語・小説・プロジェクトなど）

・日本理解科目（選択必修）・・・各科目15週 30時間
日本研究A～D
日本研究演習A～D
多文化共修科目A～F

・専門科目



附属小学校における交流

⑦ 年間行事の例

全学留学生対象のものも含め、教室での一般授業のほかに以下のような行事があります。

第1学期（秋学期：10月～2月）

防災館訪問
江戸東京たてもの園見学
附属小学校との交流授業（3回）
バス旅行
文楽鑑賞教室
大相撲観戦
日本文化体験
ジャパンセミナー（1～2回）

第2学期（春学期：4月～8月）

伝統文化ワークショップ（1～2回）
工場見学（1～2回）
ジャパンセミナー（1～2回）



⑧ 指導体制

日研究生は、留学生センターの所属となります。
留学生センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導をします。

⑨ コースの修了要件、修了証書の発行

研修を終え、その成果を指導教員が認めた留学生については、修了証書を授与します。

■宿 舎

入居する宿舎については、本学で割り当てを行います。渡日時に入居できる宿舎はすべて単身室です。家族連れでの留学の場合は民間アパートを探してください。

○宿舎数

国際交流会館：単身室48室
東久留米国際学生宿舎：単身室46室
一橋大学国際学生宿舎：単身室72室

○宿舎費・設備・通学時間等

国際交流会館単身室：5,900円
通学時間：徒歩10分
東久留米国際学生宿舎単身室：4,700円
通学時間：西武線約1時間
一橋大学国際学生宿舎：5,900円
通学時間：西武線約30分

* 上記金額には光熱水費等は含まれません。

○宿舎の設備・備品

ベッド、机、椅子など

■修了生へのフォローアップ

フォローアップの実績

修了生が国費研究生としての留学などを希望する場合、日研究生担当教員や元指導教員など留学生センター教員が相談に応じています。2014年度も2名の元日研究生が国費研究留学生として本学に入学しています。

また、中国（北京）、韓国（ソウル）、タイ（バンコク）にて、修了生同窓会を開催しました。



風呂敷ワークショップ

■問い合わせ先

担当課：東京学芸大学国際課総括・留学生支援係
住 所：〒184-8501

東京都 小金井市 貫井北町 4-1-1

TEL: +81-42-329-7763

FAX: +81-42-329-7765

E-mail: ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

教員E-mail: yabe@u-gakugei.ac.jp

東京学芸大学留学生センター(GISEC) ホームページ

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec>

東京学芸大学ホームページ

<http://www.u-gakugei.ac.jp>

東京学芸大学日研究生ホームページ

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec/program01/index.html>



東京学芸大学 (東京都)



Tokyo Gakugei University (TGU) offers a number of subjects available for Japanese Studies Students (Nikkensei). These include courses designed for international students, as well as other specialized subjects ranging from education, humanities, social science, natural science, arts, and physical education. Students will also be able to learn Japanese society and culture through various off-campus activities such as visiting affiliated schools and attending cultural events.

■ University Overview

① Characteristics and history

TGU is located in Koganei-shi, 30 minutes by train from Shinjuku. Although the university is in Tokyo, it has an environment of lush greenery.

TGU is a university of education established in 1949 unifying four normal schools. It has produced many able educators nationwide.

In 1988, in addition to the teacher training courses new liberal art courses were added in an attempt to educate a wider range of students who wish to contribute to society outside the field of education.

In 1996, the united graduate school of education (doctoral course) was started to produce researchers centering on school education.

International Student Exchange Center was established in 1998 to offer Japanese language and culture education including preparatory language program, guidance on both daily and academic life in Japan, as well as Japan Studies Program and Teacher Training Program.

② International Exchanges

(as of Oct. 1, 2014)

Number of Institutions with exchange agreement: 55

Number of International Students: 299

(including 21 Japanese Studies Students)

Number of regular students studying at sister universities abroad: 46

③ Record of the number of International students and Japanese Studies Students (Nikkensei) accepted in the past three years

2014: International Students 299, Nikkensei 21

2013: International Students 315, Nikkensei 21

2012: International Students 326, Nikkensei 19

④ Surroundings of the University

Koganei-shi was founded in 1958 as the tenth city in Tokyo.

The city is located at 25-kilometer distance from the center of Tokyo with a population of about 100,000. Koganei-shi is a beautiful, comfortable city to live in.



At National Theatre

■ Outline of the Program

① Features of the course

(1) Japanese Language

To improve Japanese language ability, students are expected to attend Japanese language classes.

(2) Japanese Culture/Society

For deeper understanding of Japanese Culture and Society, students must complete a certain number of courses titled "Japan Studies" and other courses conducted primarily in Japanese.

(3) Specialized Subject

Students with highly advanced Japanese language skills are allowed to take university's regular undergraduate classes of which contents are focused on Japanese cultural and social matters.

(4) Cultural Exchange

Students are expected to participate in various cultural exchange activities at TGU and events of local communities. For the purpose, TGU organizes many events, such as cultural exchange programs at affiliated primary schools of TGU and workshops of traditional performing arts of Japan.

(5) Individual Research Paper

By the time of completing the program, the students write a report of their individual study at TGU with the guidance of their academic adviser.

② Number of Students to be Accepted: 25

Embassy recommendation 15

University recommendation 10

③ Qualifications of Applicants

The applicants are expected to be capable of passing Japanese Language Proficiency Test, N2 or higher.

④ Goal and Objectives

Goal and objectives are that you can read the article in specialized field, write a report, and make a presentation using Japanese.

In addition, we also aim to develop broad understanding of Japanese culture.

⑤ Period

From October 1, 2015 to August 31, 2016

1st Semester October 1 – March 31

2nd Semester April 1 – August 31

Closing ceremony is scheduled in August.

⑥ Summary of Training Subjects

1) Compulsory Subject

Nikkensei Tokubetsu Enshû I (Compulsory)

.....15 weeks 30 hours

Nikkensei Tokubetsu Enshû II (Compulsory)

.....15 weeks 30 hours

2) Participatory Subject

Nikkensei Tokubetsu Enshû I (Compulsory)

.....15 weeks 30 hours

3) Other Subjects

Japanese 15 weeks, 30 hours for each subject

Japanese (Conversation, Reading, Composition, Grammar, Kanji, Pronunciation, etc.)

Japanese Special Subjects (Manga, Current Japanese, Novels, Business Japanese, Project, etc.)

Japanese Culture (Compulsory choice)

..... 15 weeks, 30 hours for each subject

Japan Studies A-D

Seminar in Japan Studies A-D

Coeducation for cross-cultural understanding A-F

Other specialized subjects



Cultural exchange at affiliated primary school

⑦ Examples of events

1st Semester (Autumn Semester: October–February)

Visiting Life Safety Learning Center

Visiting Edo–Tokyo Open Air Architectural

Museum

Cultural exchanges at affiliated primary school

Bus trip

Visiting Bunraku puppet theatre

Watching sumô bouts

Workshops of traditional culture of Japan

Japan seminars

2nd Semester (Spring Semester: April–August)

Workshops of traditional culture of Japan

Excursions to factories

Japan seminars



⑧ System for guidance

Japanese studies students (Nikkensei) are affiliated with International Student Exchange Center. Teaching staff affiliated with the International Student Exchange Center as an academic advisor will offer guidance for registration and research.

⑨ Certificate of Completion and Academic Records

When completing all requirements for the program is approved, students will receive a completion signed by the university president.

■ Accommodations

- 1) International House (48 single rooms)
- 2) Higashi-Kurume International Student Dormitory (46 single rooms)
- 3) Hitotsubashi University International Student House for four national universities in western Tokyo (72 single rooms)

● Admission to university dormitories

October 2014:

Higashi-Kurume International Dormitory
(21 students)

■ Follow-up of Students who have completed the courses

Results of follow-up

If students who have completed the courses wish to study as a Japanese Government Scholarship Research Student, teaching staff belonging the International Student Exchange Center such as a teaching staff in charge of Nikkensei and former academic advisors conduct a consultation.

In 2014, two former Nikkensei entered TGU as Japanese Government Scholarship research students.

In addition, alumni reunion was held in China (Beijing), Korea (Seoul) and Thailand (Bangkok).



Furoshiki workshop

■ Contact Office

International Students Unit

ADDRESS:

International Division
Tokyo Gakugei University
4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo
184-8501 JAPAN

TEL: +81-42-329-7763

FAX: +81-42-329-7765

E-mail: ryuugaku@u-gakugei.ac.jp

TGU Int'l Student Exchange Center (GISEC) Website

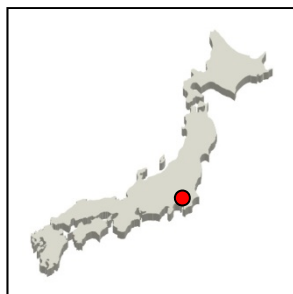
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec>

TGU Website

<http://www.u-gakugei.ac.jp>

TGU Nikkensei Website

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~gisec/program01/index.html>



一橋大学 (東京都)



日本語・日本文化はもちろん、学部ゼミナールで専門的に学べます。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

長い歴史と伝統を誇る（1875年創立）、日本で最も古い『人文社会科学の総合大学』です。伝統的な学問領域の研究だけでなく、新しい研究領域の開拓に取り組む教授陣を擁しています。また、自然環境に恵まれた美しいキャンパスを有しています。

学生数（2014年5月現在）

商学部	1,308名
経済学部	1,255名
法学部	807名
社会学部	1,086名
学部生合計	4,456名

商学研究科	314名
経済学研究科	241名
法学研究科	284名
社会学研究科	422名
言語社会研究科	250名
国際企業戦略研究科	294名
国際・公共政策教育部	121名
大学院生合計	1,926名

② 国際交流の実績

大学間交流協定数： 72（学術交流協定）
51（学生交流協定）※2014年5月現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年：留学生 727人、日本語・日本文化研修留学生 15人
2013年：留学生 689人、日本語・日本文化研修留学生 15人
2012年：留学生 677人、日本語・日本文化研修留学生 12人

④ 地域の特色

国立市（くにたちし）はヨーロッパの学園都市をモデルにしており、本学をはじめとして多くの学園が集まる美しい町です。

■コースの概要

① コースの特色

1. 希望者は、正規課程向けの学部ゼミナールに参加できます。
2. 日本または日系企業に就職するための準備として、キャリア支援室のサービスを受けられます。また、インターンシップに参加する機会もあります。
3. 茶道、華道、着物などの日本文化体験授業に参加できます。

4. 留学生研修旅行に参加することができます。

5. 単位認定

全学共通教育科目・学部教育科目・国際交流科目の場合、各科目の合格要件を満たせば単位が認定されます。
成績はA～D（合格）、又はF（不合格）で評価されます。

② 受入定員

15名（大使館推薦10名、大学推薦5名）



図書館前にて

③ 受講希望者の資格、条件等

日本語力上級レベルで、大学学部3・4年次に在籍する学生を対象とします（日本語能力試験1級（N1）レベル相当以上）。

社会科学の基礎知識を持つ留学生にとって、日本語・日本文化だけでなく、幅広い知識が修得できるプログラムです。

④ 達成目標

15,000字程度の修了レポートを執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行うこと。

⑤ 研修期間

2015年9月28日 ～ 2016年9月末

⑥ 研修科目の概要

1. Special Seminar on Japanese Language and Culture（日研生ゼミナール）（必修）

2. 日本語（選択、レベル別）

3. 全学共通教育科目、学部教育科目、国際交流科目（選択）

4. 学部ゼミナール（選択）

※注：

1. は主に日研生を対象とした授業。

2. 3. 4. は正規課程の学生とともに受講する授業。

シラバスはオンラインで公開されています。

<https://mercas.hit-u.ac.jp>

1) 必須科目

Special Seminar on Japanese Language and Culture（日研生ゼミナール）

2) 見学、地域交流等の参加型科目

Explore Japan Seminar、工場・企業等見学

3) その他の講義、選択科目等

一般日本語科目：速読、学術文章表現、学術口頭表現、近代文語文講読等

専門日本語科目：経済の日本語上級、法の日本語、社会科学の日本語上級

日本事情科目：一般日本事情

全学共通教育科目：日本語研究入門、日本文化論、日本の言語文化、日本近代文学等

学部教育科目：社会と文化、日本社会史総論

国際交流科目：Japanese Corporate Management, Contemporary Japanese Society, Japanese Art, History of Modern Japan, etc.

⑦ 年間行事

10月 ウェルカムパーティー

2、8月 日本探訪旅行

9月 修了レポート発表会



参加型授業科目



兼松講堂前にて

⑧ 指導体制

国際教育センター日本語教育担当教員が責任をもって指導し、また、生活面は国際教育センター留学生相談部門教員が担当します。

なお、学部ゼミナールに所属し専門科目教員の指導を受けることができる場合もあります。

(受け入れ責任者 国際教育センター長)

⑨ コースの修了要件

必修科目合格をコースの修了要件とします。

また、留学期間終了後、受講科目についての成績評価表を、申請にもとづき本人宛てに送付します。



修了式にて

■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は大学宿舎に優先的に入居できます。日本人・留学生と一緒に生活しています。

国際学生宿舎

〒187-0045

東京都小平市学園西町1-29-1

(小平キャンパス内)



■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生データベースに修了者の連絡先等を蓄積し、ネットワーク構築を図っています。

また、コース修了後でも、成績証明書等の発行が可能です。

■問合せ先

(担当部署)

一橋大学学務部国際課 (学生交流係)

住所 〒186-8601 東京都国立市中2-1

TEL +81-42-580-8164 (直通)

FAX +81-42-580-8167

E-mail int-gs.g3@dm.hit-u.ac.jp

一橋大学国際教育センターホームページ

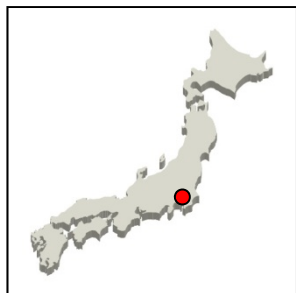
<http://international.hit-u.ac.jp/index.html>

一橋大学ホームページ

<http://www.hit-u.ac.jp/index.html>



日本探訪旅行



HITOTSUBASHI UNIVERSITY (Tokyo)



Enhanced Learning Experience with Seminar-Style Classes and Japanese Language and Culture

■ Overview of the University

① Feature and History

Hitotsubashi University (founded in 1875) is the oldest university in Japan to specialize exclusively in the humanities and social sciences. Hitotsubashi has been at the forefront of Japan's economic and social progress. It has become the country's premier institution for education and research in the social sciences and has always maintained its emphasis on practical learning.

Number of Students (as of May, 2014)

<Undergraduate>	
Commerce and Management	1,308
Economics	1,255
Law	807
Social Sciences	1,086
(Total)	4,456

<Graduate>	
Commerce and Management	314
Economics	241
Law	284
Social Sciences	422
Language and Society	250
International Corporate Strategy	294
International and Public Policy	121
(Total)	1,926

② International Exchange and Cooperation

Number of Agreements: 72(Academic Cooperation)
51(Student Exchange)

③ Number of international students and program participants in the last three years.

2014: Total 727, Program Participants 15
2013: Total 689, Program Participants 15
2012: Total 677, Program Participants 12

④ Location Information

Kunitachi is a beautiful city modeled on the academic cities of Europe, and is also home to many schools aside from Hitotsubashi University.

■ Outline of the Program

① Program Feature

1. Students can participate in a seminar with degree-seeking students
2. The Career Support Office provides services and resources to help you to prepare to work in Japan/Japanese companies. Internship opportunities might be available.
3. Students can participate in Japanese cultural experience classes which offer learning opportunities such as tea ceremony, flower arrangement and Kimono dress-up experience.

4. Students can join the Explore Japan Trip to learn Japanese culture and history.

5. Credit recognition

For general education and undergraduate faculty courses, credits will be recognized if the requirements are met.

Academic performance is graded A to D (passing) and F (failure).

② Enrollment quota

15 (Embassy Recommendation: 10,
University Recommendation: 5)



図書館にて

③ Qualifications and Conditions of Applicants

We accept only 3rd and 4th year undergraduate students and applicants must have an advanced level proficiency in the Japanese language (equivalent to N1[JLPT]).

International students who already possess basic knowledge in the social sciences will find this program more useful in helping them broaden their knowledge in the fields along with the Japanese language and Japanese culture.

④ Goal

To write a study report with around 15,000 characters in Japanese and give a presentation.

⑤ Program Period

28/SEP/2015(TBD) – 30/SEP/2016

⑥ Course Overview

1. Special Seminar on Japanese Language and Culture *(Compulsory)
2. Japanese Language Courses **(Elective)
3. General Education/Undergraduate Faculty Courses/Hitotsubashi University Global Education Program **(Elective)
4. Undergraduate Student Seminar in a selected field **(Optional)

* The course specifically offered to the program participants

** Courses and Classes with other Regular Students of the University

On-line syllabi are available at;

<https://mercas.hit-u.ac.jp>

1) Compulsory Course

Special Seminar on Japanese Language and Culture

2) Courses for Inter-Cultural Understanding;

Explore Japan Seminar (inter-cultural experience class),
Plant and company visit

3) Other Elective Classes

–General Japanese

Speed Reading, Advanced Reading, Writing, Speaking, Grammar, etc.

–Academic Japanese

Reading in Early Modern Japanese,
Japanese in Economics, Law and Social Sciences

–Japanese Affairs

General Information of Japan

–General Education

Introduction to the Study of the Japanese Language,
Japanese Culture, Language and Culture in Japan,
Japanese Modern Literature, etc.

–Undergraduate Faculty Courses

Society and Culture, Japanese Social History

– Hitotsubashi University Global Education Program (HGP)

Japanese Corporate Management,
Contemporary Japanese Society,
Japanese Art,
History of Modern Japan, etc.

⑦ Annual Events

October: Welcome Party

February and August: Explore Japan Trip

September: Final Report Presentation



Seminar on Inter-cultural Experience



In front of the Kanematsu Auditorium

⑧ Teaching and Supporting Staff

Japanese language teachers from the Center for Global Education will be in charge of providing this well-organized program, while teachers from the International Student Advising Office will support them in more general aspects of their life in Hitotsubashi. Members in each faculty can also assist students with enrollment of seminars for undergraduate students.

The Director of the Center for Global Education is in charge of the Program.

⑨ Requirements for Course Completion

Completion requirement is to pass the compulsory course. After the end of the program, academic transcripts will be sent to each program participant upon application.



Completion ceremony

■ Accommodation

Program participants can live in the Residence Hall Ikkyo-Ryo on Kodaira campus. Japanese and International students live together.

Residence Hall Ikkyo-Ryo (Kodaira campus)

1-29-1, Gakuen-Nichi machi, Kodaira, Tokyo, 187-0045



■ Follow-Up for Alumni Students

The International Affairs Office is trying to build a database of graduated students and develop the alumni network.

We can also issue academic transcripts for students who already finished the program and returned to their home countries.

■ Contact

(Prepared)

International Affairs Office,

Hitotsubashi University

Address: 2-1, Naka, Kunitachi, Tokyo, 186-8601

Phone +81 42-580-8164 (direct)

Email int-gs.g3@dm.hit-u.ac.jp

Website:

Center for Global Education

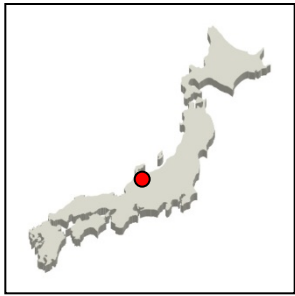
<http://international.hit-u.ac.jp/en/index.html>

Hitotsubashi University

<http://www.hit-u.ac.jp/eng/>



Explore Japan Trip



富山大学 (富山県)



一人ひとりの興味・関心を尊重しながら、日本語・日本文化に関する研修を行う。

- ①基礎的な日本語・日本文化学習の指導を受ける。
- ②日本語・日本文化に関する、より専門性の高い指導(学部 of 専門科目)を日本人の学生と一緒に受ける。
- ③各人のレベルや、①と②のバランスを考え、個別のカリキュラムを編成する。

■大学紹介

①大学の特色や概要など

本学は、2005年10月に富山大学(1949年設立)、富山医科薬科大学(1975年設立)及び高岡短期大学(1983年設立)の3大学が統合された、幅広く豊かな教育・研究施設を有する国立の総合大学である。

2014年5月現在、学生数9,266人、教員数899人である。また、学術交流協定を27か国(アメリカ合衆国、イギリス、エジプト・アラブ共和国、オーストラリア、タイ王国、大韓民国、中華人民共和国、マレーシア、ロシア連邦など)108機関と結び、積極的に留学生を迎え入れており、国際交流センターを中心に受け入れ体制の整備も進んでいる。

学部: 人文学部、人間発達科学部、経済学部、理学部、医学部、薬学部、工学部、芸術文化学部

大学院研究科: 人文科学研究科、人間発達科学研究科、経済学研究科、生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部、芸術文化学研究科

②国際交流の実績(2014年5月現在)

大学間交流協定数: 10か国・地域24機関

③過去3年間の留学生受入数及び日本語・日本文化研修留学生受入れ実績

2012年度 留学生数 330人、日研究生数 3人

2013年度 留学生数 336人、日研究生数 3人

2014年度 留学生数 346人、日研究生数 6人

④富山県の特徴

富山県は、3000m級の北アルプス連峰を望み、日本海に面する自然に恵まれたところである。地理的には日本のほぼ中央に位置し、四季の移り変わりがはっきりしており、冬の雪景色も美しい。世界遺産「五箇山」の集落、全国的に有名な民謡「越中おわら節」など興味深い文化を育む場所でもある。

富山大学のある富山市は県庁所在地であり、人口約42万人をかかえる近代的な都市である。2015年3月、北陸新幹線開業により、東京へは約2時間で移動が可能となる。また、市内には富山空港(東京まで約1時間)がある。水と空気と海産物がおしく、文化的施設の整っている便利などところとして、全国的に住みやすい街の最上位にあげられている。



富山大学 (五福キャンパス)

■コースの概要

①コースの特色

留学生を対象とした日本語・日本文化に関する授業科目と、人文学部、人間発達科学部、経済学部で開講されている幅広い日本語・日本文化に関する専門科目の中から、各自の興味とレベルにあわせて授業科目を履修する。それと同時に、指導教員(人文学部又は人間発達科学部)

からの個人指導を随時受ける。個人指導の中で各々に研究課題を定め、修了レポートにまとめる。

②受入定員

大使館推薦5人・大学推薦5人
(人文学部 5人、人間発達科学部5人)*各学部 to 所属する。

③受験希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、以下の要件を満たす者とする。

(学歴)

渡日及び帰国時点で外国(日本国以外)の大学の学部 in 在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者 (日本語能力)

国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N2(2級)相当以上の日本語能力を有することが望ましい。

④達成目標

- ・各自が立てたカリキュラムを履修し、研究計画を進め、日本語で修了レポートを完成させる。
- ・国際交流基金及び日本国際教育支援協会による日本語能力試験N1(1級)相当の日本語能力を身につける。

⑤研修期間

2015年10月 ~ 2016年9月*補講などにより8月に修了も可

⑥研修科目の概要

1) 必須科目

本大学の日研究生プログラムは、各々のレベルに沿ったカリキュラムを履修することになっているので、必須科目は設けていない。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

なし。(ただし、見学、地域交流等は後述の年間行事で体験することができる。)

3) その他の講義、選択科目等

[a] 日本語・日本文化に関する授業科目

科目名	授業時間数		授業内容
	秋	春	
日本語B	60	60	総合的な日本語力を養う。アンケート調査等の活動を元にした口頭発表練習も行う。
日本事情Ⅰ	30		日本の芸術、伝統文化をテーマに日本や富山の文化を学ぶ。
日本事情Ⅱ		30	日本の自然、産業等をテーマに日本や富山の文化を学ぶ。
異文化理解	30		自文化と比較しながら、異文化コミュニケーションを学ぶ。

総合日本語コース

科目名	授業時間数		授業内容
	秋	春	
読 解	60	60	記事、エッセイ、報告書などを読み、読解力を高める。2つのクラスを用意している。
文 法	30	30	中上級の文法・表現力を、実践的な演習を通して身につける。
作 文	30	30	コンピュータを使い、レポートを作成する力を養う。

聴 解	30	30	ニュースやテレビ番組等を用い、聴解の練習を行う。
会 話	30	30	ロールプレイでの会話練習の他に、発表練習も行う。
漢 字	30	30	各自のレベルにあわせて漢字を学ぶ。
表現技術	30	30	フォーマルな表現を用いて話す、書く力を養う。
日本文化	30	30	様々なメディアを用いて、現代日本社会を分析的に観察する力を養う。

[b] 専門科目（一般学生用）

各学部で開講される幅広い専門科目より授業科目を選択する。以下に各学部の日本語・日本文化に関連する科目のある専門分野を紹介する。

<人文学部>

日本語・日本文化に関する分野；
人間学、言語学、日本語教育学、日本史、文化人類学、国際関係論、国際文化論、日本語学、日本文学など
(*詳しくは人文学部HP参照 富山大学HP>人文学部)

<人間発達科学部>

日本語・日本文化に関する分野(学校教育が中心)；
教育心理学、教育学、福祉、スポーツ、環境科学、情報コミュニケーション学など
(*詳しくは人間発達科学部HP参照 富山大学HP>人間発達科学部)

<そ の 他>

日本語・日本文化に関連のある経済学部授業(経済学、経営学、経営法学)や教養教育科目も履修できる。

* 専門科目及び「日本語B」「日本事情」「異文化理解」は、
富山大学HP>キャンパスライフ>Webシラバス(授業案内)
総合日本語コースは、
富山大学HP>学部・大学院・施設>国際交流センター
にシラバスを掲載。



日本事情I「華道」



日本事情I「書道」



実地見学旅行

⑦年間行事(一般留学生対象の行事も含む)

スタディ・エクスカーション (富山の文化施設見学)
宿泊実地見学旅行

(日本の文化や歴史を学ぶ機会。各学部主催)

日本人学生による支援交流活動

(個別学習支援・交流会・パーティーなど)

学長主催パーティー

(学長を囲む、各国の研究者、留学生、国際交流関係者の集い)

この他にも地域の協力を得て、ホームステイ／ホームビジットプログラム、スキーツアー、おわら踊り・民謡・ゆかた着付・茶道体験、新春パーティー、お花見、バーベキュー大会、ボーリング大会などが実施されており、地域の人々との交流の機会も提供されている。

⑧指導体制

留学生の志望する専攻分野の指導教員と、学部の留学生担当教員及び国際交流センター教員が協力して、学業及び生活面の個別指導を行う。

⑨コースの修了要件、修了証書の発行

- 1) 所定の時間数(秋期・春期各240時間以上、合計480時間以上)を履修しているか、修了レポートを提出しているか等を当該組織が判定の上、修了証を交付する。
- 2) 受講した科目で出席・試験などの基準を満たした者には、修得した科目及び時間数を記した履修証明書を発行する。
- 3) 指導教員(人文学部又は人間発達科学部)による個人指導の中で各々の留学生の研究課題を定め、その結果を修了レポートにまとめ提出させ、修了論集として発行する。

(※過去の修了レポートの題目

富山大学HP>人文学部>国際交流>短期留学生修了論集を参照)

■宿 舎

大学には、国際交流会館がありますが、部屋数に限りがあります。国際交流会館に入居できない場合は、大学が宿舎を紹介します。(大学の周辺にはアパートがたくさんあります。)

・国際交流会館(五福)の概要

部 屋 数 : 単身室 34室

設備備品 : 電磁調理器付キッチン、バス、トイレ、

エアコン、ベッド、机、いす、冷蔵庫など

その他設備 : 居室でのインターネット接続が可能(有料)



春



夏

富山の四季



秋



冬

■修了生へのフォローアップ

・富山大学日研生 修了後のキャリアパス(一例)

☆母国の大学で日本語を教えている。

☆JETプログラム国際交流員として日本で働く。

☆富山大学大学院やその他日本の大学院に進学。

■問合せ先

担当部署 富山大学学務部学生支援課

留学支援チーム

大学所在地 〒930-8555

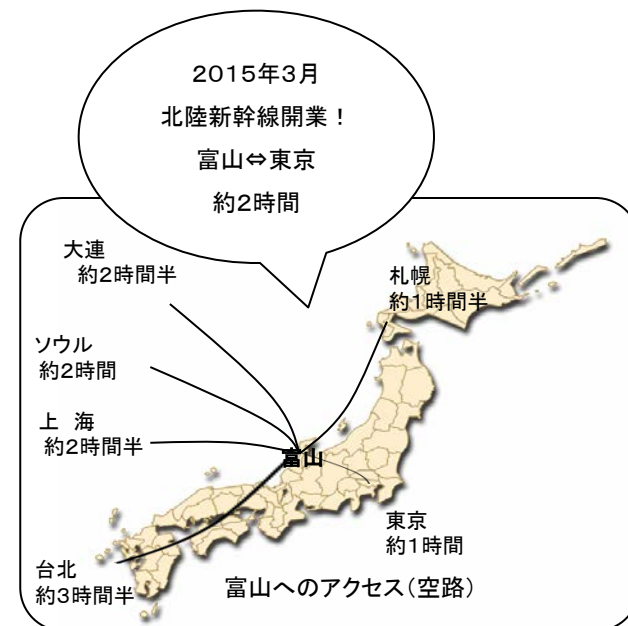
富山県富山市五福3190

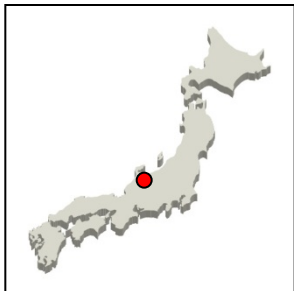
TEL : 076-445-6082

FAX : 076-445-6093

Eメール : ryugaku@adm.u-toyama.ac.jp

ホームページ : <http://www.u-toyama.ac.jp>





UNIVERSITY OF TOYAMA (Toyama)



While respecting the interests and concerns of each individual student, this program offers an opportunity for in-country study of Japanese language and culture. After receiving instruction in basic Japanese language and culture, students progress to more advanced study of language and culture alongside their Japanese peers. The curriculum is tailored to the individual needs and level of each student as we try to strike a balance between foundation and advanced classes.

■ University of Toyama Overview

① Characteristics and Outline

In October 2005, three universities (Toyama University (Established in 1949), Toyama Medical and Pharmaceutical University (Established in 1975) and Takaoka National College (Established in 1983)) were integrated into the University of Toyama, a national university with a wide range of education and research facilities.

As of May 2014, there were 9,266 students and 899 faculty and staff members. Academic exchange agreements have been drawn up with 108 universities and institutions in 27 countries (Australia, People's Republic of China, Arab Republic of Egypt, Republic of Korea, Malaysia, Russian Federation, Thailand, United Kingdom, USA, etc.). We are eager to welcome international students, and our Center for International Education and Research plays a key role in enabling us to do so.

Faculties: Faculty of Humanities,
Faculty of Human Development,
Faculty of Economics,
Faculty of Science,
Faculty of Medicine,
Faculty of Pharmaceutical Sciences,
Faculty of Engineering,
Faculty of Art and Design

Graduate schools: Graduate School of Humanities,
Graduate School of Human Development,
Graduate School of Economics,
Graduate School of Innovative Life Science,
Graduate School of Medicine and
Pharmaceutical Sciences for Education,
Graduate School of Science and Engineering for
Education
Graduate School of Art and Design

② International Exchange (as of May 2014)

University Exchange Relationships :
24 universities/institutions in 10 countries/regions

③ The Number of International Students and Japanese Studies students

2012: Total 330, Program Participants 3
2013: Total 336, Program Participants 3
2014: Total 346, Program Participants 6

④ Toyama Prefecture

Located near the geographic heart of Japan, Toyama prefecture is beautifully situated on the Japan Sea coast against the backdrop of the majestic Japan Alps. The prefecture has four distinct seasons, and the snow-covered Toyama winter landscape is particularly beautiful. Toyama abounds in interesting vestiges of old Japan including nearby Gokayama village with steep thatched-roof houses (designated a UNESCO World Heritage Site) and the folk song tradition of *Etchu Owara Bushi* which is known and associated with Toyama throughout Japan.

The university is located in Toyama City, the prefectural capital and a modern metropolis with a population of about 420,000. Hokuriku Shinkansen starts operating from March 2015. It will take about two hours between Tokyo and Toyama. Blessed with clean water and air, excellent seafood, and all manner of cultural amenities, Toyama is regarded as one of the most convenient and congenial places to live in all Japan.

■ Course Outline

① Features

International students choose from basic course offerings relating to Japanese language and culture that are designed specifically for international students, and from the wide range of more specialized course offerings, pertaining to Japanese language and culture offered through the Faculty of Humanities, Human Development, and Economics according to individual

interests and proficiency levels. International students are also paired with guidance counselors from the Faculty of Humanities and Human Development. These counselors give students individual instruction and help them select interesting research topics for their final reports.

② Maximum Number of Students

Ten students altogether, five by embassy recommendation and five by university recommendation. (Five students are admitted to the Faculty of Humanities and five to the Faculty of Human Development.)

③ Qualifications and Requirements for Admission

Students wishing to enroll in this program must meet the following requirements.

(Academic Background)

Applicants must be an undergraduate at a foreign (non-Japanese) university majoring in a field related to the Japanese language or Japanese culture at the time of arriving in and leaving Japan.

(Japanese language proficiency)

Students possessing Japanese language proficiency equivalent to N2 (or Level 2) of the Japanese Language Proficiency Test administered by the Japan Foundation and the Japan Student Services Organization is preferable.

④ Achievement Objective

• Advance a research scheme according to personally designed curriculum, and complete a report in Japanese.
• Acquire equivalent language skill of N1 (or Level 1) of Japanese Language Proficiency Test.

⑤ Term

From October 2015 to September 2016.

* Can be completed in August by taking extra classes

⑥Outline of Subjects

① Subjects

[a] Subjects relating to Japanese language and culture

Subject	hours		Description
	Fall	Spring	
Japanese B	60	60	Students improve general Japanese language proficiency. Practice includes oral presentations based on interviews and other activities.
Japanese Culture I	30		Students learn about Japanese and Toyama culture, with emphasis on Japanese art and traditional culture.
Japanese Culture II		30	Students learn about Japanese and Toyama culture, with emphasis on the natural environment and local industry.
Intercultural Understanding	30		Students compare their own cultures while studying intercultural communication.

General Japanese Language Course

Reading	60	60	Students improve their reading skills with practice reading articles, essays, and reports. Students are divided into two classes.
Grammar	30	30	Students improve their intermediate, advanced grammatical skills and expressiveness through practical exercises.
Composition	30	30	Students improve their ability to write reports in Japanese using word-processing software and computers.
Listening	30	30	Students improve listening comprehension by listening to news and television programs.

Conversation	30	30	Students hone their conversational skills through role-playing and by making oral presentations.
Kanji	30	30	Kanji lessons and practice is tailored to the level and capability of each individual Student.
Expression Skills	30	30	Students improve their formal Japanese spoken and written skills.
Japanese Culture	30	30	Students improve their power of analytical observation about contemporary Japan through various media.



Flower arranging

[b] Specialized Courses (classes for ordinary students)

Students choose from a wide range of specialized courses offered by each department. Here we provide an overview of some of the more specialized course offerings pertaining to Japanese language and culture that are available through each department.

<Faculty of Humanities> Courses pertaining to Japanese language and culture include Human Sciences, Linguistics, Japanese as a Foreign Language, Japanese History, Cultural Anthropology, International Relations, International Cultural Studies, Japanese Language, and Japanese Literature. (Visit the Faculty of Humanities website for details at University of Toyama HP>Faculty of Humanities)

<Faculty of Human Development> Courses pertaining to Japanese language and culture include Educational Psychology, Pedagogy, Welfare, Sports, Environmental Science, Information Communication Theory, etc (Visit the Faculty of Human Development website for details at University of Toyama HP>Faculty of Human Development).

<Courses in Other Faculties> In addition, international students may also take classes pertaining to Japanese language and culture offered through the Faculty of Economics (Economics, Business Administration, and Business Law), and other liberal arts education subjects taught at the university.

* Syllabus for Specialized Courses, the *Japanese B*, the *Japanese Culture* and the *Intercultural Understanding* are available at

University of Toyama HP>International Students>Web syllabus (Only in Japanese)

The syllabus for the *General Japanese Language Course* is available at

University of Toyama HP>International Admissions>Center for International Education and Research

⑦Field Trips and Events

Many field trips and events are offered, including events organized and arranged especially for the international students. There are study trips to culturally significant Toyama sites, and overnight trips providing opportunities to learn about Japanese culture and history sponsored by the relevant departments. There are many support and exchange activities organized by the Japanese students (small individual study groups, exchange get-togethers, and parties), including an always well-attended party sponsored by the President of the university that provides an opportunity for researchers from around the globe and international students to get together and chat with the President.

Our students also have numerous opportunities to meet and interact with local people through home stay and home visit programs, and through the many cultural and recreational activities that are offered. These include ski tours, the famous Toyama summer *Owara* folk festival with singing and dancing and the opportunity to wear the informal summer *yukata*. Students can experience a genuine tea ceremony, New Year's parties, cherry-blossom viewing in the spring, barbecues, bowling, and many other activities.

⑧Counseling Support System

Guidance counselors in the student's area of study, in the department through which the class is offered, and in the Center for International Education and Research work together to provide students with individual guidance regarding both academic and non-academic concerns.

⑨Certificate of Completion and Credit Transfer

1) After the judgment, students who complete the required 480 hours (240 hours each semester) and submit a final report are issued a Certificate of Completion.

2) Students who satisfy the attendance, testing, and other requirements of the University of Toyama program are issued a Certificate of Completion detailing the subjects and number of classes completed.

3) Guidance counselors with the Faculty of Humanities and Faculty of Human Development work together on a one-to-one basis with international students to help them select an interesting research topic to address in their final reports.

These final reports are compiled as a collection of final papers. The titles of former reports can be perused online at University of Toyama HP>Faculty of Humanities>International Exchange> Journals of Study by Short-term International Students

■Housing

University of Toyama has an accommodation facility for International students, International House on its campus. In case the number of vacant rooms is not enough to accommodate all of prospective students, at the university Coop the list of real estate agents for the apartment houses and flats in the campus neighborhood is available, and also the university staff will assist students so that they may make a smooth transition.

The International House (Gofuku) has 34 individual rooms. The lodgings cost 5,900 yen monthly. The room has a bathroom and a kitchen with a cooker and refrigerator. Moreover, the room has a heater/ air conditioner, bed, table, and chair. Each room also has a dedicated Internet connection. An application and monthly charge are required for the use.



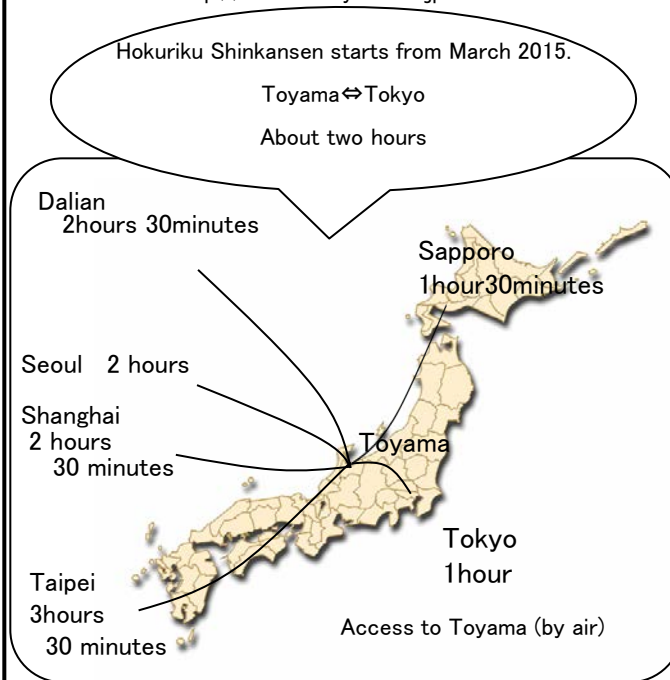
■Follow-up for the Graduates

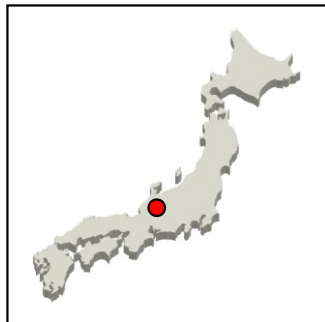
• Examples of the Japanese Studies Program students after completion of the program

- ☆Teach Japanese in their country
- ☆Work as a coordinator for JET Program
- ☆Proceed study at Graduate School in University of Toyama or other Academic facility in Japan.

■For further information, please contact

Study-Aboard Support Team, Student Support Division, Student and Academic Affairs Department, University of Toyama
3190 Gofuku, Toyama 930 – 8555, Japan
Tel: +81- 76 – 445 – 6082, Fax: +81- 76 – 445 – 6093
E-mail: ryugaku@adm.u-toyama.ac.jp
Website: <http://www.u-toyama.ac.jp>





金沢大学 (石川県)



日本社会・文化の研究、日本伝統文化体験、日本人学生との合同調査などの「日本探求」を通した実践的日本語力が習得できます。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在 3 学域、16 学類（(1) 人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類、(2) 理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、電子情報学類、環境デザイン学類、自然システム学類、(3) 医薬保健学域：医学類、薬学類、創薬科学類、保健学類）及び、5 研究科（教育学研究科、人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、法務研究科）から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。

2) 教員・学生数等 (2014年5月1日現在)

【教員数】989名、【学生数】10,538名(学域・学部生：7,932名、大学院生：2,369名、その他、非正規生：237名)

② 国際交流の実績 (2014年5月1日現在)

交流協定校数：192機関(40ヶ国、1地域)
大学間交流協定：134機関(35ヶ国、1地域)
部局間交流協定：58機関(19ヶ国、1地域)
留学生在籍数：495名

日本語・日本文化研修生合計受け入れ数：261名（平成26年度受入れの20期生を含みます）

③ 過去3年間の日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

	受入れ実数
2014年度	17名（大使館推薦4名、大学推薦11名、私費2名）
2013年度	19名（大使館推薦5名、大学推薦12名、私費2名）
2012年度	20名（大使館推薦5名、大学推薦11名、私費4名）

④ 地域の特色

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本的な雰囲気を感じ、四季の移ろいを実感できる街です。

■コースの概要

① コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは参加学生の日本語能力の向上、及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

② 受入定員

15名（大使館推薦：5名、大学推薦：10名）

③ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者となります。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力（日本語能力試験N2合格程度）を有し、平易な文章の読み書きができる者

所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

学年：海外の大学において3、4年次に在学中の者

学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

④ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指します。

⑤ 研修期間

2015年10月1日～2016年8月31日

授業期間：

10月～2月（秋学期）、4月～7月（春学期）

修了研究（発表練習、レポート作成）期間：

8月1日～8月31日

修了式は8月末を予定

⑥ 研修科目の概要

本プログラムの構成は次のとおりです。なお、1科目は15回（1回90分）の講義から成ります。

必修授業科目	授業時間数		
	秋学期	春学期	合計
日本語	90	90	180
技能別日本語	30	30	60
漢字	30	30	60
日本文化演習Ⅰ	30	30	60
日本文化演習Ⅱ	30	30	60
日本文化体験実習	30	選択	30
調査実習	30	選択	30
修了研究演習	30	30	60
修了研究レポート及び研究発表	-	60	60
合計	300	300	600

＜必修科目＞

1) 日本文化科目(各学期開講)

本プログラム専用の日本文化科目として日本文演習Ⅰ、Ⅱ及び日本文化体験実習の3科目を開講しています。これらの授業科目は日本社会・文化について総合的に学習しながら、直接日本文化に触れることにより、日本に対する自らの見方を形成する機会を与えることを目的としたものです。

(a) 日本文化演習Ⅰ

日本文化演習Ⅰでは、社会、生活、政治、経済、教育、ジェンダー、若者の文化等の観点から日本社会・文化について概観します。現代日本社会の有り方を考察しつつ、それを手掛かりに自国の社会や「自己」そのものの客観的な捉え方を試みます。学内外の専門家が日本文化の諸局面について講義を行う形で授業を構成しています。

(b) 日本文化演習Ⅱ

この科目は前述の日本文化演習Ⅰと連結する形で構成しています。日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、演習形式による発表・ディスカッションを行います。演習Ⅰがインプットであることに対し、演習Ⅱはアウトプットに相当することから、演習Ⅰで習得した知見をもとに、「自己」への理解、および日本社会の構造、諸問題についての理解を深めることを目的とします。

(c) 日本文化体験実習(秋学期必修科目、春学期選択科目)

金沢の豊かな伝統文化を直接体験することや実地見学を通して現代日本社会について学ぶことがこの授業の目的です。各分野の第一線で活躍している芸術家・伝統工芸職人に学びながら、その人生観や生き方に触れる貴重な機会を設けています。地域の協力の下、九谷焼体験、輪島塗・蒔絵体験、加賀友禅体験、紙漉き体験、金箔工芸体験、加賀料理体験、和菓子作り体験、茶道体験、坐禅体験、華道体験、琴弾き体験、能楽体験、俳句作り、古い町並み散策、学校訪問、工場見学等の体験を予定しています。

2) 調査実習(秋学期必修科目、春学期選択科目)

日本人学生と合同で少グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。研究方法論を段階的に学びながら、その実践によって研究を進めていきます。実習や訓練を通して、研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得を目指します。また、日本人学生とのインタビュー調査や討論会なども行います。このような日本人学生との共同学習を通して、より日常的なレベルにおける日本社会に対する理解を深め、それと同時に自国文化の再確認を試みます。この授業は金沢大学の日本人学生との国際交流も主眼においた学生参加型授業です。

3) 修了研究演習(各学期開講)

この授業科目は各自の修了研究に対する個別指導を行うために開講しています。調査実習科目で学んだ研究方法論を応用して、個人の修了研究を段階的に進めながら、定期的に報告を行います。

4) 修了研究レポート及び研究発表(春学期開講)

参加学生は日本に関わるテーマについて、1年間に渡って研究を行い、プログラム終了時に15分間の口頭研究発表を行い、同テーマについてA4用紙15枚以上のレポートを作成し、提出しなければなりません。大学院進学ステップとなるようなオリジナリティーのある卒業論文相当の研究が要求されます。なお、中間発表会を行うために4月初旬に合宿を行います。

5) 日本語科目(各学期5コマ必修)

日本語科目は、金沢大学留学生センター総合日本語プログラムで開講されている授業を履修し、それぞれのレベルに応じて、他の留学生と共に受講します。日本語・日本文化研修生はD～Fレベルのクラスを受講することが最も一般的です。メインコースに加えて、漢字及び技能別日本語の授業を履修します。技能別日本語は読解、聴解、作文及びアカデミック・ライティング、口頭発表、日本人学生との討論等の科目が用意されており、その中で各学生のレベルに合ったものを1学期1つ、ないし2つ履修します。

＜選択科目＞

1) 正規授業科目の履修

それぞれの専攻に関連する関心のあるテーマについて、担当教員の許可を得て、日本人学生向けに開講している一般授業科目の履修が可能です。各学期の初めに一般授業科目履修ガイダンスを行います。

＜見学・地域交流等＞ (課外活動)

1) 日本文化体験及び実地見学旅行等の行事

日本文化体験実習の一環として実施する16種類の文化体験及び実地研修の他、プログラムの行事として和服体験、陶芸体験、キリコ祭り参加・能登巡り等を行います。また、他の留学生との合同企画としての研修旅行等にも参加できます。

2) 里親交流プログラム

本プログラムの一環として、1年間に渡って各学生が地域の里親家族と交流を行う「里親交流プログラム」を実施しています。このプログラムでは全体の行事として対面式、文化祭参加、日本料理教室、日帰りバス旅行、各国料理会などを行います。里親との交流を通じて、日本の家庭生活を直接体験しながら、日本人のものの見方・考え方を知ることができま



加賀友禅体験



スキー研修



授業の様子



能登の祭り

⑦ 行事

- 10月 開講式
里親対面式
能登研修旅行
- 12月 里親とのバス旅行
- 2月 修了研究構想発表会
- 4月 中間発表合宿
- 8月 修了研究発表会
能登の祭り参加
修了式

⑧ 指導体制

指導教員：

- 山本 洋 (国際機構留学生センター・准教授,
専門：歴史学, 文学)
- 峯 正志 (国際機構留学生センター・教授,
専門：言語学)

本プログラムの参加学生は留学生センターに所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及びレポート作成指導を定期的に個別・全体の両レベルにおいて実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格、並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及びレポート提出が修了要件です。本研修プログラム修了者に修了証書を授与します。また、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。

■ 宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。

1) 金沢大学国際交流会館

(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

■修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、例年半数程度が本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学している。その他、母国で通訳や日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いている。

◇ 問い合わせ先

金沢大学国際機構支援室留学生係

〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL：+81-76-264-5293

FAX：+81-76-234-4043

E-mail: st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学ホームページ

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

金沢大学留学生センターホームページ

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

日研ホームページ

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/jp/program/nikken/>

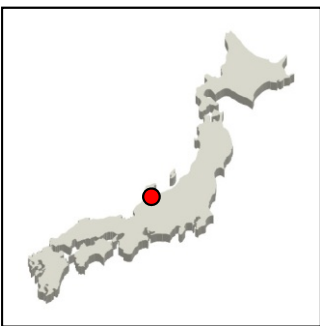
指導教員連絡先 E-mail:

yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

mmine@staff.kanazawa-u.ac.jp



兼六園



KANAZAWA UNIVERSITY (ISHIKAWA PREFECTURE)



ACQUISITION OF JAPANESE LANGUAGE PROFICIENCY THROUGH INDIVIDUAL RESEARCH, JOINT STUDIES AND HANDS-ON EXPERIENCES WITH JAPANESE SOCIETY AND CULTURE

◇ University Overview

① Outline of Kanazawa University

1) History and Features

Kanazawa University was founded in 1949 as one of the new national universities, by uniting and reorganizing eight of the high education institutions then in operation, including Kanazawa Medical College, which dates back to 1862. The university has continued to expand since, and now has a total of 3 colleges and 16 schools on its two campuses (Kakuma and Takaramachi): (1) College of Human and Social Sciences consisting of the School of Humanities, School of Law, School of Economics, School of Teacher Education, School of Regional Development Studies and School of International Studies, (2) College of Science and Engineering consisting of the School of Mathematics and Physics, School of Chemistry, School of Mechanical Engineering, School of Electrical and Computer Engineering, School of Environmental Design and School of Natural System, (3) College of Medical, Pharmaceutical and Human Sciences consisting of the School of Medicine, School of Pharmacy, School of Pharmaceutical Sciences and School of Health Sciences. It also has five graduate schools offering degrees in Education, Medical Science, Human and Socio-Environmental Studies, Natural Science and Technology and Law.

2) Number of Academic Staff and Students

(As of May 1, 2014)

【Number of Academic Staff】: 989

【Number of Students】: 10,538

(Undergraduate: 7,932, Graduate: 2,369,
Other and Non-degree: 237)

② International Links (As of May 1, 2014)

Partner Institutions: 174 (40 countries, 1 region)

;University-Level: 134, Department-Level: 58,

Number of international students: 495

Total number of Japanese Language and Culture Program students accepted: 261 (including students of year 2014)

③ Number of Japanese Language and Culture Program students

	Accepted students
2014	17 (Embassy nominees:4, University nominees:11, Non-scholarship students:2)
2013	19 (Embassy nominees:5, University nominees:12, Non-scholarship students:2)
2012	20 (Embassy nominees:5, University nominees:11, Non-scholarship students:4)

④ Features of the city

Kanazawa is one of the largest cities on the Japan Sea coast, which still retains the calm atmosphere of an old castle town through its old architecture and rich traditional culture. It is well known for its traditional arts and crafts, classical performing arts and for the famous Japanese garden at Kenrokuen. The four seasons adorn Kanazawa, with the surrounding sea and mountains further emphasizing its natural beauty.

◇ Program Outline

Name of the Program: Japanese Language and Culture Program, Kanazawa University

① Unique aspects of the course

This program aims to provide students from overseas with an opportunity to improve their proficiency in Japanese language and to deepen their understanding of Japanese culture and society. It is a one year program conducted solely in Japanese.

② Number of Students to be accepted : 15

(Embassy nominees:5, University nominees:10)

③ Qualifications and Requirements for Application

Applicants must satisfy the following conditions:

(1) Applicants must have sufficient Japanese language ability to converse, read and write basic Japanese (a level equal to that of Japanese Language Proficiency Test Level N2).

(2) Applicants should be majoring in a field relevant to Japanese language or culture in their home university.

(3) Applicants must be a junior or a senior student at their home university.

(4) Applicants should be prepared to devote themselves to studies of this program throughout the year. Enthusiasm regarding research work and class participation is a must.

④ Aim of the Course

Students should strive to master their field of research and have an aptitude in Japanese equivalent to N1 at the completion of their stay.

⑤ Course Duration

From October 1, 2015 to August 31, 2016 (including the independent research period)

Semesters : October – February (Autumn Semester)

April – July (Spring Semester)

Oral Presentation Practice and Report Writing Period :
August 1 – August 31

⑥ Outline of Courses Offered

(length of 1 course = 15 weeks, length of one lecture = 90minutes)

COMPULSORY COURSES	Class Hours		
	Autumn	Spring	Total
Japanese	90	90	180
Specific Skills in Japanese	30	30	60
Kanji	30	30	60
Japanese Culture Seminar I	30	30	60
Japanese Culture Seminar II	30	30	60
Workshop on Japanese Culture Seminar	30	Elective	30
Survey and Training Seminar	30	Elective	30
Completion Research Seminar	30	–	60
Completion Research Paper and Presentation	–	60	60
Total	300	300	600

[Compulsory Courses]

1) Japanese Culture Courses

(a) Japanese Culture Seminar I (Autumn and Spring)

This course provides the students with a general view of Japanese society and culture, ranging from politics, economics, education and gender issues to the youth culture of today. Lessons take the form of lectures given by specialists from each respective field.

This course aims to not only provide students with firsthand knowledge of present day Japan, but also to have them attain an objective view of society at large which would be applicable to their own countries of origin and, also, to themselves as members of those societies.

Since each section consists of a presentation session followed by a debate, active class participation is a prerequisite.

(b) Japanese Culture Seminar II (Autumn and Spring)

This course is linked with the Japanese Culture Seminar I. It consists of presentations and discussions centered around each of the themes presented by the previous seminars.

The goal of the course is to deepen students' understanding of the composition of Japanese society and the various social issues that affect it. Whereas the initial Culture classes are intended to impart the necessary information to the students, this second stage is geared towards solidifying this knowledge on a more personal basis. Namely, by shaping it through the own personal beliefs and cultural background of each student during discourse with other class members.

(c) Workshop in Japanese Culture

(Autumn: Compulsory, Spring: Elective)

This course provides students with 'hands-on' experiences with Japanese culture. Students will have the opportunity to learn from experts in each respective field, who have devoted their lives to the perfection of their skills, and to give the students a glimpse at the philosophy governing their lives. Through experiencing Kutani pottery, Makie art of Wajima lacquer ware, Kaga Yuzen silk-dyeing, Japanese paper craft, gold leaf, traditional Kaga cuisine and the making of Japanese rice cakes, tea ceremony, Ikebana, Zen meditation, Noh drama, Koto, Haiku poetry, visits to Japanese schools and ateliers etc. students will hopefully acquire a firsthand knowledge of the culture.

2) Survey and Training Seminar

(Autumn: Compulsory, Spring: Elective)

Students will conduct joint research relating to the Japanese language or culture, in mixed groups with Japanese students. Guidance is provided on research methodology and on improving presentation skills. Furthermore, interview surveys will be held with Japanese students leading up to discussions on current issues. Through joint surveys and research projects, this course aims to enhance the level of international exchange with the Japanese students.

3) Completion Research Seminar (Autumn and Spring)

Students will give presentations on a regular basis on their own research topics, in accordance with a set research plan enabling them to conduct their research step by step.

4) Completion Research Paper and Presentation (Spring only)

Students are required to conduct a research paper on a topic concerning Japan and to give a 15 minute-oral presentation along with submitting a 15 A-4 sized research paper on the same topic for the completion of the program. Guidance on research methodology will be given in the Survey and Training seminar in addition to individual advice given at the Completion Research seminar. The final oral presentation on students' respective topics will be held in August.

Furthermore, a two day camping trip will be held during early April where each student will give an interim report on their respective research.

5) Japanese Language Course (5 classes per week)

Students will take Japanese courses offered by the Integrated Japanese Language Program with other international students according to their levels. In most cases, students of this program are assigned to D, E or F levels and they are required to take comprehensive classes and Kanji class.

Also, they will choose one or two classes from skill-specific classes including reading, writing/academic writing, oral presentation and discussion.

[Elective Courses]

1) Courses offered by other faculties

In addition to the aforementioned compulsory courses, students are encouraged to take courses related to their field of research regularly offered by various faculties to the Japanese students. At the beginning of each semester guidance will be given on the registration procedures for these courses.



Festival in Noto



Class



KagaYuzensilk-dyeing



Skiing in Hakusan

[Field Trip and Cultural Exchange] (Extra-curricular)

1) Cultural Activities and Field Trips

In addition to cultural activities conducted as part of the Workshop in Japanese Culture, dressing up in kimono, Noh theater, calligraphy, pottery, participation in festivals, bus trips with Sato-oya families, etc. are arranged.

2) Exchange Activities with Sato-oya Families

Each Student will be introduced to a Japanese family who will serve as his/her 'Kanazawa Family' throughout the year. This program enables students to view Japanese lifestyle from an insider's perspective, and experience Japanese ways of thinking.

⑦ Events

October: Opening Ceremony

Meeting with Sato-oya,

Field Trip to Noto

December: Bus Trip with Sato-oya

February: Presentation of Research Plan

April: Interim Presentation Camp

August: Oral Presentation of Completion Research

Trip to Festivals in Noto

Closing Ceremony

⑧ Advisory System

Hiroshi Yamamoto

(Associate Professor, International Student Center,
Organization of Global Affairs, specialty : History, literature)

Masashi Mine

(Professor, International Student Center, Organization of
Global Affairs, specialty : Linguistics)

Supporting Academic Staff: 30 (Japanese teaching staff and
members of other faculties giving lectures in Culture
Seminars)

The chief coordinator of the program serves as the academic
supervisor and provides the students with guidance and
academic advice on carrying out their respective research,
preparing for presentations and writing their reports.

Assistance of faculty members from the College of Human
and Social Sciences might be obtained in giving academic
advice on certain research topics. Individual guidance is also
provided on selecting elective courses each semester.

The chief coordinator of the program can provide the
students with advice on student life. Furthermore, they are
able to use the counseling system available to all international
students.

⑨ Conditions for Completion of the program, and Completion Certificates

In order to complete the program successfully, students must
pass all compulsory courses, give a public oral presentation at
the end of the program on their respective research topics,
and submit a research paper on the same topic.

A completion certificate will be issued to those who have
successfully fulfilled the aforementioned conditions. In addition
to this certificate, students will be provided with an academic
transcript in which their grades for Japanese Language
classes and compulsory courses of the program and other
courses taken will be recorded.

◇ Follow-up

Every year, after obtaining a degree at their home universities,
about half of the students who have completed this program
come back to Japan and enroll in a graduate school of
Kanazawa University or other universities. Also, most of the
other students find a job as a translator or as an employee in
a Japanese company.

◇ Accommodation

Students will stay in one of the two accommodation
facilities given below.

1) Kanazawa University International House

Located within the campus, accommodating
international students and researchers studying at
Kanazawa University (only single rooms are
available).

Rent and Utility fees : Approx. ¥30,000

2) Kanazawa University Student/International Student Dormitory "SAKIGAKE"

Located within the campus, accommodating
international students and researchers studying at
Kanazawa University (only single rooms are
available).

Rent and Utility fees : Approx. ¥30,000

◇ Contacts

Kanazawa University, International Student Section,
Global Affairs Support Office

Address: Kakuma-machi, Kanazawa 920-1192, Japan

TEL : +81-76-264-5293

FAX : +81-76-234-4043

E-mail: st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

Kanazawa University Homepage

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/e>

Kanazawa University International Student
Center Homepage

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg>

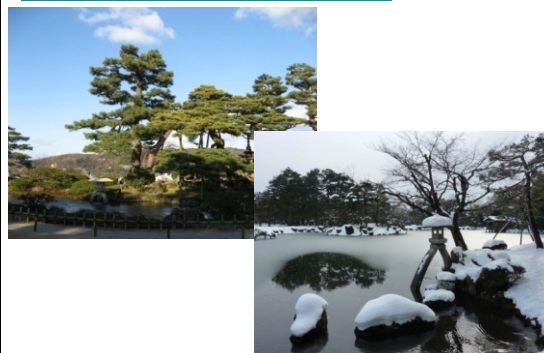
NIKKEN Homepage

<http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/eg/program/nikken/>

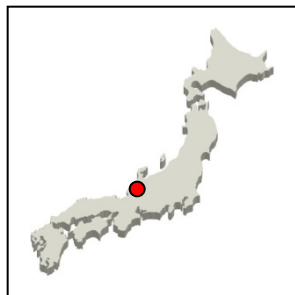
E-mail Address of the Program Coordinators:

yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

mmine@staff.kanazawa-u.ac.jp



Kenroku-en Garden



福井大学 (福井県)



充実した個別指導と学生のニーズに即したカリキュラムの作成

■大学紹介

① 大学の特色および概要

1) 概要

福井大学は、教育地域科学部、医学部、工学部の3学部、及び大学院教育学研究科、大学院医学系研究科、大学院工学研究科の3研究科からなる。教育地域科学部は、学校教育・地域科学の2課程、医学部は2学科、工学部は8学科。

2) 教員・学生数(2014年5月時点)

学生数	学部生	4,133名
	大学院生	935名
教員数		545名

② 国際交流の実績(2014年10月時点)

留学生在籍数	: 196名(26カ国)
学術交流協定数	: 68



【文京キャンパス】

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2014年	留学生数	196人	日本語・日本文化研修留学生数	3人
2013年	留学生数	190人	日本語・日本文化研修留学生数	1人
2012年	留学生数	197人	日本語・日本文化研修留学生数	1人

④ 福井市の特色

福井市は、日本のほぼ中央に位置し、美しい自然と豊かな文化遺産に恵まれたところである。日本海に面し、古くは大陸諸国と都を結ぶ玄関口として重要な位置を占め、その長い歴史と伝統、そして四季折々の変化に富んだ美しい自然は、日本の典型的な風情を漂わせている。

■コースの概要

① コースの特色

- ・日本語能力を向上させ、日本文化について理解を深めることを目的とする。
- ・本学の他のクラスの留学生や日本人学生と同じように共通教育科目及び専門科目に出席し、単位の取得を目指す。
- ・各期7科目受講すること。
- ・授業科目：日本語・日本文化研修留学生のための特別な授業科目はない。

② 受入定員

5名(大使館推薦3名、大学推薦2名)

③ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望するには、以下の条件を満たすことが望ましい。

1) 日本語能力

- ・日本語能力検定試験N2以上

2) 日本研究学習歴、専攻

- ・日本語・日本文化・教育などに関心があること。
- ・関心のある分野での研究学習歴があること。

④ 達成目標

コース修了時には、日本語能力検定試験N1程度の能力を有することを目指す。

⑤ 研修期間

2015年10月1日～2016年9月30日

⑥ 研修科目の概要

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。

1) 必須科目

【日本事情A「日本語と文化」（春期）】

（2単位/30時間）

日本社会の現状（生活、少子高齢化、等）について述べられた文章（日本語）を読み、その大意を理解し（読む力）、テーマについて意見を述べ（話す力）、かつ意見文を書く（書く力）という3つの能力の向上に努めることによって、日本社会に関する教養を深める。

【日本事情B「社会と文化」（秋期）】

（2単位/30時間）

日本社会の現状（企業と労働、科学技術と人間、等）について述べられた文章（日本語）を読み、その大意を理解し（読む力）、テーマについて意見を述べ（話す力）、かつ意見文を書く（書く力）という3つの能力の向上に努めることによって、日本社会に関する教養を深める。

2) 選択科目

【日本語A（中級）】（2単位/30時間）

大学の専門科目の授業で要求されるレポート執筆に必要な語彙・表現を学び、論旨の明確な文章を書くことができるようになる。

【日本語B（中級）】（2単位/30時間）

日本語初級修了者が中級の作文ができるようにする。特に、「は」と「が」を使い分けた物語を書けるようにする。

【日本語C（中級）】（2単位/30時間）

日本語初級修了者が文法知識の拡充を図り、会話や作文に応用できるようにする。

【日本語D（中級）】（2単位/30時間）

日本人同士が実際に話している会話が聞き取れるようになること、そして、自然な日本語が話せるようになることを目標とする。

【日本語E（上級）】（2単位/30時間）

日本語で書かれた著名な小説、エッセイ、評論文など、内容のあるまとまった分量の読み物を読んで、読解する能力を養うことを目的とする。

【日本語F（上級）】（2単位/30時間）

新聞記事や雑誌、ネット上の書き込み、ニュースなど、生の日本語教材の読解を行い、それについて自分の意見をまとめて書くあるいは話す訓練を行う。特に、予測して読む技術を習得し、効率よく読めるようになることを目標とする。

【日本語G（上級）】（2単位/30時間）

話し言葉による表現技術として、スピーチとプレゼンテーションをとりあげ、演習を行う。プレゼンテーションではパワーポイントを用了発表を行う。

【日本語H（上級）】（2単位/30時間）

読解を通じて、文法知識や場面に応じた適切な表現を身につけられるようにする。

【応用日本語Ⅰ（上級）】（2単位/30時間）

日本経済新聞掲載シリーズ「仕事常識」欄を通して、日本企業における職場マナーを学ぶ。また、それを通して、現代日本の社会文化を理解する視点を養う、と共に語彙力、理解力、表現力の向上を図る。

【応用日本語Ⅱ（上級）】（2単位/30時間）

最近の代表的な恋愛テレビドラマを通して、日本の社会、精神風土を理解すると同時に、微妙な気持ちの表現方法を学ぶ。また、教科書で学んだ日本語の応用形である、短縮形、短縮表現、音便等の理解運用力を養う。

【日本の文化】（2単位/30時間）

この授業では日本家庭にホームステイした留学生が巻き起こす出来事を描いたマンガを通して、日本人の考え方や季節感、現代日本の家族関係など、日本についての理解を深める。

【多文化コミュニケーションA・B・C】

（2単位/30時間）

国境を越えて多面的な交流が進むグローバル化時代には、異なる価値観や世界観を互いに理解し、認め合い、互いが協力して諸問題を解決し、仕事を組み立てられる人材が求められる。このクラスでは、その基礎となる力を育む。

【共通教育科目・専門科目】

本人の希望により、教育地域科学部の授業科目の中から適宜受講できる。

⑦ 年間行事

留学生向けに、スキー旅行（1～2月）、キャンプ（8月）、見学旅行（12月）を実施（2013・2014年実績）。

地方自治体や民間団体主催の見学会等も各種実施されている。



【スキー旅行】

⑧ 指導体制

1) プログラム実施委員

教育地域科学部留学生委員会委員および国際交流センター教員

2) 指導体制

留学生一人一人に教育地域科学部の受入教員をつけ、生活面においては国際課が支援する。

⑨ コースの修了要件

必修科目2科目、選択科目8科目を含む20単位以上を修得すること。

■宿 舎

留学生会館

○部屋数 29室（単身用：25，夫婦用：2，家族用：2）

○宿舎費月額

単身用：8,900円，夫婦用：11,900円，家族用：14,200円

（水道光熱費、洗濯機使用料含まず）

（インターネット使用の場合別途契約）

○宿舎設備・備品

ミニキッチン、ユニットバス、トイレ、机、イス、ベッド、冷蔵庫、本棚、スタンド、空調機等

国際交流学生宿舎

○部屋数 209室（日本人学生との混住）

○宿舎費月額

単身用のみ：5,700円（共益費込）

（水道・電気料、洗濯機使用料含まず）

（インターネット使用の場合別途契約）

○宿舎設備・備品

ミニキッチン、トイレ、机、イス、ベッド、冷蔵庫、本棚、空調機等

○共用設備

シャワー、洗濯機、乾燥機（各1回100円）

宿舎周辺の生活情報・通学時間

キャンパスまでは歩いて5分。周辺には、電車の駅や、スーパーマーケット等がある。

大学宿舎の入居期間は1年のみ。

空室が少ないため、希望者全員が入居できるとは限らない。入居できない場合は民間アパートに入居。その費用については、各自負担。

（参考：市内のアパート家賃月額 30,000～40,000円）

■修了生へのフォローアップ

本学では、留学生同窓会をアジアを中心に現在までに13支部を設立し、各国支部と連携している。

その活動を推進するために、国際交流センターネットワーク誌「こころねっと」を発行し、帰国留学生と情報交換を行っている。

■問合せ先

（担当部署）

福井大学学務部国際課

住所 〒910-8507

福井県福井市文京3丁目9番1号

TEL +81-776-27-8406（直通）

FAX +81-776-27-9715

E-mail grryugaku-k@ad.u-fukui.ac.jp

福井大学国際交流センターホームページ

<http://ryugaku.isc.u-fukui.ac.jp/>

福井大学ホームページ

<http://www.u-fukui.ac.jp/>